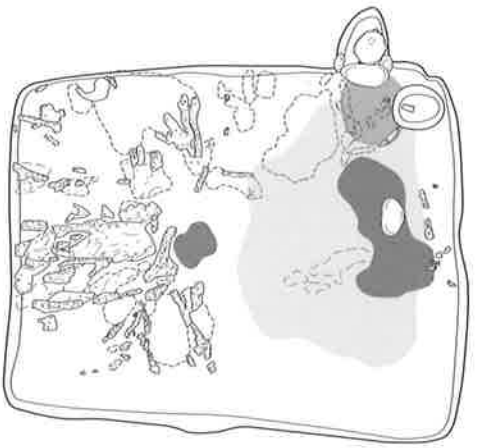
朝倉伊勢西No.1遺跡

（都）江田天川大島線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



多くの炭化材が見つかった
H-15号住居跡

２０１１．１０

前橋市教育委員会

調査区全景（上が西、撮影２回分を合成）

1区H－15炭化材検出状況（北西から）

2区近景（西から）

はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ずることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する朝倉伊勢西№１遺跡は市の南東部に位置し、江田天川大島線道路改良工事に伴う発掘調査です。調査の結果、平安時代の集落跡をはじめ、堀や水路などの水利施設が発見されました。また、この水路と関連する水田跡も発見されており、前橋台地に広く展開する貴重な条里制遺構の一部です。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、道路建設課をはじめ、技研および各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成23年10月

前橋市教育委員会
教育長　佐　藤　博　之

例　言

1　本報告書は都市計画道路江田天川大島線道路改良工事に伴う朝倉伊勢西 No. 1 遺跡発掘報告書である。

2　発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	朝倉伊勢西 No. 1 遺跡
調査場所	前橋市朝倉町 147、159、160 番
遺跡コード	22 G 71
発掘・整理担当者	山田誠司（技研測量設計株式会社）
発掘調査期間	平成 22 年 12 月 24 日～平成 23 年 3 月 15 日
整理・報告書作成期間	平成 23 年 7 月 14 日～平成 23 年 10 月 31 日

3　本書の原稿執筆はⅠを福田貫之（前橋市教育委員会）、他を山田が担当した。

4　本書の編集は前田和昭（技研測量設計株式会社）が担当した。また、出土遺物の整理・分類作業は佐野良平（技研測量設計株式会社）が担当した。

5　発掘調査、及び整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子　中村岳彦　丸山和浩　坂田裕之　（以上、技研測量設計株式会社）

石川輝子　内嶋勝義　女屋みどり　木暮孝一　佐藤和彦　佐藤文江　須藤香織　関口勝司　高橋一巳　瀧澤佳子　竹澤賢司　田部井美砂子　角田耕二　長岡　保　中嶋知恵子　長田友香　福島禄子　三原一重　矢内朝夫　矢内司郎　矢内ヒロ子　湯浅澄子

6　プラントオパールの分析はパリノ・サーヴェイ株式会社（管理・現地試料採取：千葉博俊　試料分析：馬場健司）に依頼した。

7　発掘調査で出土した遺物および図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

8　下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（順不同、敬称略）

山下工業株式会社

凡　例

1　本遺跡におけるグリッドの座標値は、国家座標（座標第Ⅸ系：日本測地系）を基準として、任意グリッドを設定した。なお、図中の方位北は座標北を示す。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、竪穴住居跡：H、掘立柱建物跡：B、溝：W、土坑：D、ピット：P、その他：Xである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。それ以外のものについては図版下部にスケールを示した。

遺構　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝・土坑・ピット・その他・・・1/60　竈・・・1/30　溝・・・1/100

全体図・・・1/200

遺物　土器・石製品・・・1/1、1/3、1/4

5　各種計測値は、遺構に関するものは単位をメートル（m）、遺物に関するものは単位をセンチメートル（cm）とし、遺構の重複、削平等により不明な場合、または遺物の破損状況により不明な場合は残存値として（　）を付している。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構　焼土範囲：　灰範囲：　粘土範囲：

遺物　須恵器（還元焔）：　灰釉陶器：　油煙・煤：　石器磨面：

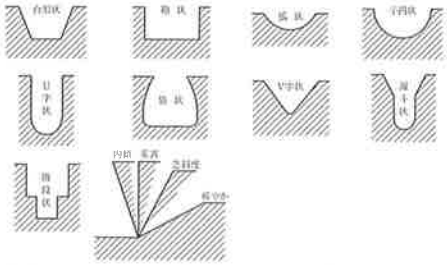
7　遺物写真図版の倍率は基本的に１／４に近づけるようにし、大型の遺物は１／６、小型の遺物は１／１に近づけるように撮影を行った。

8　Tab. 1・3に用いた遺構の平面および断面形状の分類基準は以下のとおりである。

平面

平　面	
円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	長径が短径の1.5倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。ただし、おおよその形状がわかるものは、不整円形、不整楕円形、不整長円形、不整長方形、不整方形と呼ぶこともある。

断面



断　面	
台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
袋状	確認面の径よりも底部の径が大きく、内傾した後に垂直ないしは外傾して立ち上がるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。広い中段(テラス)を持つものを含める。
U字状	確認面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。

『和泉A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査事業団 1999、『越切遺跡II』伊勢崎市教育委員会 2007、『上滝名遺跡VI』伊勢崎市教育委員会 2008より作成

9　本書における主な火山噴出物の表記は以下の略称を用いた。

浅間Ａ軽石（As-A 軽石）－天明３年（1783）浅間山噴出による降下テフラ

浅間粕川テフラ（As-Kk）－大治３年（1128）浅間山噴出による降下テフラ

浅間Ｂ軽石（As-B 軽石）－天仁元年（1108）浅間山噴出による降下テフラ

榛名山二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP）－６世紀中葉の榛名山二ッ岳噴出による降下テフラ

榛名山二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA）－６世紀初頭の榛名山二ッ岳噴出による降下テフラ

浅間Ｃ軽石（As-C 軽石）－３世紀後葉～４世紀初頭の浅間山噴出による降下テフラ

目　次

巻頭図版１
巻頭図版２
はじめに
例言・凡例
目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の位置と環境……2
　１　遺跡の位置……2
　２　歴史的環境……2
Ⅲ　調査の方針と経過……4
　１　調査範囲と基本方針……4
　２　調査経過……4
Ⅳ　基本層序……5
Ⅴ　遺構と遺物……12
　１　１区……12
　（１）竪穴住居跡……12
　（２）溝……15
　（３）井戸、土坑、ピット……18
　２　２区……43
　（１）竪穴住居跡……43
　（２）掘立柱建物跡……44
　（３）溝跡……44
　（４）井戸、土坑、ピット……44
Ⅵ　朝倉伊勢西№１遺跡の自然科学分析……52
　はじめに……52
　１　試料……52
　２　分析方法……53
　３　結果……53
　４　考察……54
Ⅶ　まとめ……56
　１　調査の成果……56
　２「焼失住居」について……57
　３　遺跡周辺の土地環境について……58
　４　結……59
写真図版
報告書抄録

挿図目次

Fig.1　遺跡の位置……1
Fig.2　前橋の地形……2
Fig.3　周辺遺跡図……3
Fig.4　調査区位置図……5
Fig.5　基本層序……5
Fig.6　調査区全体図（１）……6
Fig.7　調査区全体図（２）……7
Fig.8　調査区全体図（３）……8
Fig.9　調査区全体図（４）……9
Fig.10　調査区全体図（５）……10
Fig.11　調査区全体図（６）……11
Fig.12　１区Ｈ－１・２号住居跡……19
Fig.13　１区Ｈ－２号住居跡竈・Ｈ－３号住居跡……20
Fig.14　１区Ｈ－３号住居跡竈・Ｈ－４号住居跡……21
Fig.15　１区Ｈ－４号住居跡竈・Ｈ－５号住居跡……22
Fig.16　１区Ｈ－６・７号住居跡……23
Fig.17　１区Ｈ－８・９・12・13号住居跡……24
Fig.18　１区Ｈ－13号住居跡竈・Ｈ－10号住居跡……25
Fig.19　１区Ｈ－11・14号住居跡……26
Fig.20　１区Ｈ－15号住居跡……27
Fig.21　１区Ｈ－16・17号住居跡……28
Fig.22　１区Ｈ－18号住居跡……29
Fig.23　１区Ｈ－19号住居跡・Ｗ－１・２号溝……30
Fig.24　１区Ｗ－３～14号溝……31
Fig.25　１区Ｉ－１号井戸、Ｄ－１・２・４～10号土坑……32
Fig.26　１区Ｐ－１～53号ピット……33
Fig.27　１区Ｐ－54～66号ピット……34
Fig.28　１区Ｈ－１～３号住居跡出土遺物……35
Fig.29　１区Ｈ－３～５号住居跡出土遺物……36
Fig.30　１区Ｈ－６～10号住居跡出土遺物……37
Fig.31　１区Ｈ－11・13～17・19号住居跡、Ｗ－４号溝出土遺物……38
Fig.32　１区Ｗ－４～６・10号溝、遺構外出土遺物……39
Fig.33　１区遺構外出土遺物……40
Fig.34　２区Ｈ－１・２号住居跡……46
Fig.35　２区Ｈ－３・４号住居跡……47
Fig.36　２区Ｈ－５号住居跡・Ｂ－１号掘立柱建物跡……48
Fig.37　２区Ｂ－１号掘立柱建物跡、Ｗ－１・２号溝……49
Fig.38　２区Ｗ－３・４号溝、Ｉ－１号井戸、Ｄ－２～４号土坑、Ｐ－１号ピット……50
Fig.39　２区出土遺物……51

表目次

Tab.1　１区井戸・土坑・ピット計測表……18
Tab.2　１区出土遺物観察表……40
Tab.3　２区井戸・土坑・ピット計測表……45
Tab.4　２区出土遺物観察表……45

写真図版目次

PL.1　１区Ｈ－１～４号住居跡
PL.2　１区Ｈ－５～８・12号住居跡
PL.3　１区Ｈ－９～11・13・14号住居跡
PL.4　１区Ｈ－15～17・19号住居跡
PL.5　１区Ｈ－18・19号住居跡、溝群、Ｗ－３号溝、調査風景、朝倉小学校遺跡見学会
PL.6　２区調査区近景、基本層序Ｂ、Ｈ－１号住居跡
PL.7　２区Ｈ－２～５号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡
PL.8　２区Ｗ－１～４号溝、Ｉ－１号井戸、調査風景
PL.9　１区住居跡出土遺物
PL.10　１区住居跡出土遺物
PL.11　１区溝跡、２区住居跡・溝跡・土坑、遺構外出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、（都）江田天川大島線道路改良工事に伴い平成22年10月15・18日に実施した試掘調査の結果を踏まえ、同年11月12日付けで前橋市長高木政夫（道路建設課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼書が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。また、整理作業等については次年度に行なうよう前橋市に依頼した。民間調査組織の導入等については、依頼者である前橋市の合意も得られ、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成22年12月15日付けで前橋市と民間調査組織である技研測量設計株式会社　代表取締役社長　嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、同年12月24日から発掘調査を開始した。整理等作業は、平成23年7月14日付けで前橋市と発掘調査を実施した技研測量設計株式会社　代表取締役社長　嶋田大和との間で業務委託契約が締結され、市教委の仕様書に基づく監理・指導の下に同日から開始された。

なお、遺跡名称「朝倉伊勢西No.1遺跡」（遺跡コード：22G71）の「朝倉」は町名、「伊勢西」は小字名、「No.1」は次年度に実施予定の調査と区別するために付したものである。

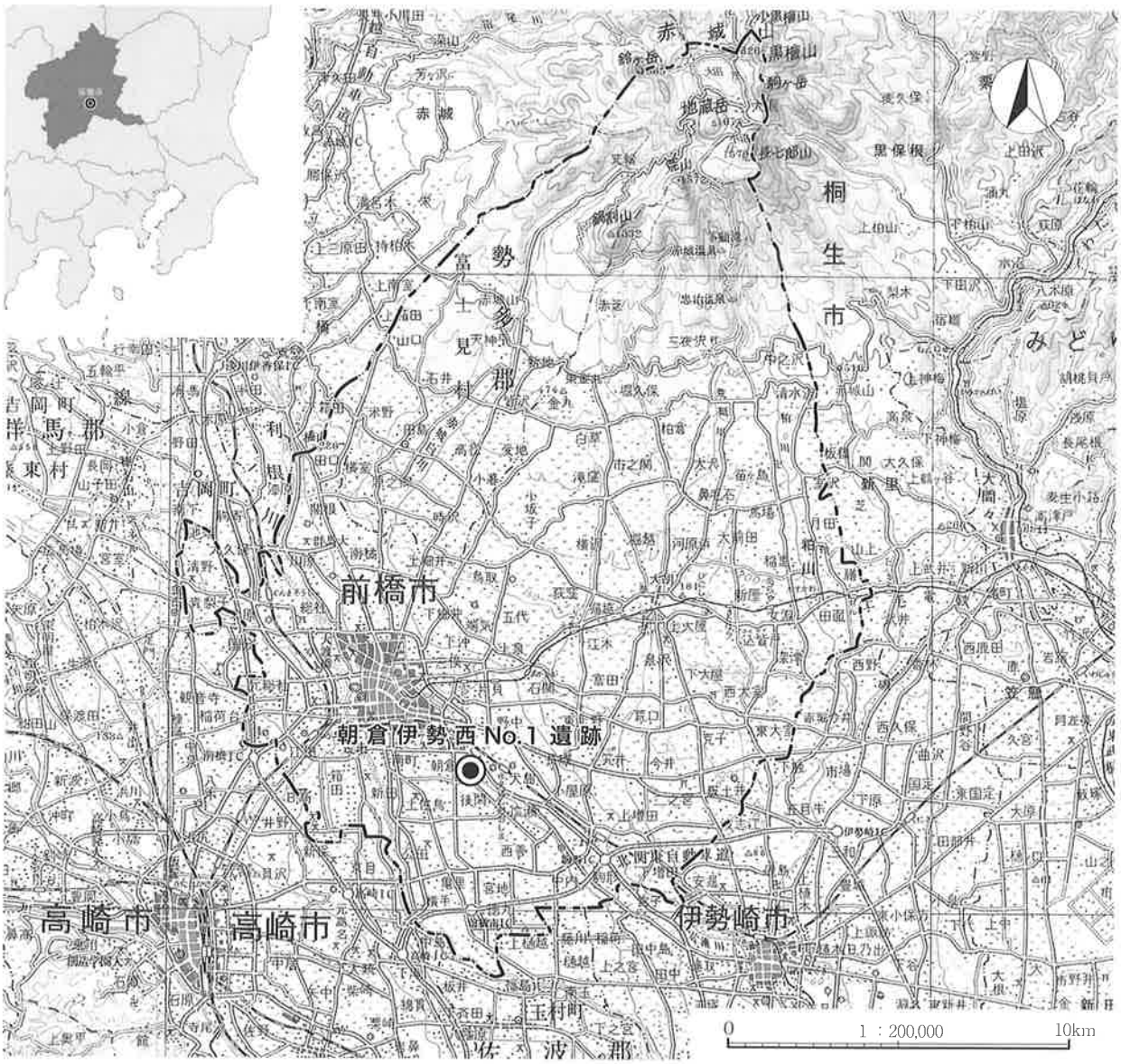


Fig.1　遺跡の位置

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置（Fig. 1・2）

朝倉伊勢西№1遺跡は群馬県前橋市朝倉町に所在し、前橋市市街地から南東へ約4kmに位置する。本遺跡は前橋台地東縁部を南流する広瀬川右岸から西に開けた低平な地に立地する。本遺跡周辺には利根川をはじめとして東に広瀬川、西に端気川が流れ、これらの河川により形成された微高地に宅地が造られ、後背湿地は主に水田として利用されている。本遺跡周辺も、近年は宅地開発や幹線道路のインフラが進み、市内でも規模の大きな広瀬団地を中心とする市街化区域に変貌している。また、広瀬川左岸の低地帯についても主要地方道前橋館林線の沿線を中心に宅地化が進んでいる。

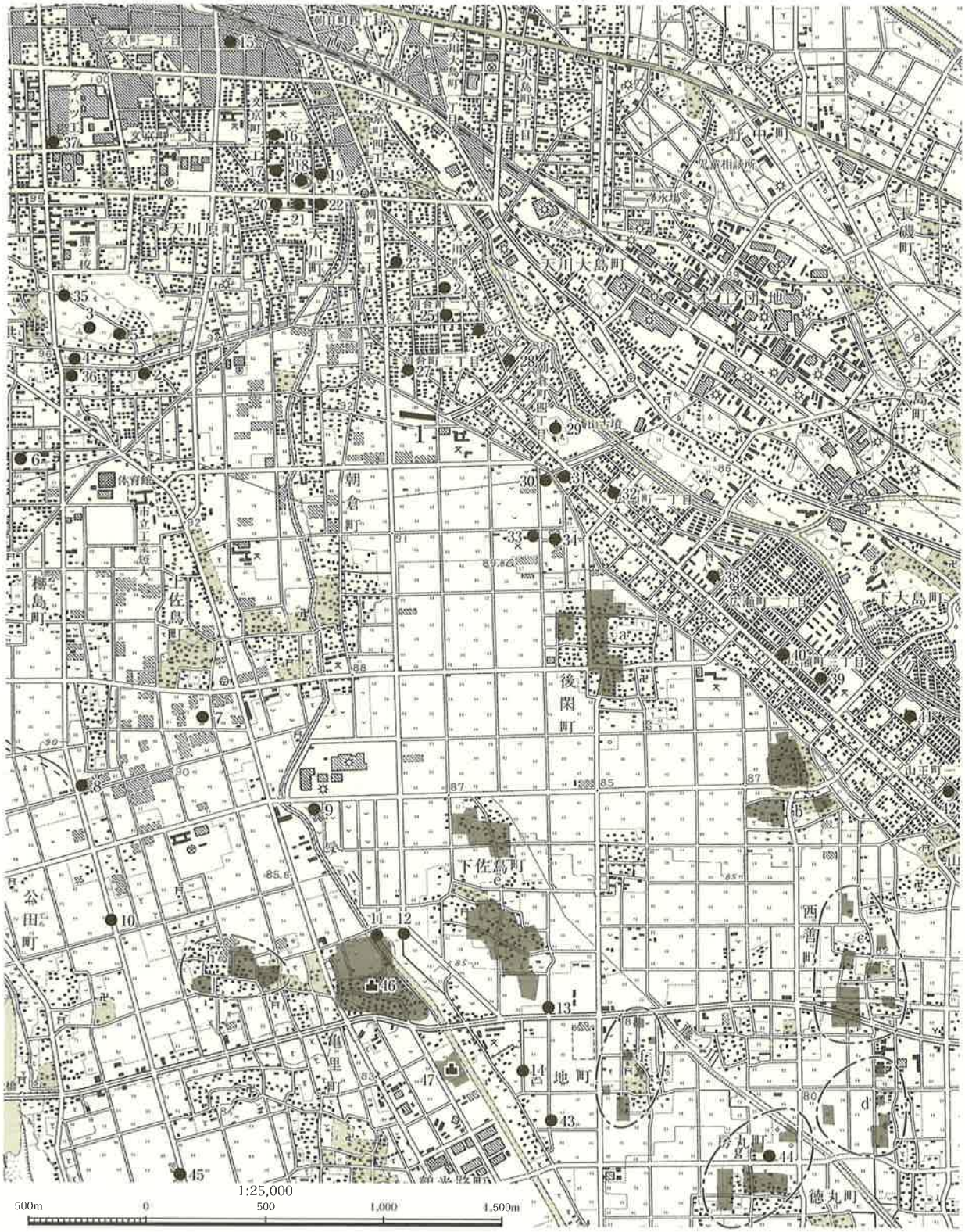
Fig. 2　前橋の地形

2　歴史的環境（Fig. 3）

本遺跡周辺での縄文時代および弥生時代の遺跡は少ないが、利根川左岸の公田東遺跡（8）に隣接する櫛島川端遺跡では縄文時代草創期後半の「撚糸式土器」、弥生時代中期の再葬墓と後期の竪穴住居跡5軒が検出されている。また、生産関連では隣接する高崎市の日高遺跡等でAs-C軽石下の水田が検出されている。

古墳時代に入ると遺跡数は急増し、住居関連では前期の六供下堂木Ⅱ遺跡（3）、六供中京安寺遺跡（35）、公田池尻遺跡（10）が、中期の集落跡としては六供中京安寺遺跡の西に位置する六供遺跡群№5で確認されている。後期には公田池尻遺跡、下佐鳥遺跡（9）、川曲遺跡（12）、坊山遺跡（31）、後閑Ⅱ遺跡（34）等で住居跡が見つかっているが、公田池尻遺跡のように前期から継続的に営まれる集落が存在する一方、この時期から新たに集落が展開する遺跡も多い。また、生産関連では公田池尻遺跡、公田東遺跡においてAs-C軽石混入土を耕作する水田跡が確認されている。

本遺跡周辺では古墳が多く分布し、広瀬川右岸の自然堤防上には旧市域から旧上陽村の東善にかけて帯状に連なる、広瀬・朝倉古墳群を形成する。『上毛古墳綜覧』によると分布調査を実施した昭和10年には154基の古墳が確認されたが、大半が未調査のまま削平され、当時の姿形を残すものは少ない。時期別に概観すると、前期には4世紀後半に東国最大級の全長約130mの規模を誇る前方後方墳である八幡山古墳（29）や、三角縁神獣鏡を含む5面の青銅鏡や底部穿孔壺型土器が出土した4世紀後半の前方後円墳で全長約129mの前橋天神山古墳（32）等が築造され、前橋台地上に最初に誕生した地域首長墓の1つと見られている。中期には古墳の築造数が少なくなり、小型化していく傾向が看取でき、前橋台地東半の地域から首長墓と目される古墳は見られなくなる。かわって前橋台地西南の高崎市倉賀野地域に毛野最大の前方後円墳である浅間山古墳や大鶴巻古墳が5世紀前半に、東毛には5世紀中葉以降に東日本最大の前方後円墳である太田天神山古墳や宝泉茶臼山古墳が築造され、勢力の移動を窺わせる。後期には再び前橋台地での古墳築造が活発化し、本遺跡周辺でも6世紀前半に亀塚山古墳（41、帆立貝式古墳）や、6世紀後半には新羅文化の影響とされる金銅製立花型冠を中心に大帯・衝角付



1．朝倉伊勢西No.1遺跡　2．六供遺跡群　3．六供下堂木Ⅱ遺跡　4．六供下堂木Ⅲ遺跡　5．六供下堂木遺跡　6．東京安寺遺跡　7．上佐鳥中原前遺跡　8．公田東遺跡　9．下佐鳥遺跡　10．公田池尻遺跡　11．宿阿内城内遺跡　12．川曲遺跡　13．東田遺跡　14．宮地中田遺跡　15．不二山古墳Ⅰ・Ⅱ　16．寄居遺跡　17．県立文書館遺跡　18．前橋二子山古墳　19．二子山前Ⅳ遺跡　20．二子山前遺跡　21．二子山前Ⅱ遺跡　22．二子山前Ⅲ遺跡　23．小旦那遺跡　24．朝倉2号墳　25．長山遺跡　26．朝倉1号墳　27．鎮守廻り遺跡　28．朝倉3号墳　29．八幡山古墳　30．後閑団地遺跡　31．坊山遺跡　32．前橋天神山古墳　33．後閑遺跡　34．後閑Ⅱ遺跡　35．六供東京安寺遺跡　36．六供下堂木Ⅳ遺跡　37．文京町No.1遺跡　38．飯玉神社前古墳　39．広瀬木ノ宮遺跡　40．上川渕鶴巻遺跡　41．亀塚山古墳　42．金冠塚古墳　43．宮地中田遺跡　44．房丸桜町遺跡　45．亀里平塚遺跡　46．宿阿内城　47．阿内古城　a．後閑環濠遺構群　b．山王環濠遺構群　c．西善環濠遺構群　d．旧西善環濠遺構群　e．下佐鳥環濠遺構群　f．東宮地環濠遺構群　g．房丸東環濠遺構群　h．亀里環濠遺構群

Fig.3　周辺遺跡図

冑・金銅製太刀等が出土した前方後円墳の金冠塚古墳（42）、墳丘長104ｍ・後円部径72ｍを測る前方後円墳の前橋二子山古墳（18）等が築造され、本遺跡周辺が古墳時代を通して継続的に発展していたことを窺わせる。

奈良・平安時代になると前橋台地上でも条里地割に基づく農地開発が進み、現在も本遺跡から南に広がる水田地帯には条里地割の痕跡が明確に認められる。特に、天仁元年（1108）の浅間山の噴火に伴うAs-B軽石によって埋没した水田跡が各地で確認されており、本遺跡周辺でも条里地割の推定が行なわれている。なかでも宮地中田遺跡ではAs-B軽石層下より平安時代後期の水田跡が92枚検出され、東西３本、南北１本の坪境畦畔によって方形区画の条里水田跡が確認された。これは高崎東部・北部で確認された条里制水田跡が利根川を挟み、前橋南部まで及んでいたことを示している。

中世になると、本遺跡周辺地域には100を超える数の環濠遺構群が展開する。本遺跡から南に広がる微高地上にも環濠遺構群（ａ～ｈ）が多く確認されるようになり、城館跡では宿阿内城（46）・阿内古城（47）等が知られるようになる。

Ⅲ　調査の方針と経過

１　調査範囲と基本方針（Fig. ３・４・６～11）

委託調査箇所は、（都）江田天川大島線道路改良工事の予定地であり、調査面積は１区1,600㎡、２区1,900㎡で、総調査面積は3,500㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X＝40800.000、Y＝－66200.000を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

	測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
１区	X 22、Y 32	X＝40672.000ｍ、Y＝－66112.000ｍ	X＝41026.926ｍ、Y＝－66403.867ｍ
２区	X 41、Y 32	X＝40672.000ｍ、Y＝－66036.000ｍ	X＝41026.924ｍ、Y＝－66327.869ｍ

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、住居跡の遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものは№遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行なった。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの３種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはラジコンヘリコプターによる空中撮影を調査工程上から１区・２区の順に、２回実施した。また、２区東側の低地部ではAs-B軽石下の土壌環境・性質を把握するため、自然科学分析も行なっている（Ⅵ　自然科学分析）。

２　調査経過（Fig. ４）

本遺跡の発掘調査は廃土置場の関係から１区・２区での折り返し調査とし、平成22年12月24日に１区の表土掘削より開始し、翌平成23年１月５日から遺構確認作業を実施した。以降、順次調査を進め、２月10日に１区の全景撮影を行ない、２月18日より１区の埋め戻しと併行して２区の表土掘削を開始した。２区は３月11日に全景撮影を実施、３月14～15日に埋め戻しを行ない、現地での調査を終了した。なお、２区の全景撮影を実施した３月11日は、東日本に甚大な被害をもたらすこととなる『東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）』の発生日である。幸いにも本調査には大きな支障はなかったが、日常の安全対策についての重要性を改めて考えさせられるものとなった。

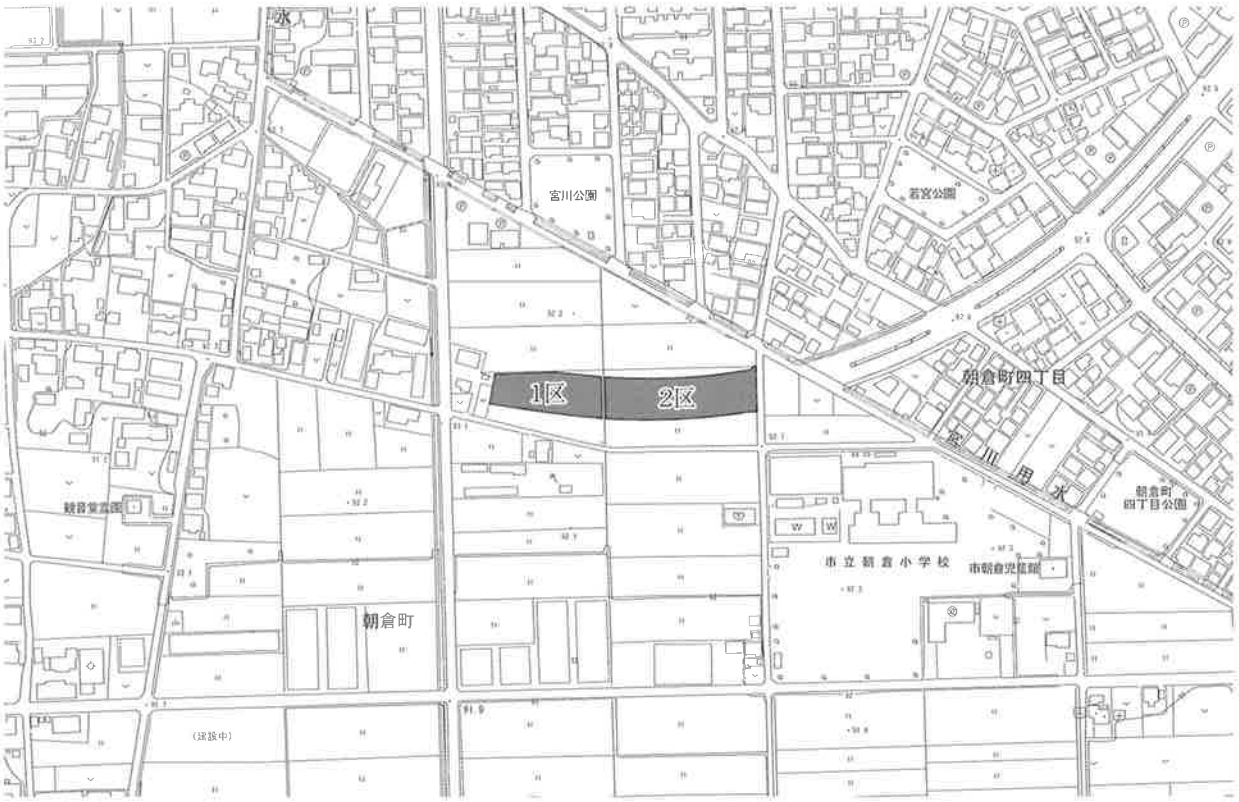
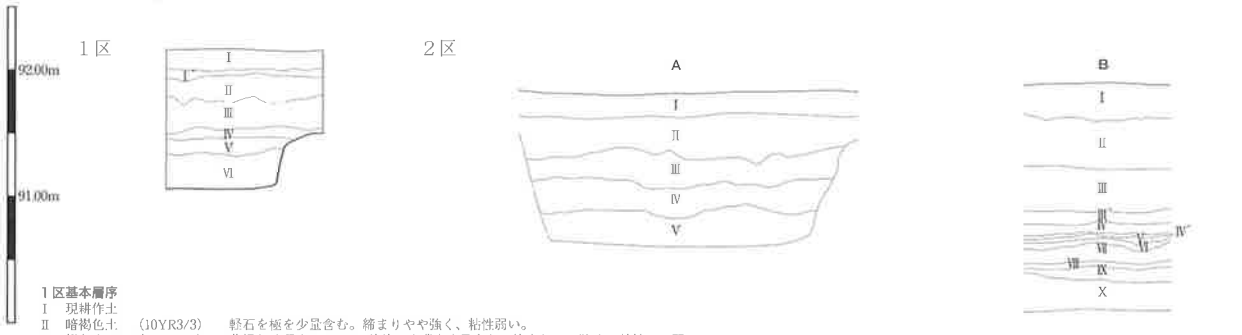


Fig. 4　調査区位置図（S=1：5,000）

Ⅳ　基本層序

1区はⅣ層およびⅤ層上面が遺構確認面となる（Fig. 5）。2区は調査区中央付近を境として標高91.5 m前後の微高地（西側）と、標高90.6 m前後の低地部（東側）に分かれるため、それぞれ調査区西端と東端の2箇所で基本層序の確認を行なった。微高地はⅡ層上面を遺構確認面とし、低地部は全面に亘りAs-Kk・As-B軽石の良好な堆積が見られ、As-B軽石を除去した面であるⅧ層上面を遺構確認面とした。



1区基本層序

Ⅰ	現耕作土		
Ⅱ	暗褐色土	(10YR3/3)	軽石を極を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
Ⅲ	褐色土	(10YR4/4)	黄褐色砂質土・～50cm前後の小礫を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
Ⅳ	暗褐色土	(10YR3/4)	含有物が少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
Ⅴ	黒褐色土	(10YR2/3)	As-C軽石を少量含む。締まり強く、粘性やや弱い。
Ⅵ	黄褐色土	(10YR5/6)	前橋泥流漸移層。締まりやや強く、粘性弱い。

2区基本層序A

Ⅰ	現耕作土		
Ⅱ	暗褐色土	(10YR3/3)	軽石を極を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
Ⅲ	褐色土	(10YR4/4)	黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
Ⅳ	暗褐色土	(10YR3/4)	含有物が少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
Ⅴ	黄褐色土	(10YR5/6)	前橋泥流漸移層。締まりやや強く、粘性弱い。

2区基本層序B

Ⅰ	現耕作土		
Ⅱ	暗褐色土	(10YR3/3)	軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
Ⅲ	暗褐色土	(10YR3/3)	軽石を極少量含む、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。色調の若干の相違で細分可能。
Ⅳ	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	肌理の細かい砂質土、洪水堆積層か。締まり弱く、粘性弱い。黒褐色砂質土との互層をなす。
Ⅴ	褐灰色土	(10YR4/1)	As-Kk層。締まり弱く、粘性弱い。
Ⅵ	灰黄褐色土	(7.5YR5/2)	As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
Ⅶ	にぶい黄橙色土	(10YR7/3)	As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
Ⅷ	褐色土	(10YR4/6)	粘質土層。Ⅸ層の酸化層か。締まり弱く、粘性強い。
Ⅸ	褐灰色土	(10YR6/1)	粘質土層。締まり弱く、粘性強い。
Ⅹ	褐灰色土	(10YR4/1)	粘質土層。白色軽石を少量含むが、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性強い。

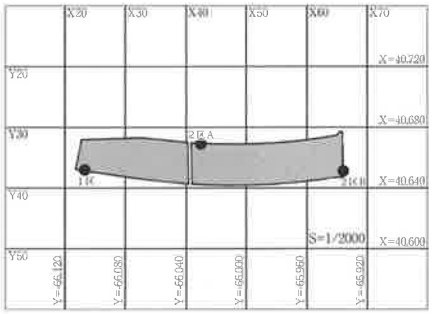


Fig. 5　基本層序

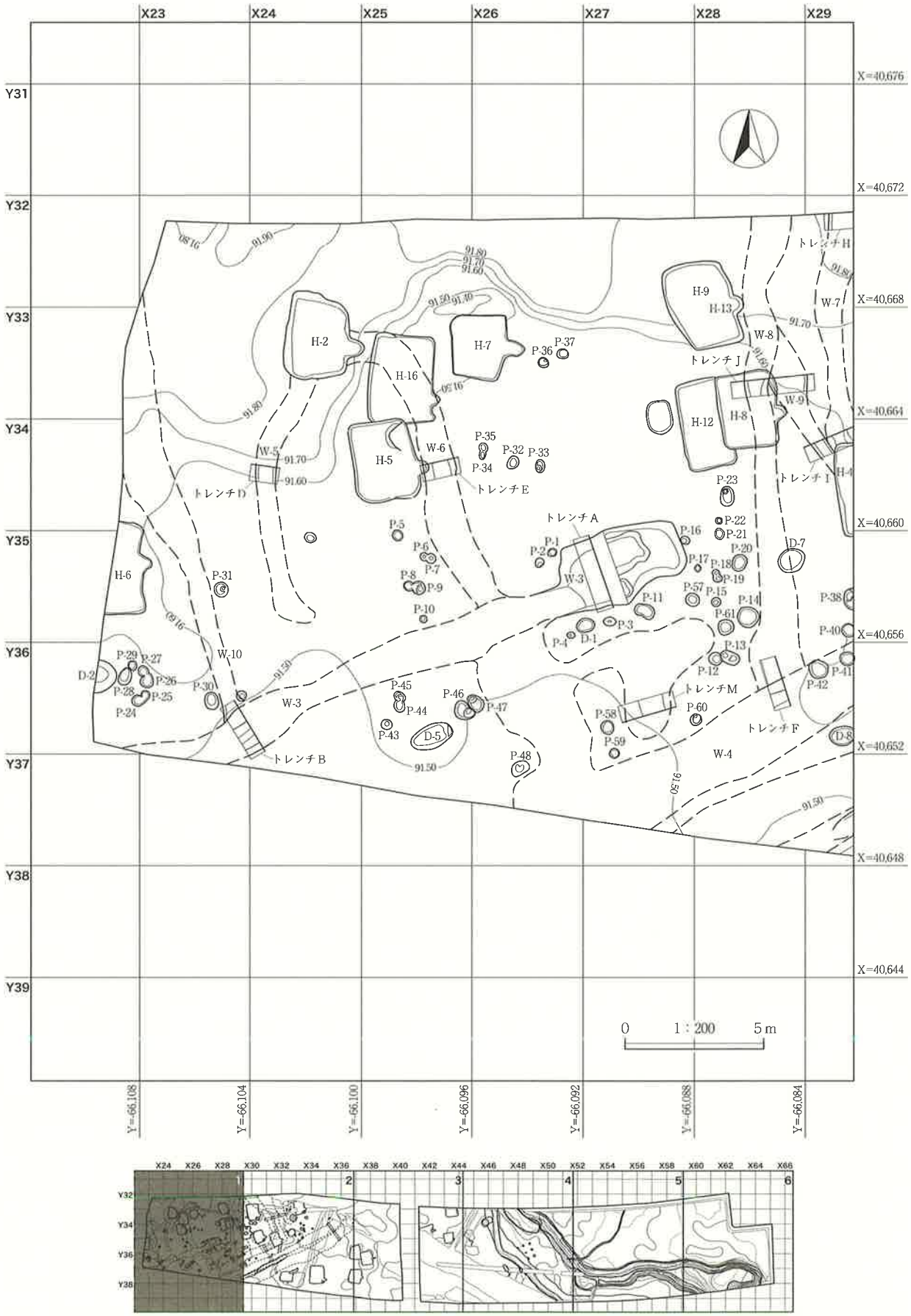


Fig.6　調査区全体図（1）

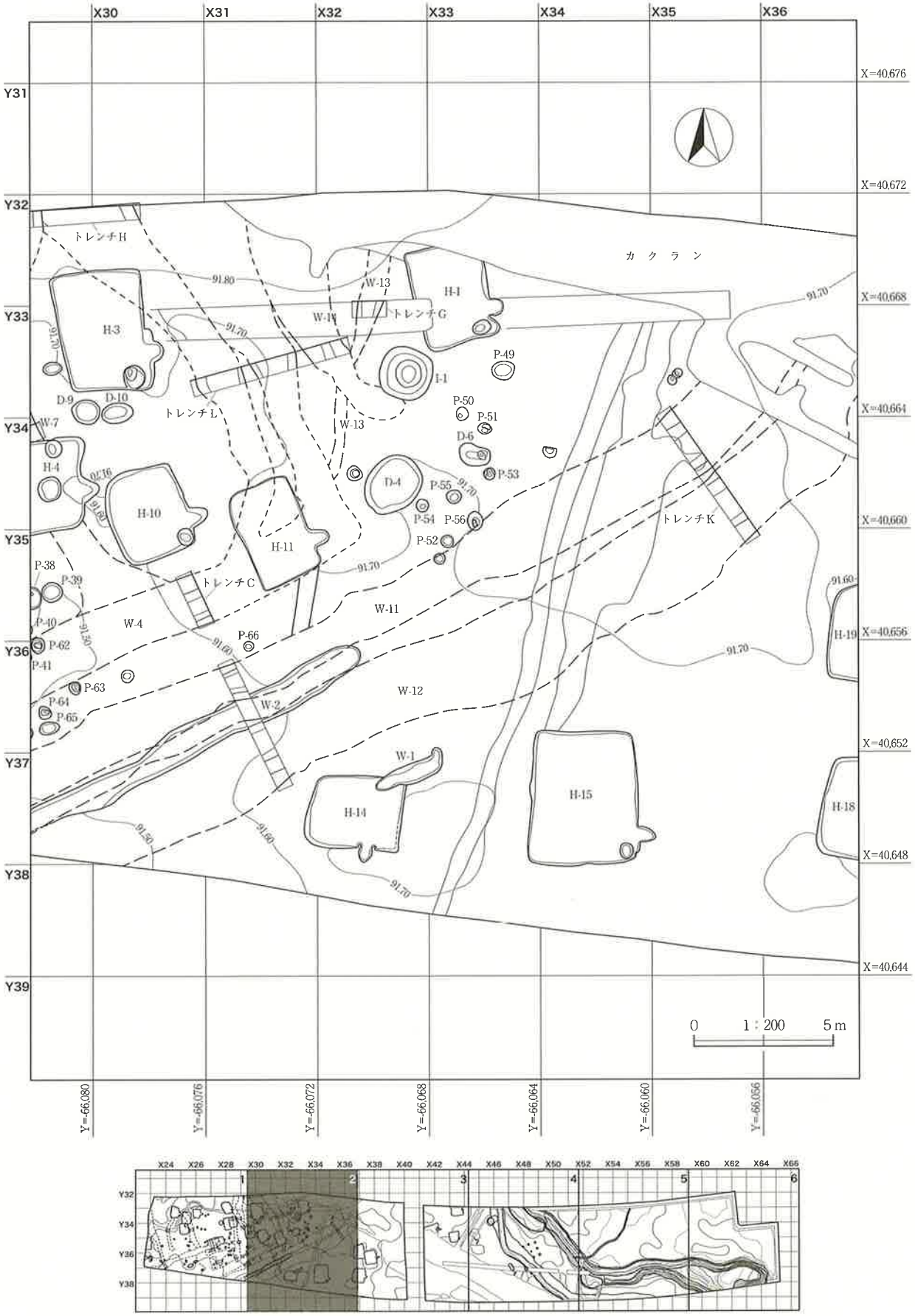


Fig.7　調査区全体図（2）

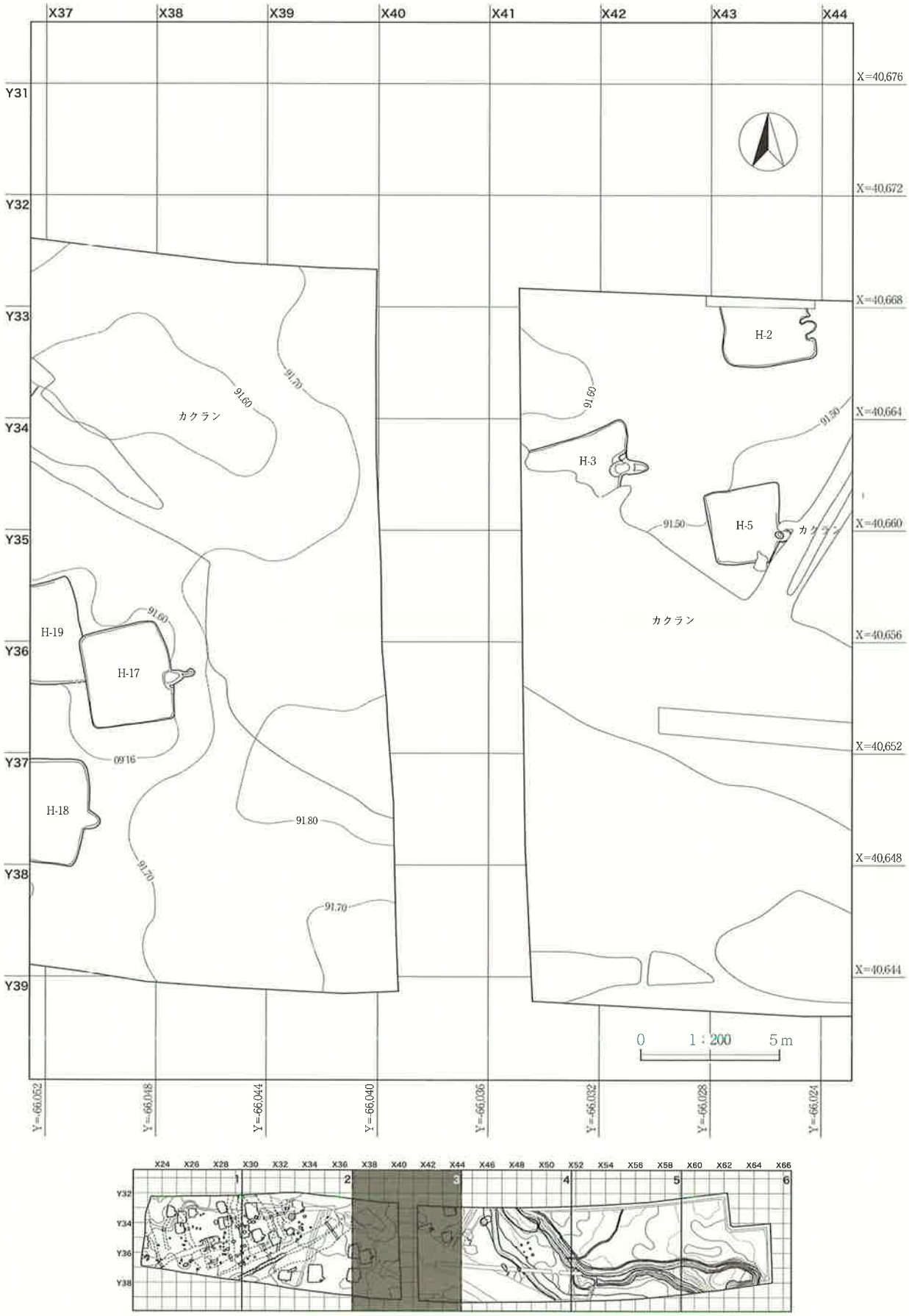


Fig.8　調査区全体図（3）

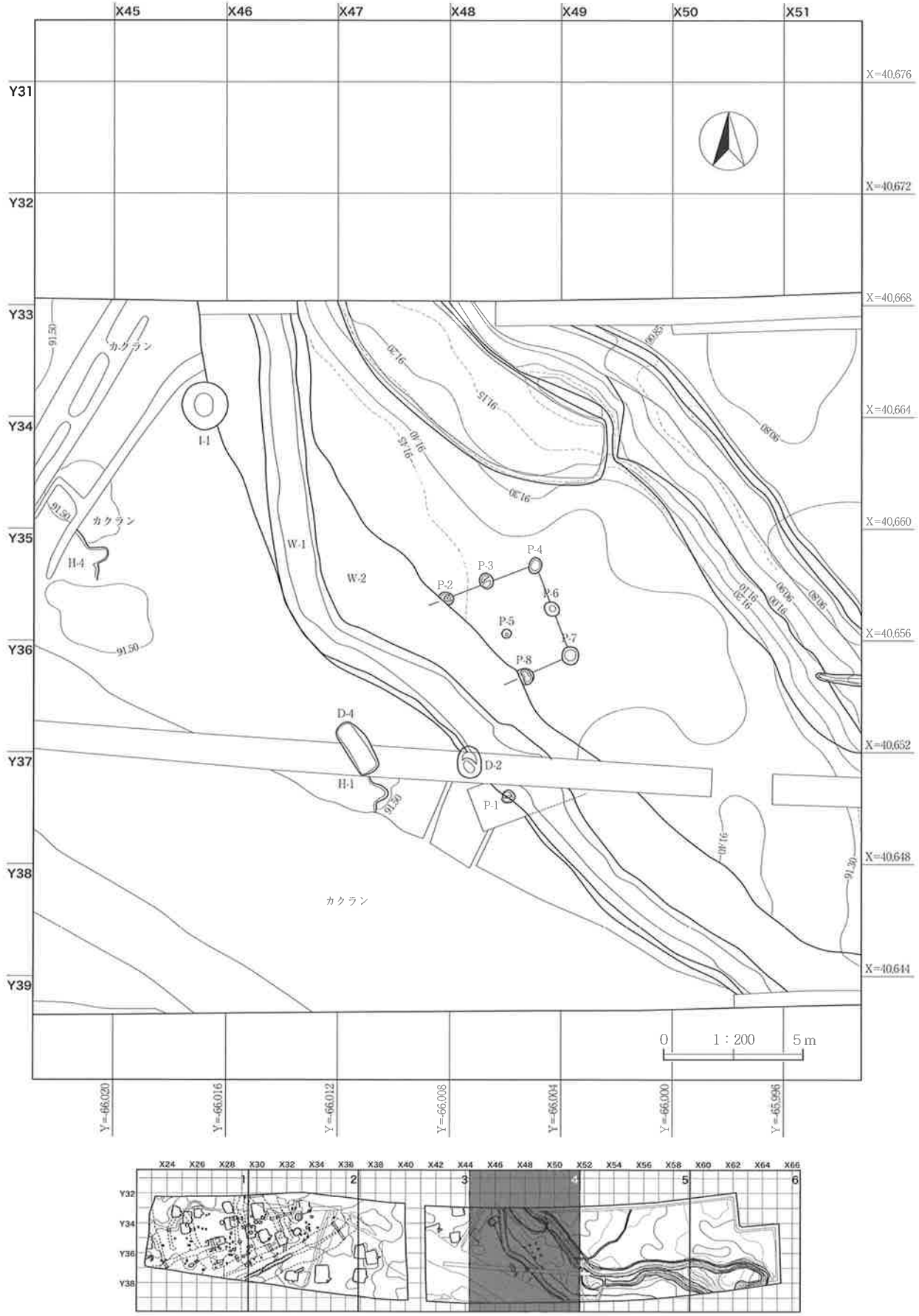


Fig.9　調査区全体図（4）

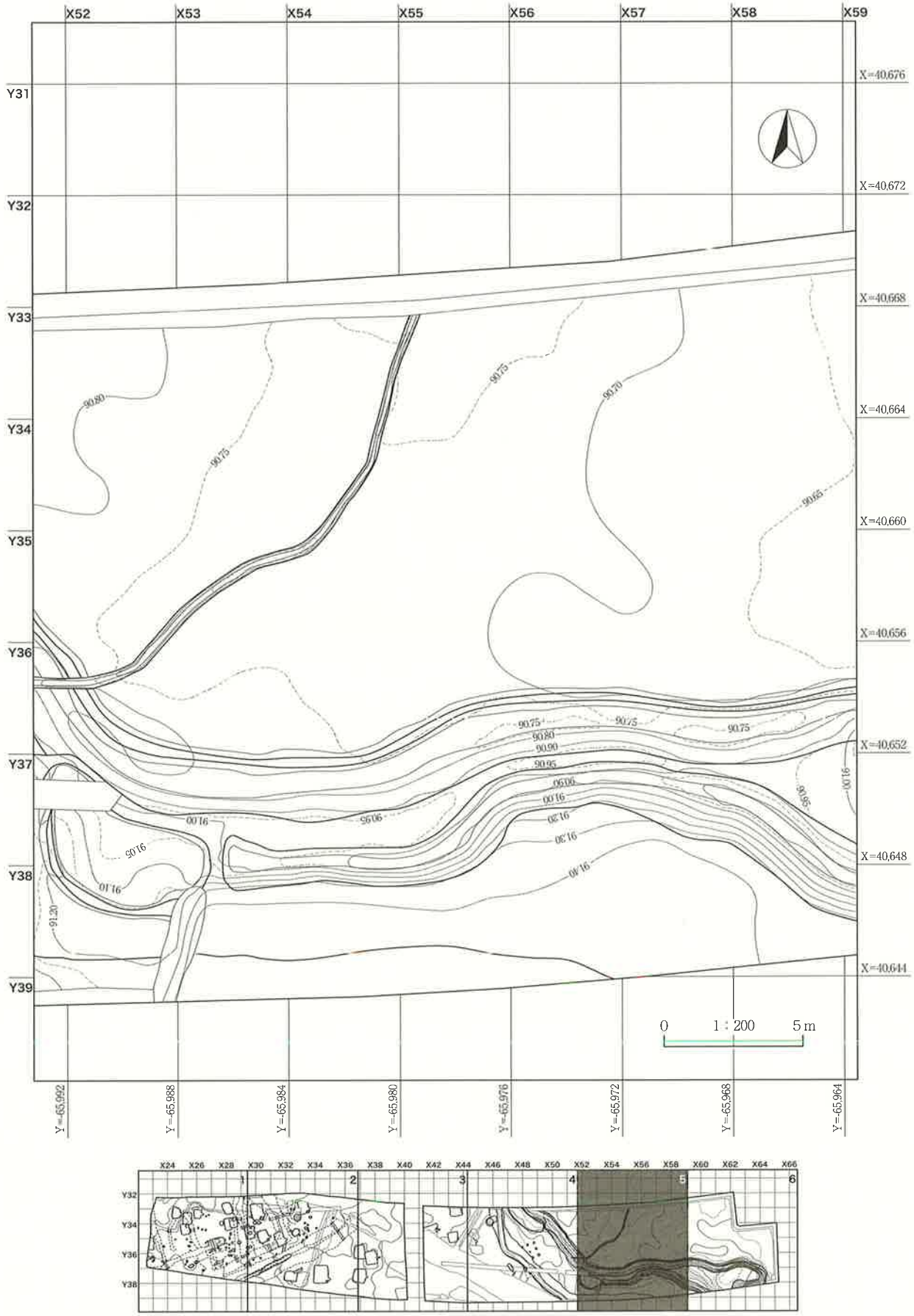


Fig.10　調査区全体図（５）

Fig.11　調査区全体図（6）

V　遺構と遺物

1　1区

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.12・28、PL 1・9）

位置　X 32・33、Y 32・33　主軸方向　N－77°－E　規模　東西軸 2.70 m、南北軸 3.67 m、現壁高 0.16 m。北側は攪乱により削られる。　面積　（7.58）㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色・黄褐色土による貼り床。竈周辺の硬化が顕著。　竈　東壁の南寄りに位置する。確認長 0.58 m、燃焼部 0.53 mを測る。燃焼部に支脚石が残存する。　貯蔵穴　南東隅に位置する。東西 0.66 m、南北 0.48 m、深さ 0.23 mを測り、楕円形を呈する。　出土遺物　須恵器高台付椀（1～7）、土師器甕（8）、羽釜（9）を図示。　時期　出土遺物の傾向から9世紀後半～10世紀前半と想定される。

H－2号住居跡（Fig.12・13・28、PL 1・9）

位置　X 24・25、Y 33・34　主軸方向　N－95°－E　規模　東西軸 2.26 m、南北軸 3.09 m、現壁高 0.34 m。　面積　4.74 ㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色粘質土による貼床を施す。竈周辺の硬化が顕著で、住居中央まで硬化が認められる。　竈　東壁のやや南寄りに位置する。確認長 0.71 m、燃焼部 0.49 mを測る。　重複　W－5・6と重複し、新旧関係はW－5・6→本遺構である。　出土遺物　床面直上から出土の須恵器椀2点（1・3）と、覆土から出土した須恵器椀1点（2）を図示。　時期　出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H－3号住居跡（Fig.13・14・28・29、PL 1・9）

位置　X 29・30、Y 32・33　主軸方向　N－83°－E　規模　東西軸 3.26 m、南北軸 4.29 m、現壁高 0.29 m。　面積　11.5 ㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。　竈　東壁の南寄りに位置する。確認長 0.63 m、燃焼部 0.48 mを測る。　貯蔵穴　南東隅に位置する。東西 0.76 m、南北 0.81 m、深さ 0.37 mを測り、円形を呈する。南側の立ち上がりは住居南壁と共有する。　重複　W－4と重複し、新旧関係はW－4→本遺構である。　出土遺物　須恵器高台付椀（1～4）、土師器甕（5～7）の7点を図示。（3）の高台椀は口縁部下に焼成前穿孔が施されるが、残存する穿孔は1箇所のみで全体的な形態は不明である。甕はいずれも口縁部が「コ」の字状を呈するが、口縁形態は崩れ整形は粗雑で器壁もやや厚くなっている。　時期　出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H－4号住居跡（Fig.14・15・29、PL 1・9）

位置　X 29・30、Y 34・35　主軸方向　N－84°－E　規模　東西軸 2.48 m、南北軸 3.31 m、現壁高 0.18 m。　面積　6.93 ㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。竈前面より住居中央部にかけて顕著な硬化面が認められる。　竈　東壁のやや南寄りに位置する。確認長 0.63 m、燃焼部 0.39 mを測る。　重複　W－7・9と重複し、新旧関係はW－7→W－9→本遺構である。　出土遺物　須恵器高台付椀（1）、土師器坏（2）、土師器甕（4）、甑（5）の4点を図示。　時期　出土遺物の傾向から9世紀後半～10世紀前半と想定される。

H－5号住居跡（Fig.15・29、PL 2・9）

位置　X 24・25、Y 34　主軸方向　N－82°－E　規模　東西軸 3.26 m、南北軸 4.29 m、現壁高 0.13 m。　面積　5.57 ㎡　床面　暗褐色土を中心とする貼り床を施し全面的に平坦であるが、住居北東隅に限り黄褐色粘質土を土盛状に貼り付ける。竈を中心として、住居南側の広範で顕著な硬化が認められる。　竈　東壁の南寄りに位

置する。確認長 0.98 m、燃焼部 0.55 mを測り、両袖部に凝灰質砂岩を置く。支脚石は袖石と同じく凝灰質砂岩であるが、被熱のため赤変し、非常に脆くなっている。また、かき出した灰・炭化物が竈前面部を中心に広範囲に確認された。　**重複**　H－16およびW－6と重複し、新旧関係はW－6→本遺構→H－16である。　**出土遺物**　須恵器高台付埦（1）、土師器甕（2・3）、敲き石（4）　**時期**　出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H－6号住居跡（Fig.16・30、PL 2・9・10）

位置　X 22・23、Y 34・35　**主軸方向**　N－84°－E　**規模**　東西軸（2.39）m、南北軸 5.50 m、現壁高 0.06 m。　**面積**　（3.46）㎡　住居西半は調査区外となる。　**床面**　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。H－5号住居跡と同様な黄褐色粘質土による貼り床も一部に認められる。竈前面を中心として、やや強い硬化が見られる。　**竈**　東壁の中央に位置する。確認長 0.81 m、燃焼部 0.70 mを測る。残存状態が悪く、上部はほぼ削平されていると思われる。袖の痕跡も確認できなかった。　**出土遺物**　須恵器皿（1）、須恵器坏（2～5）を図示。須恵器甕は覆土中、その他は床面直上からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から9世紀中頃～後半と想定される。

H－7号住居跡（Fig.16・30、PL 2・10）

位置　X 25・26、Y 30　**主軸方向**　N－90°－E　**規模**　東西軸 3.34 m、南北軸 3.83 m、現壁高 0.09 m。　**面積**　3.93 ㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山床。ほぼ全面に亘り、やや強い硬化が見られる。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。確認長 1.28 m、燃焼部 0.71 mを測る。凝灰質砂岩を支脚石として据える。　**出土遺物**　いずれも床面直上から出土した須恵器坏2点（1・2）、土師器甕1点（3）を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から9世紀後半～10世紀前半と想定される。

H－8号住居跡（Fig.17・30、PL 2・10）

位置　X 28、Y 33・34　**主軸方向**　N－82°－E　**規模**　東西軸 2.21 m、南北軸 2.73 m、現壁高 0.07 m。　**面積**　4.91 ㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山床で、床面のほぼ全面に強い硬化が認められる。　**竈**　東壁の中央に位置する。確認長 0.41 m、燃焼部 0.34 mを測る。　**重複**　W－8・9と重複し、新旧関係はW－9→W－8→本遺構である。　**出土遺物**　図示し得た出土遺物は須恵器高台付埦1点のみである。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀中頃と想定される。

H－9号住居跡（Fig.17・30、PL 3・10）

位置　X 27・28、Y 32・33　**主軸方向**　N－71°－E　**規模**　東西軸 2.41 m、南北軸 3.18 m、現壁高 0.26 m。　**面積**　（5.67）㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山床。　**竈**　確認できず。　**重複**　H－13と重複し、新旧関係は本遺構→H－13である。　**出土遺物**　須恵器壺（1）、土師器甕（2）それぞれ1点ずつを図示。　**時期**　出土遺物の傾向から9世紀後半～10世紀前半と想定される。　**備考**　住居跡としているが、今回の調査では竈の確認に至らなかった。H－13により削平されたことも考えられるが、床面に硬化面や灰・焼土等の竈の痕跡が見られないことから、住居ではなく竪穴状遺構となる可能性も高いと思われる。

H－10号住居跡（Fig.18・30、PL 3・10）

位置　X 30・31、Y 34・35　**主軸方向**　N－71°－E　**規模**　東西軸 2.83 m、南北軸 3.34 m、現壁高 0.22 m。　**面積**　7.01 ㎡　**床面**　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。竈焚口部を中心に強い硬化が認められる。

竈　東壁の南寄りに位置する。確認長0.68ｍ、燃焼部0.38ｍを測る。　**貯蔵穴**　南東隅に位置する。東西0.53ｍ、南北0.61ｍ、深さ0.58ｍを測り、円形を呈する。南側の立ち上がりは住居南壁と共有する。　**出土遺物**　いずれも床面直上から出土した羽釜（１）、土師器甑（２）の２点を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

Ｈ－11号住居跡（Fig.19・31、PL ３・10）

位置　Ｘ31・32、Ｙ34・35　**主軸方向**　Ｎ－68°－Ｅ　**規模**　東西軸2.38ｍ、南北軸3.60ｍ、現壁高0.04ｍ。　**面積**　7.84㎡　**床面**　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。竈焚口前面には灰・焼土が散在し、硬化も強くなっている。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。確認長0.68ｍ、燃焼部0.37ｍを測る。　**重複**　Ｗ－４と重複し、新旧関係はＷ－４→本遺構である。　**出土遺物**　床面直上から出土した須恵器高台付埦（１）、竈から出土した須恵器坏（２）の２点を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀後半～11世紀前半と想定される。

Ｈ－12号住居跡（Fig.17、PL ２）

位置　Ｘ27・28、Ｙ33・34　**主軸方向**　Ｎ－79°－Ｅ　**規模**　東西軸1.81ｍ、南北軸3.24ｍ、現壁高0.03ｍ。　**面積**　（4.26）㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山床。　**竈**　Ｈ－８により削平される。　**重複**　Ｈ－８と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－８である。　**出土遺物**　出土遺物は須恵器坏２点、羽釜１点等であるが小破片であり、図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物および重複関係から10世紀前半～中頃と想定される。

Ｈ－13号住居跡（Fig.17・18・31、PL ３・10）

位置　Ｘ28、Ｙ32・33　**主軸方向**　Ｎ－77°－Ｅ　**規模**　削平により、竈のみの残存。　**竈**　確認長0.63ｍ、燃焼部0.42ｍを測る。　**重複**　Ｈ－９と重複し、新旧関係はＨ－９→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器坏、土師器甕、羽釜等が出土しており、図示し得た出土遺物は須恵器高台付埦１点のみである。　**時期**　出土遺物および重複関係から10世紀前半と想定される。

Ｈ－14号住居跡（Fig.19・31、PL ３・10）

位置　Ｘ31・32、Ｙ37　**主軸方向**　Ｎ－175°－Ｅ　**規模**　東西軸2.62ｍ、南北軸3.44ｍ、現壁高0.15ｍ。　**面積**　（7.22）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。竈前面に灰・焼土の散布、強い硬化を認められる。　**竈**　南壁の東寄りに位置する。確認長0.70ｍ、燃焼部0.30ｍを測る。　**重複**　Ｗ－１と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－１である。　**出土遺物**　須恵器短頸壺（１）、かわらけ（２）の２点を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から11世紀前半と想定される。

Ｈ－15号住居跡（Fig.20・31、PL ４・10）

位置　Ｘ33・34・35、Ｙ36・37　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**規模**　東西軸3.88ｍ、南北軸4.82ｍ、現壁高0.22ｍ。　**面積**　16.57㎡　**床面**　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。竈前面を中心とし、住居南半で顕著な硬化が見られる。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。確認長0.70ｍ、燃焼部0.41ｍを測る。両袖に凝灰質砂岩と思われる袖石を配し、同質の石材の天井石を架ける。また、竈に掛けられた状態の土釜を検出している。　**貯蔵穴**　南東隅に位置する。東西0.47ｍ、南北0.55ｍ、深さ0.17ｍを測り、楕円形を呈する。　**出土遺物**　灰釉陶器埦（１）、須恵器高台付埦（２）、土師器坏（３）、羽釜（４）、土釜（５）の５点を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀後半～11世紀前半と想定される。　**備考**　床面直上に大量の炭化材および焼土塊を検出し、いわゆる「焼失住居」と考えられる。炭化材の残存状況は極めて良好である。

H－16号住居跡（Fig.21・31、PL 4・10）

位置　X 25、Y 33・34　主軸方向　N－93°－E　規模　東西軸 2.33 m、南北軸 3.15 m、現壁高 0.15 m。　面積　(6.46) ㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。竈前面から住居中央にかけて、やや強く硬化する。　竈　東壁の南寄りに位置する。確認長 0.32 m、燃焼部 0.28 m を測る。　重複　H－5、W－6と重複し、新旧関係はW－6→H－5→本遺構である。　出土遺物　灰釉陶器皿（1）、須恵器坏（2）、土師器坏（3・4）の4点を図示。　時期　出土遺物の傾向から 11 世紀前半と想定される。

H－17号住居跡（Fig.21・31、PL 4・10）

位置　X 37・38、Y 35・36　主軸方向　N－80°－E　規模　東西軸 3.13 m、南北軸 3.55 m、現壁高 0.12 m。　面積　9.86 ㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。竈前面部を中心として硬化が顕著である。　竈　東壁の中央に位置する。確認長 0.94 m、燃焼部 0.33 m を測る。やや窪みをもった燃焼部から、細長く伸びた煙道に向け立ち上がる。袖石に凝灰質砂岩を用いる。煙道先端には、煙突として転用したと考えられる円筒埴輪を検出した。　重複　H－19と重複し、新旧関係はH－19→本遺構である。　出土遺物　住居跡からは須恵器小破片、土師器小破片等を検出しているが、図示し得なかった。図示したのは竈の煙突として転用していた円筒埴輪で、直接的に本遺構の年代を決定する遺物ではないが、特徴的な遺物であるため掲載しておく。　時期　出土遺物および重複関係から 10 世紀前半～中頃と想定される。

H－18号住居跡（Fig.22、PL 5）

位置　X 36・37、Y 37　主軸方向　N－97°－E　規模　東西軸 3.40 m、南北軸 3.73 m、現壁高 0.26 m。　面積　10.72 ㎡　床面　ほぼ平坦で、全面的に暗褐色土による貼り床であるが、北西の一部のみ地山床である。竈前面部を中心に灰・焼土の散在、やや強い床面の硬化を確認した。　竈　東壁の中央に位置する。確認長 0.61 m、燃焼部 0.38 m を測る。　出土遺物　須恵器小破片、土師器小破片、羽釜片を検出しているが図示し得なかった。　時期　出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H－19号住居跡（Fig.23・31、PL 5・10）

位置　X 36・37、Y 35・36　主軸方向　N－78°－E　規模　東西軸 2.86 m、南北軸 3.67 m、現壁高 0.07 m。　面積　(8.98) ㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼床を施す。　竈　不明。H－17により削平される。　重複　H－17と重複し、新旧関係は本遺構→H－17である。　出土遺物　羽釜1点を図示。　時期　出土遺物の傾向から 10 世紀と想定される。　備考　H－15と同様に「焼失住居」と考えられる。

（2）溝

W－1号溝（Fig.23）

位置　X 32・33、Y 37　主軸方向　N－68°－E　規模　長さ 2.62 m、上幅 0.71 m、下幅 0.52 m、深さ 0.21 m。　形状等　北東から南西に走行し、断面はU字形に近い台形状を呈する。底面は比較的平坦である。　重複　H－14と重複し、新旧関係はH－14→本遺構である。　出土遺物　須恵器・土師器が出土しているが、小破片のため図示には至らず。　時期　出土遺物および重複関係から 11 世紀代と想定される。

W－2号溝（Fig.23）

位置　X 29～32、Y 36・37　主軸方向　N－62°－E　規模　長さ 14.16 m、上幅 1.22 m、下幅 0.96 m、深さ

0.19 m。　**形状等**　北東から南西に走行し、断面はU字形を呈するが、後世の削平のためか概して浅い掘り込みとなっている。　**重複**　W－11・12と重複し、新旧関係はW－11・12→本遺構である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器・灰釉陶器が出土しているが、小破片のため図示し得なかった。　**時期**　重複関係および覆土から10世紀代と想定される。

W－3号溝（Fig.24、PL 5）

位置　X 23～27、Y 35～37　**主軸方向**　N－68°－E　**規模**　長さ（21.50）m、上幅1.47 m、下幅0.58 m、深さ0.49 m。　**形状等**　北東から南西に走行し、断面は台字形を呈する。北側に中段を有する。　**出土遺物**　須恵器・土師器が出土しているが、小破片のため図示には至らず。　**時期**　出土遺物および重複関係から9世紀以前と想定される。　**備考**　北東端は平面が長方形状の掘り込みとなっており、溜め井的な機能を持っていた可能性も考えられる。断面観察から、埋没時期は同時であり重複関係は認められない。

W－4号溝（Fig.24・31・32、PL11）

位置　X 26～32、Y 32～37　**主軸方向**　南北方向N－24°－W、東西方向N－64°－W　**規模**　長さ（40.93）m、上幅1.67～2.62 m、下幅0.65～1.84 m、深さ0.55 m。　**形状等**　北東から南西に走行し、X 32・Y 35グリッド付近で90°近く屈曲し、2条に枝分かれする。　**重複**　H－11、W－7と重複し、新旧関係は本遺構→W－7→H－11である。　**出土遺物**　覆土中より出土の須恵器坏、土師器坏、灰釉陶器埦・耳皿を図示。　**時期**　出土遺物および重複関係から10世紀代以前と想定される。

W－5号溝（Fig.24・32、PL11）

位置　X 24・25、Y 33～35　**主軸方向**　N－16°－E　**規模**　長さ（8.83）m、上幅0.72 m、下幅0.55 m、深さ0.24 m。　**形状等**　ほぼ南北方向に走行し、若干西に向けて湾曲する。断面は箱型を呈する。　**重複**　H－2と重複し、新旧関係は本遺構→H－2である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器坏蓋・甕・瓶、土師器坏が出土しており、須恵器坏蓋（1）、土師器坏（2）を図示。　**時期**　出土遺物および重複関係から9世紀代以前と想定される。

W－6号溝（Fig.24・32、PL11）

位置　X 24～26、Y 33～35　**主軸方向**　N－23°－E　**規模**　長さ（11.03）m、上幅1.63 m、下幅0.64 m、深さ0.31 m。　**形状等**　北西から南東に走行し、断面はやや丸みを帯びた台形を呈する。　**重複**　H－2・5・16、W－3と重複し、新旧関係は本遺構→W－3→H－2・16→H－5である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器坏・甕が少数出土しており、その内の須恵器高台付埦を1点図示。　**時期**　出土遺物および重複関係から9世紀代以前と想定される。　**備考**　H－2により削平されているため断言はできないが、走行方向等を考慮するとW－5号溝と同一の遺構になる可能性が高い。

W－7号溝（Fig.24）

位置　X 29・30、Y 32～35　**主軸方向**　N－4°－E　**規模**　長さ（13.96）m、上幅0.93 m、下幅0.37 m、深さ0.52 m。　**形状等**　北から南東に走行し、断面は台形を呈する。　**重複**　H－4、W－4・9と重複し、新旧関係はW－9→本遺構→H－4・W－4である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　重複関係および覆土から9～10世紀代以前と想定される。

W－8号溝（Fig.24）

位置　X 28、Y 32～36　主軸方向　N－3°－E　規模　長さ（16.95）m、上幅 0.80～1.64 m、下幅 0.54～0.94 m、深さ 0.52 m。　形状等　ほぼ南北方向に走行し、断面はU字形を呈する。　重複　H－8、W－4・9と重複し、新旧関係はW－9→本遺構→H－8、W－4である。　出土遺物　覆土中より須恵器・灰釉陶器が出土しているが、小破片のため図示し得なかった。　時期　重複関係および覆土から9～10世紀代以前と想定される。

W－9号溝（Fig.24）

位置　X 28・29、Y 33・34　主軸方向　N－37°－W　規模　長さ（5.62）m、上幅 1.34 m、下幅 1.09 m、深さ 0.37 m。　形状等　北西から南東に走行し、断面は箱形を呈する。　重複　H－4・8、W－7・8と重複し、新旧関係は本遺構→W－7・8→H－4・8である。　出土遺物　なし。　時期　重複関係および覆土から9世紀代以前と想定される。

W－10号溝（Fig.24・32、PL11）

位置　X 22・23、Y 32～36　主軸方向　N－17°－W　規模　長さ（15.63）m、上幅 0.68～1.74 m、下幅 0.49～1.25 m、深さ 0.18 m。　形状等　北東から南西に走行し、断面はU字形を呈する。　重複　W－3と重複し、新旧関係は本遺構→W－3である。　出土遺物　覆土中より須恵器・土師器・灰釉陶器が出土し、須恵器皿を1点図示。　時期　重複関係および覆土から10世紀代以前と想定される。

W－11号溝（Fig.24）

位置　X 27～36、Y 33～37　主軸方向　N－60°－E　規模　長さ（37.94）m、上幅 2.34 m、下幅 0.87 m、深さ 0.89 m。　形状等　北東から南西に走行し、断面は薬研堀のような形状を呈する。　重複　W－2と重複し、新旧関係は本遺構→W－2である。　出土遺物　小破片・数点であるが、須恵器・土師器・灰釉陶器が、また1点だが円筒埴輪片も出土している。　時期　重複関係および覆土から9～10世紀代以前と想定される。

W－12号溝（Fig.24）

位置　X 29～36、Y 33～38　主軸方向　N－61°－E　規模　長さ（32.37）m、上幅 2.88 m、下幅 1.40 m、深さ 0.80 m。　形状等　北東から南西に走行し、断面はU字状を呈する。　重複　W－2と重複し、新旧関係は本遺構→W－2である。　出土遺物　覆土中より須恵器・土師器が出土しているが、小破片のため図示し得なかった。　時期　重複関係および覆土から9～10世紀代以前と想定される。　備考　W－11と断面形態は異なるものの、規模・走行方向等は極めて近似する。現状では重複関係等は不明であるが、覆土等は似通っており、少なくとも埋没段階には同時期に機能していたものと思われる。

W－13号溝（Fig.24）

位置　X 32、Y 32～34　主軸方向　N－12°－E　規模　長さ（8.32）m、上幅 0.34 m、下幅 0.22 m、深さ 0.36 m。　形状等　北から南西に走行し、断面は台形を呈する。　重複　W－4・14と重複し、新旧関係は本遺構→W－4→W－14である。　出土遺物　なし。　時期　重複関係および覆土から10世紀代以前と想定される。

W－14号溝（Fig.24）

位置　X 31・32、Y 32・33　主軸方向　N－32°－W　規模　長さ（8.86）m、上幅 1.64 m、下幅 0.89 m、深

さ 0.44 m。　**形状等**　北西から南東に走行し、断面は台形を呈する。　**重複**　W－4・13と重複し、新旧関係はW－13→W－4→本遺構である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器・土師器が数点出土しているが、小破片のため図示し得なかった。　**時期**　重複関係および覆土から10世紀代以前と想定される。

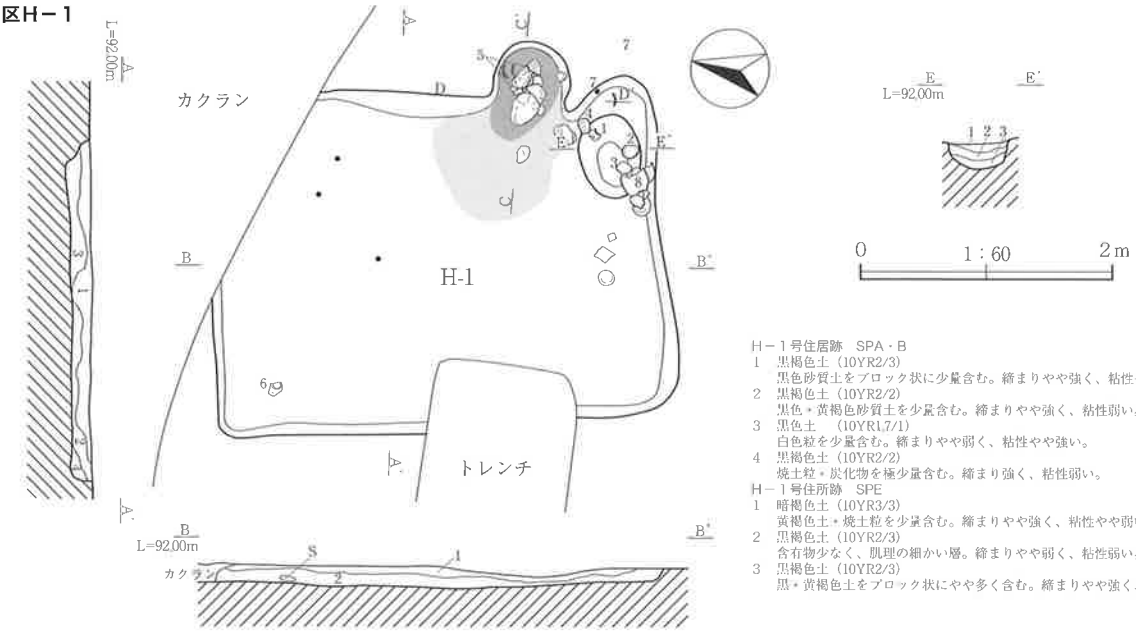
（3）井戸、土坑、ピット（Fig.25～27）

井戸、土坑、ピットについては「Tab. 1　1区　井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

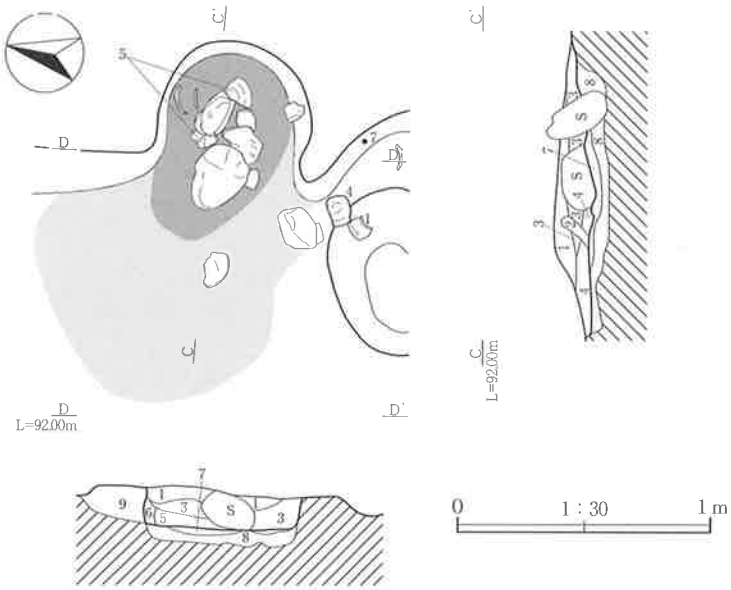
Tab. 1　1区井戸・土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	長軸比	深さ (m)	平面形状	断面形状
1号井戸	X32・33、Y33	1.87	1.84	1.02	(0.56)	方形	階段状
1号土坑	X26・27、Y35	0.66	0.50	1.32	0.28	楕円形	箱状
2号土坑	X22、Y36	1.19	(0.73)	1.63	0.38	長楕円形	台形状
3号土坑	欠番						
4号土坑	X32、Y34	2.23	1.82	1.23	0.40	楕円形	台形状
5号土坑	X25、Y36	1.57	0.86	1.83	0.46	長楕円形	階段状
6号土坑	X33、Y34	1.16	0.77	1.51	0.37	長方形	台形状
7号土坑	X28、Y35	1.00	0.83	1.20	0.30	楕円形	台形状
8号土坑	X29、Y36	0.96	0.69	1.39	0.33	楕円形	箱状
9号土坑	X29・30、Y33・34	1.01	0.87	1.16	0.32	円形	箱状
10号土坑	X30、Y33・34	1.12	0.72	1.56	0.49	長楕円形	箱状
1号ピット	X26、Y35	0.31	0.29	1.07	0.10	円形	台形状
2号ピット	X26、Y35	0.34	0.31	1.10	0.15	円形	箱状
3号ピット	X27、Y35	0.45	0.32	1.41	0.22	楕円形	台形状
4号ピット	X26、Y35	0.29	0.22	1.32	0.10	楕円形	V字状
5号ピット	X25、Y34・35	0.38	0.37	1.03	0.13	円形	台形状
6号ピット	X25、Y35	0.30	(0.26)	1.15	0.15	円形	半円状
7号ピット	X25、Y35	0.35	(0.33)	1.06	0.22	円形	台形状
8号ピット	X25、Y35	0.35	(0.33)	1.06	0.10	円形	弧状
9号ピット	X25、Y35	0.47	(0.47)	1.00	0.19	円形	台形状
10号ピット	X25、Y35	0.26	0.26	1.00	0.21	円形	半円状
11号ピット	X27、Y35	0.73	0.51	1.43	0.24	不整形	箱状
12号ピット	X28、Y36	0.47	0.46	1.02	0.30	円形	V字状
13号ピット	X28、Y36	0.70	0.44	1.59	0.25	長楕円形	階段状
14号ピット	X28、Y35	0.79	0.73	1.08	0.25	円形	箱状
15号ピット	X28、Y35	0.34	0.33	1.03	0.17	円形	台形状
16号ピット	X27、Y35	0.35	0.28	1.25	0.18	楕円形	半円状
17号ピット	X28、Y35	0.26	0.22	1.18	0.09	円形	台形状
18号ピット	X28、Y35	0.27	(0.22)	1.23	0.13	楕円形	半円状
19号ピット	X28、Y35	0.34	(0.26)	1.31	0.15	楕円形	半円状
20号ピット	X28、Y35	0.61	0.51	1.20	0.36	楕円形	半円状
21号ピット	X28、Y34・35	0.40	0.34	1.18	0.16	円形	半円状
22号ピット	X28、Y34	0.23	0.22	1.05	0.13	方形	箱状
23号ピット	X28、Y34	0.71	0.49	1.45	0.29	楕円形	台形状
24号ピット	X22・23、Y36	0.42	(0.41)	1.02	0.14	円形	台形状
25号ピット	X23、Y36	0.35	(0.30)	1.17	0.13	円形	台形状
26号ピット	X23、Y36	0.51	(0.46)	1.11	0.12	円形	箱状
27号ピット	X22・23、Y36	0.37	(0.36)	1.03	0.11	円形	台形状
28号ピット	X22、Y36	0.63	0.45	1.40	0.20	楕円形	台形状
29号ピット	X22、Y36	0.35	0.31	1.13	0.15	円形	箱状
30号ピット	X23、Y36	0.62	0.49	1.27	0.18	楕円形	半円状
31号ピット	X23、Y35	0.54	0.51	1.06	0.30	円形	箱状
32号ピット	X26、Y34	0.50	0.39	1.28	0.21	楕円形	箱状
33号ピット	X26、Y34	0.47	0.33	1.42	0.17	楕円形	箱状
34号ピット	X26、Y34	(0.32)	0.23	1.39	0.09	楕円形	台形状
35号ピット	X26、Y34	0.33	(0.32)	1.03	0.26	円形	箱状
36号ピット	X26、Y33	0.37	0.36	1.03	0.20	円形	半円状
37号ピット	X26、Y33	0.42	0.35	1.20	0.13	楕円形	台形状
38号ピット	X29、Y35	0.79	0.74	1.07	0.30	円形	箱状
39号ピット	X29、Y35	0.75	0.71	1.06	0.22	円形	箱状
40号ピット	X29、Y35	0.49	0.47	1.04	0.22	円形	半円状
41号ピット	X29、Y36	0.53	0.49	1.08	0.20	円形	半円状
42号ピット	X29、Y36	0.69	0.65	1.06	0.23	円形	台形状
43号ピット	X25、Y36	0.40	0.36	1.11	0.29	円形	半円状
44号ピット	X25、Y36	0.42	0.40	1.05	0.23	円形	台形状
45号ピット	X25、Y36	0.42	(0.34)	1.24	0.19	楕円形	台形状
46号ピット	X25・26、Y36	0.74	0.68	1.09	0.44	不整形	階段状
47号ピット	X25・26、Y36	0.68	0.49	1.39	0.32	楕円形	台形状
48号ピット	X26、Y37	0.68	0.47	1.45	0.21	楕円形	台形状
49号ピット	X33、Y33	0.82	0.67	1.22	0.62	楕円形	台形状
50号ピット	X33、Y33・34	0.48	0.43	1.12	0.50	円形	U字状
51号ピット	X33、Y34	0.51	0.40	1.28	0.51	楕円形	U字状
52号ピット	X33、Y35	0.45	0.44	1.02	0.36	円形	箱状
53号ピット	X33、Y34	0.43	0.41	1.05	0.52	円形	U字状
54号ピット	X32・33、Y34	0.45	0.43	1.05	0.38	円形	台形状
55号ピット	X33、Y34	0.55	0.48	1.15	0.38	円形	台形状
56号ピット	X33、Y34・35	0.67	0.55	1.22	0.18	楕円形	台形状
57号ピット	X27・28、Y35	0.50	0.47	1.06	0.31	円形	半円状
58号ピット	X27、Y36	0.49	0.45	1.09	0.19	円形	半円状
59号ピット	X27、Y36・37	0.35	0.35	1.00	0.24	円形	箱状
60号ピット	X27・28、Y36	0.42	0.41	1.02	0.23	円形	箱状
61号ピット	X28、Y35	0.56	0.56	1.00	0.29	円形	台形状
62号ピット	X29、Y 35・36	0.57	0.47	1.21	0.46	楕円形	階段状
63号ピット	X29、Y36	0.46	0.41	1.12	0.34	円形	台形状
64号ピット	X29、Y36	0.46	0.46	1.00	0.48	円形	階段状
65号ピット	X29、Y36	0.74	0.45	1.64	0.27	長楕円形	半円状
66号ピット	X31、Y36	0.36	0.35	1.03	0.26	円形	階段状

１区Ｈ－１

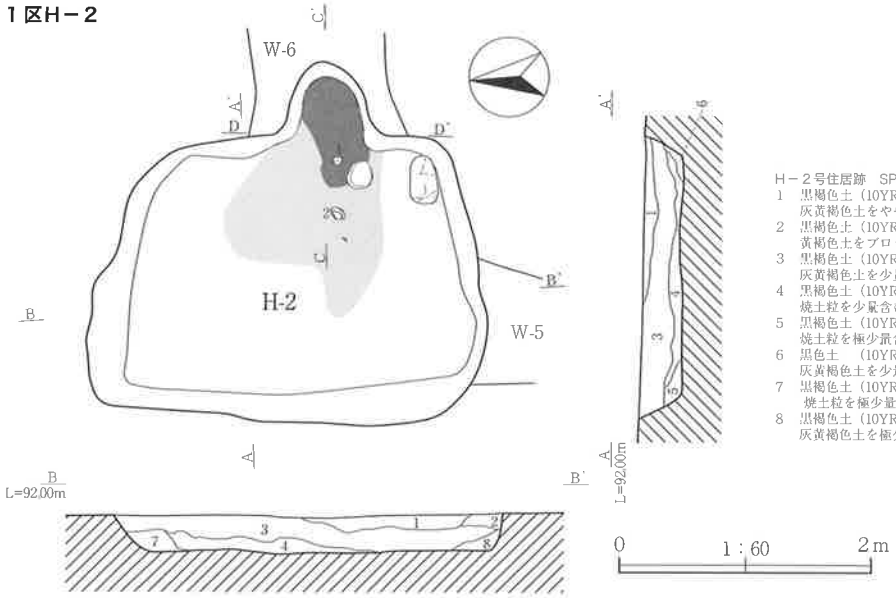


Ｈ－１号住居跡　SPA・B
1　黒褐色土（10YR2/3）
　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　黒褐色土（10YR2/2）
　黒色＊黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒色土　（10YR1.7/1）
　白色粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
4　黒褐色土（10YR2/2）
　焼土粒＊炭化物を極少量含む。締まり強く、粘性弱い。
Ｈ－１号住所跡　SPE
1　暗褐色土（10YR3/3）
　黄褐色土＊焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　黒褐色土（10YR2/3）
　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/3）
　黒＊黄褐色土をブロック状にやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。



Ｈ－１号住居跡竈　SPC＊D
1　黒褐色土（10YR2/2）
　白色粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/3）
　黄褐色土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR2/2）
　炭化物をやや多く含む、灰層。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）
　焼土粒を少量含む、竈崩落土。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7　暗褐色土（10YR3/3）
　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）
　炭化物を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
9　黒褐色土（10YR2/2）
　地山土。締まり弱く、粘性弱い。

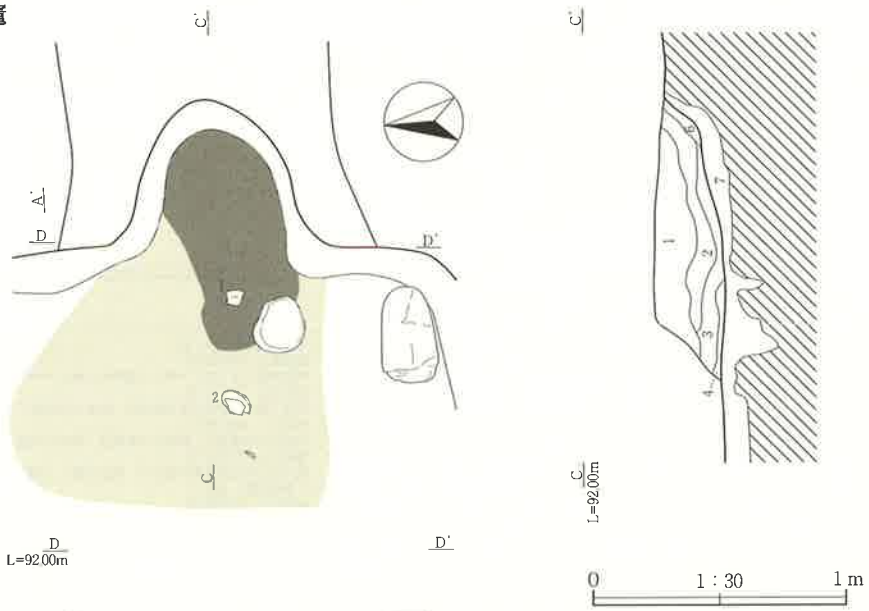
１区Ｈ－２



Ｈ－２号住居跡　SPA＊B
1　黒褐色土（10YR2/3）
　灰黄褐色土をやや多く含む。締まり強く、粘性やや弱い。
2　黒褐色土（10YR2/3）
　黄褐色土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）
　灰黄褐色土を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4　黒褐色土（10YR2/2）
　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
5　黒褐色土（10YR2/2）
　焼土粒を極少量含む。締まり強く、粘性やや強い。
6　黒色土　（10YR2/1）
　灰黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
7　黒褐色土（10YR2/2）
　焼土粒を極少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）
　灰黄褐色土を極少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

Fig.12　１区Ｈ－１・２号住居跡

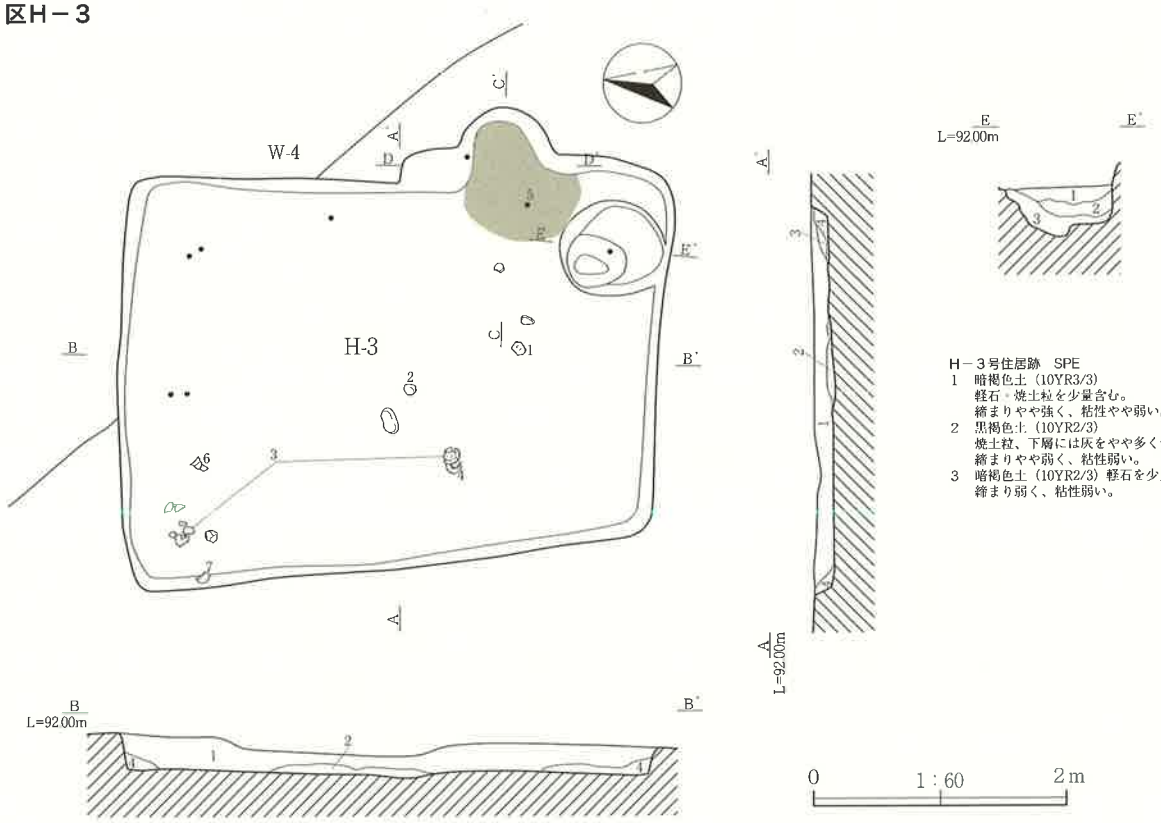
1区H－2竈



H－2号住居跡竈　SPC・D

1　黒褐色土（10YR2/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4　黒色土　（10YR2/1）　焼土粒を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）　炭化物を極少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）　白色粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
7　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒を極少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）　灰黄褐色土を極少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（W－6覆土）

1区H－3



H－3号住居跡　SPE

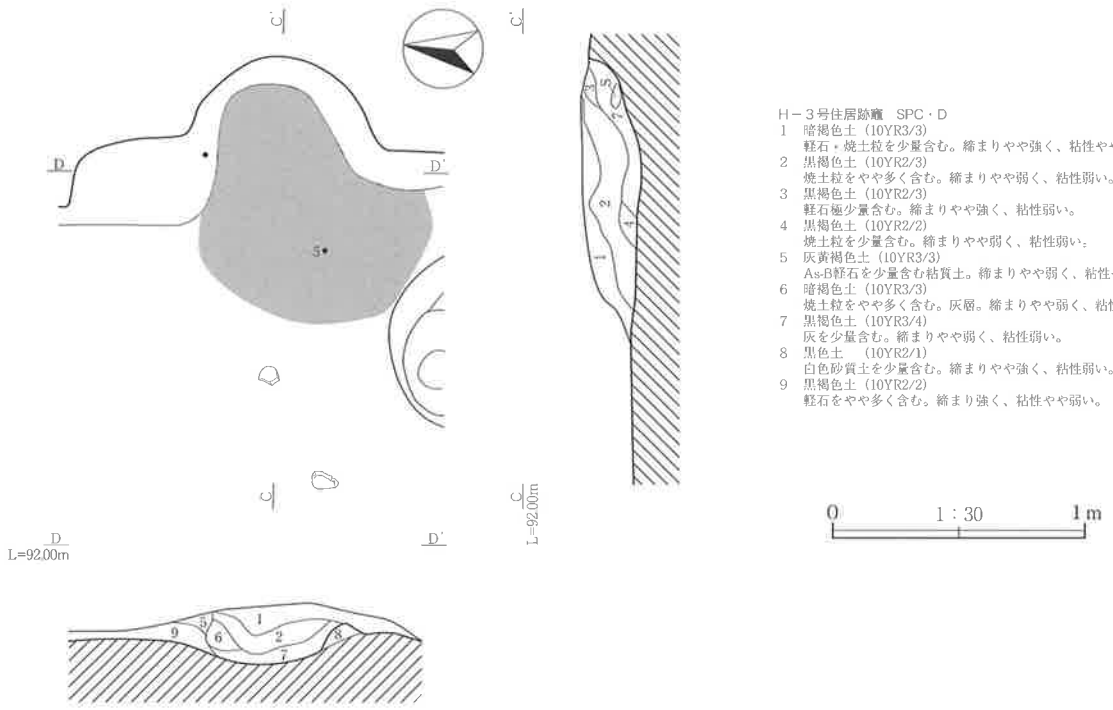
1　暗褐色土（10YR3/3）
　軽石・焼土粒を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　黒褐色土（10YR2/3）
　焼土粒、下層には灰をやや多く含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR2/3）軽石を少量含む。
　締まり弱く、粘性弱い。

H－3号住居跡　SPA・B

1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　炭化物・焼土粒を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）　1層と同質だが、含有物少ない。締まり強く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

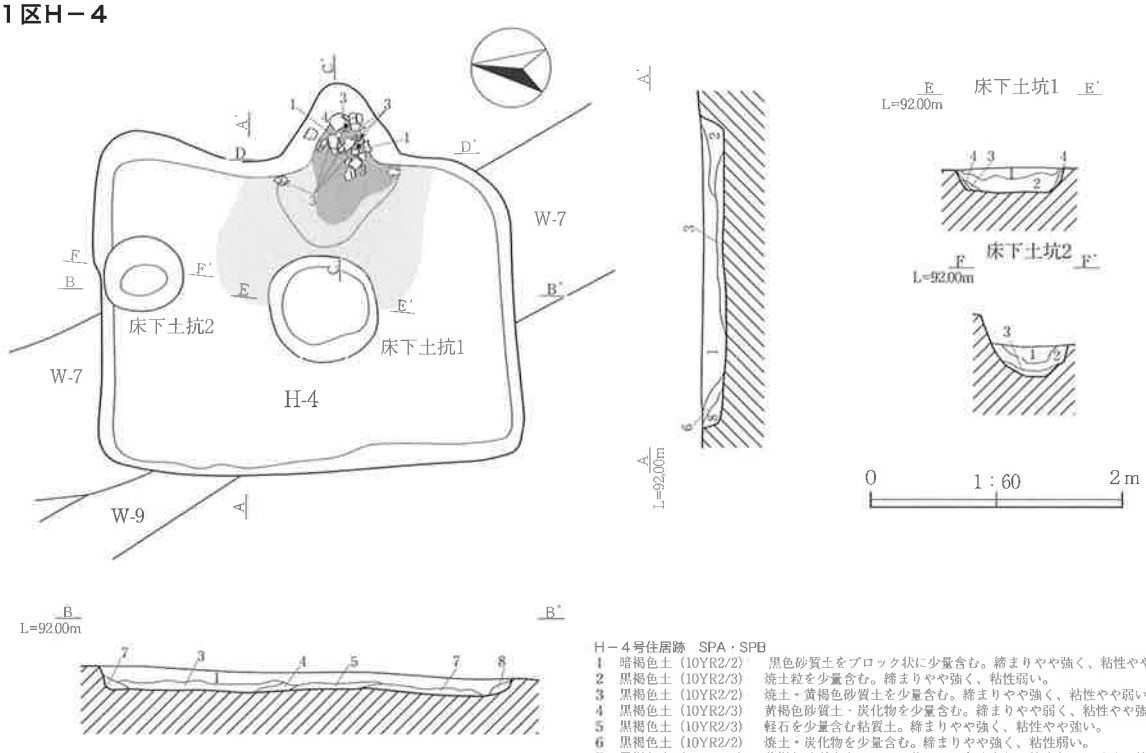
Fig.13　1区H－2号住居跡竈・H－3号住居跡

１区Ｈ－３竈



Ｈ－３号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）
　軽石・焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　黒褐色土（10YR2/3）
　焼土粒をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/3）
　軽石極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR2/2）
　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　灰黄褐色土（10YR3/3）
　As-B軽石を少量含む粘質土。締まりやや弱く、粘性やや強い。
6　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒をやや多く含む。灰層。締まりやや弱く、粘性弱い。
7　黒褐色土（10YR3/4）
　灰を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
8　黒色土　（10YR2/1）
　白色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
9　黒褐色土（10YR2/2）
　軽石をやや多く含む。締まり強く、粘性やや弱い。

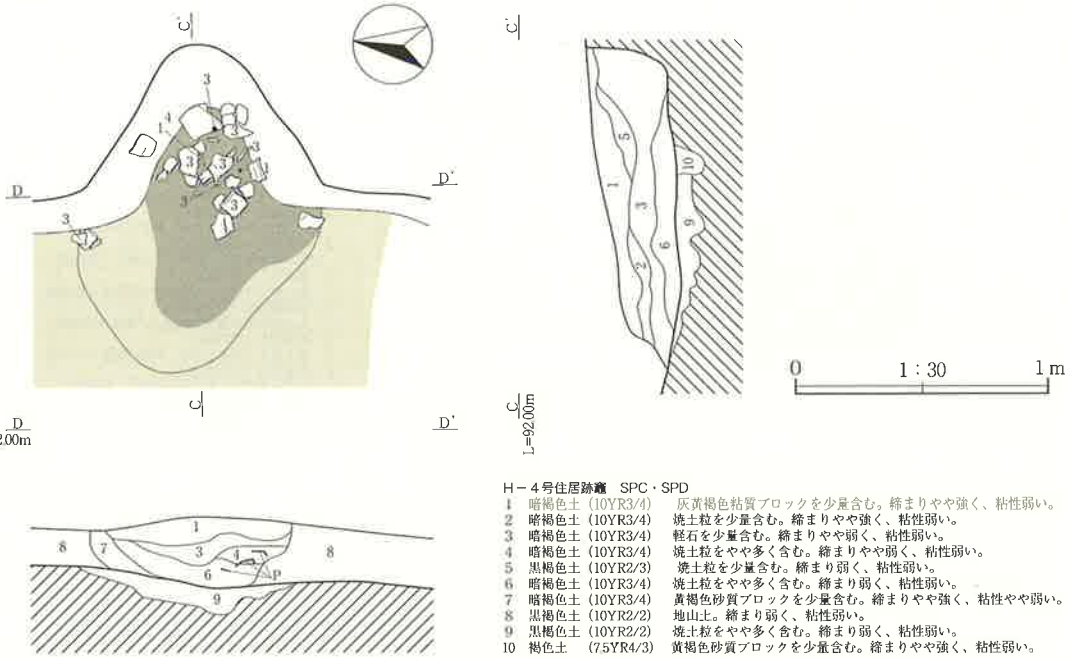
１区Ｈ－４



Ｈ－４号住居跡　SPA・SPB
1　暗褐色土（10YR2/2）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土（10YR2/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　焼土・黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
4　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色砂質土・炭化物を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
5　黒褐色土（10YR2/3）　軽石を少量含む粘質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
6　黒褐色土（10YR2/2）　焼土・炭化物を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
7　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色砂質土をブロック状にやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
Ｈ－４号住居跡床下土坑１　SPE
1　暗褐色土（10YR3/4）　灰黄褐色粘質ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
Ｈ－４号住居跡床下土坑２　SPF
1　暗褐色土（10YR3/4）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色土をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

Fig.14　１区Ｈ－３号住居跡竈・Ｈ－４号住居跡

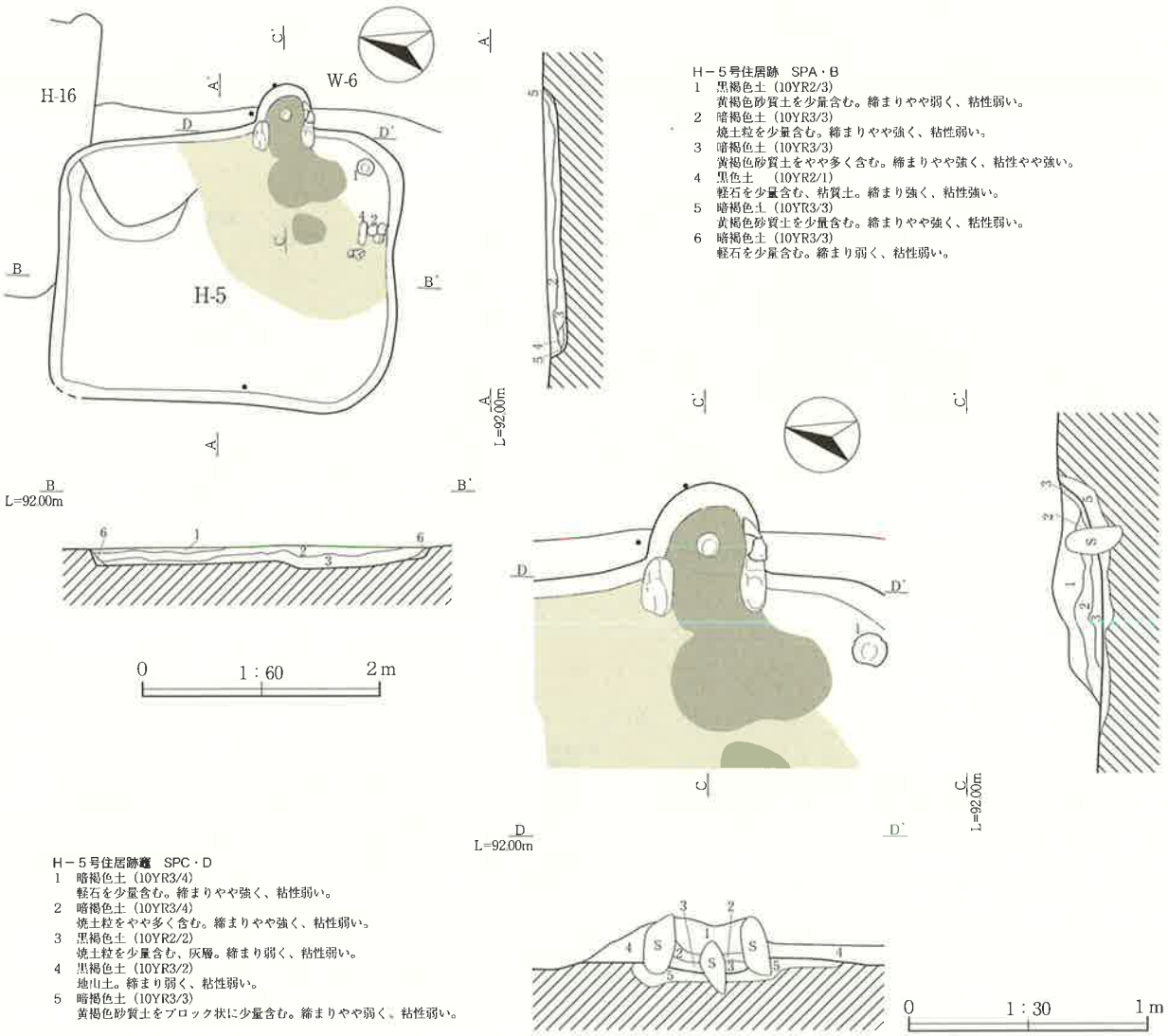
1区H－4竈



H－4号住居跡竈　SPC・SPD

1　暗褐色土（10YR3/4）　灰黄褐色粘質ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR2/3）　焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）　地山土。締まり弱く、粘性弱い。
9　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
10　褐色土　（7.5YR4/3）　黄褐色砂質ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

1区H－5



H－5号住居跡　SPA・B

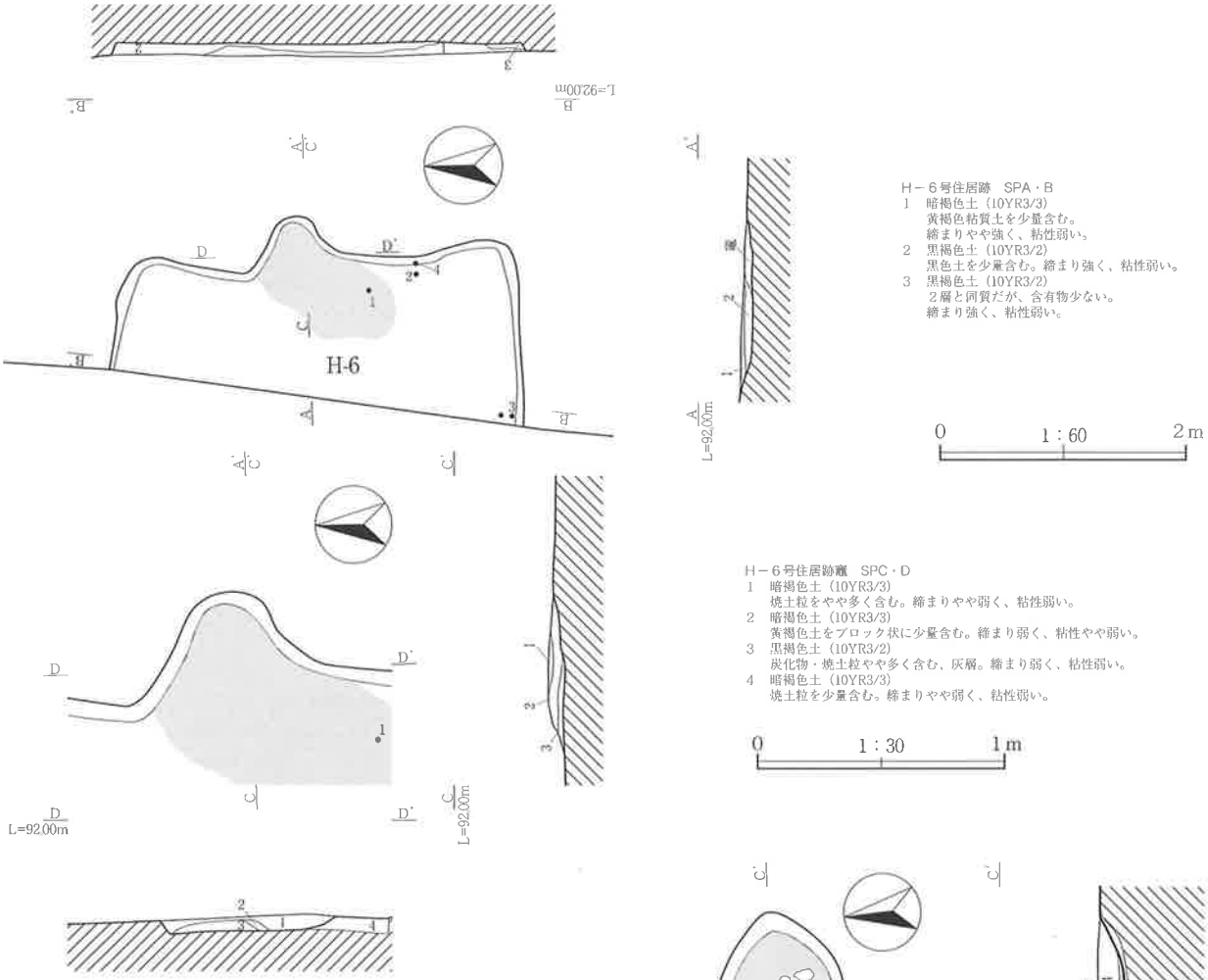
1　黒褐色土（10YR2/3）
　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　黄褐色砂質土をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　黒色土　（10YR2/1）
　軽石を少量含む、粘質土。締まり強く、粘性強い。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/3）
　軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

H－5号住居跡竈　SPC・D

1　暗褐色土（10YR3/4）
　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）
　焼土粒を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR3/2）
　地山土。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

Fig.15　1区H－4号住居跡竈・H－5号住居跡

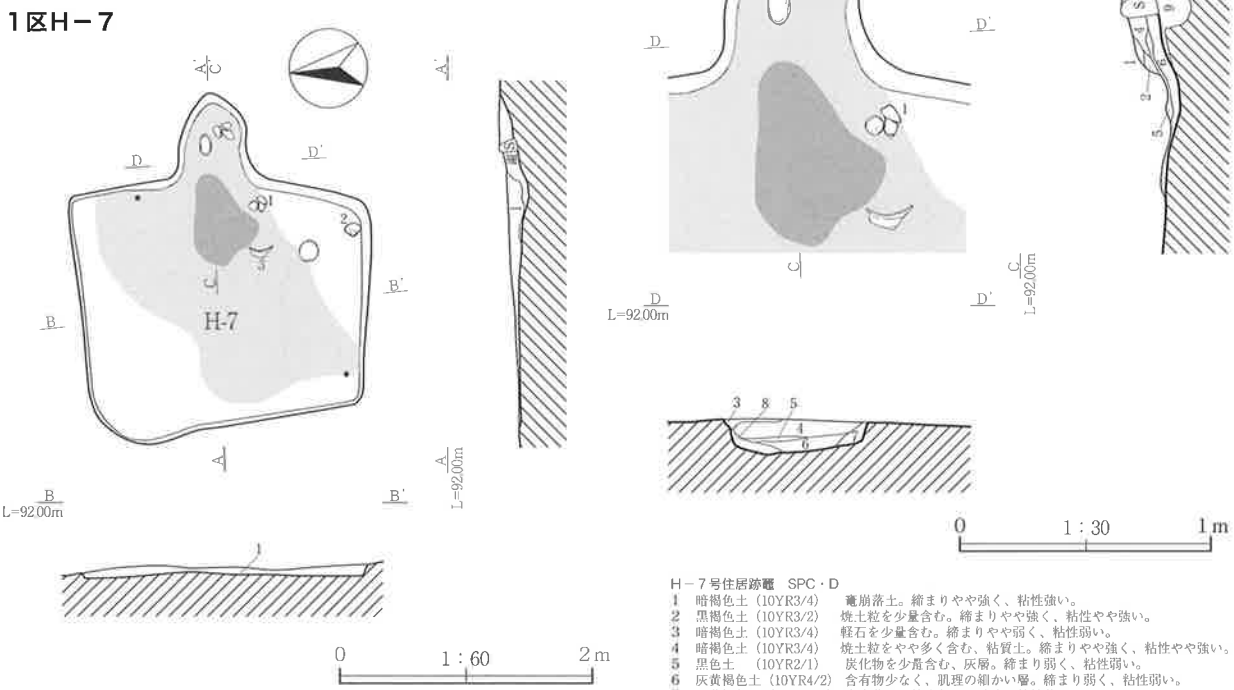
1区H－6



H－6号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）
　黄褐色粘質土を少量含む。
　締まりやや強く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）
　黒色土を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR3/2）
　２層と同質だが、含有物少ない。
　締まり強く、粘性弱い。

H－6号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　黄褐色土をブロック状に少量含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR3/2）
　炭化物・焼土粒やや多く含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

1区H－7

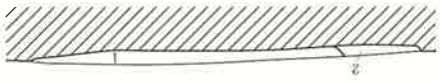


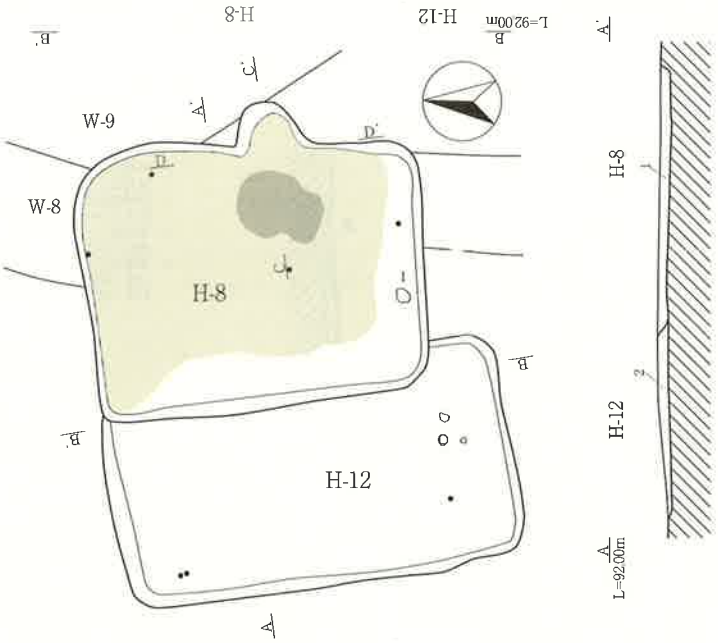
H－7号住居跡　SPA・B
1　黒褐色土（10YR2/3）　焼土粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

H－7号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/4）　竈崩落土。締まりやや強く、粘性強い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒をやや多く含む、粘質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
5　黒色土　（10YR2/1）　炭化物を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性弱い。
7　灰黄褐色土（10YR4/2）　竈崩落土。締まりやや強く、粘性強い。
8　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物を少量含む、灰層。締まりやや弱く、粘性弱い。
9　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色土を少量含む、竈掘り方。締まりやや弱く、粘性弱い

Fig.16　１区Ｈ－６・７号住居跡

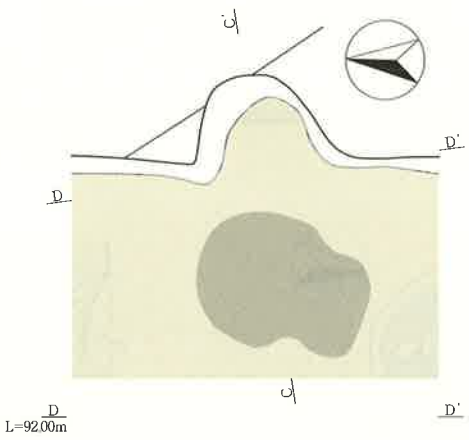
1区H－8・12

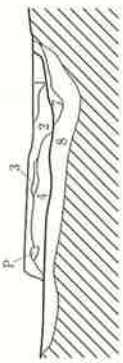




H－8・12号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）
　軽石・焼土粒を極少量含む。
　締まりやや強く、粘性強い。
2　黒褐色土（10YR3/2）
　黄褐色砂質土を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。（H－12覆土）

0　1：60　2m

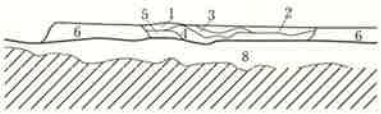


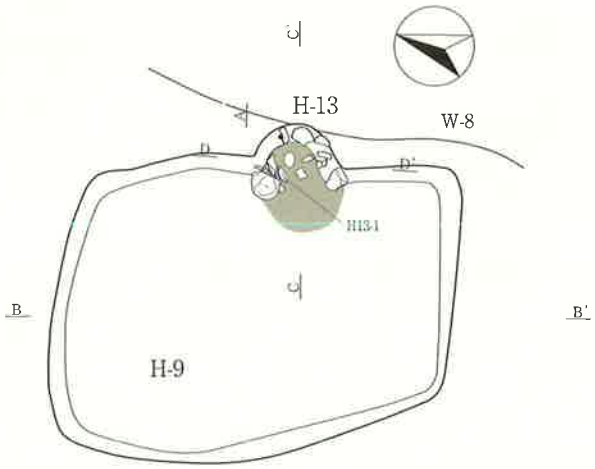


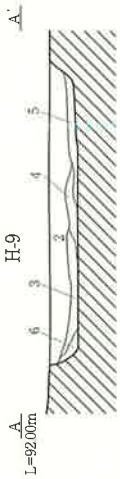
H－8号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒・灰を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）
　焼土粒を少量含む、粘質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒・炭化物を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR2/3）
　軽石・炭化物を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）
　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性弱い。
7　黒褐色土（10YR2/2）
　炭化物を少量含む、灰層。締まりやや弱く、粘性弱い。
8　暗褐色土（10YR3/4）
　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

0　1：30　1m

1区H－9・13







H－9号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　軽石・焼土粒をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR2/3）
　黄褐色土・焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR2/2）
　焼土粒を極少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
6　暗褐色土（10YR3/4）
　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性弱い。

0　1：60　2m

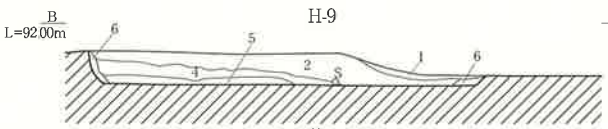
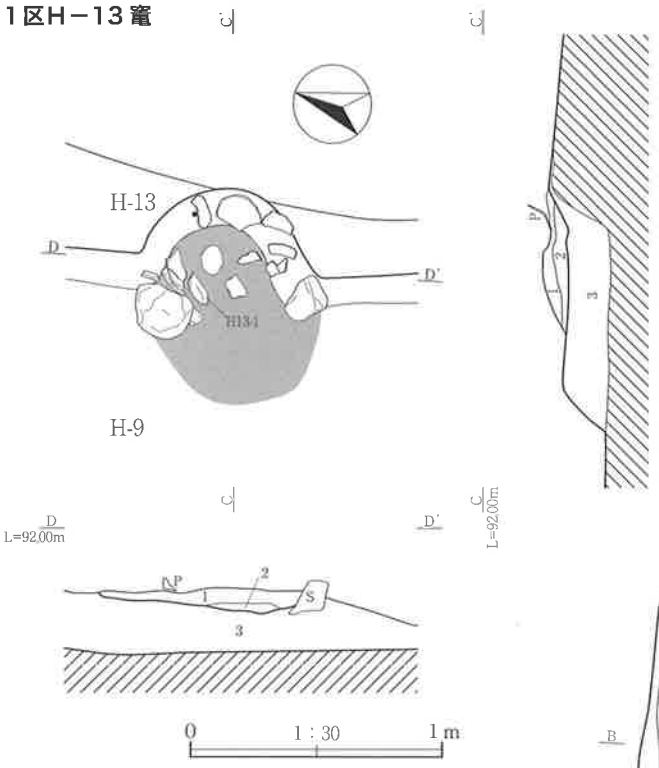


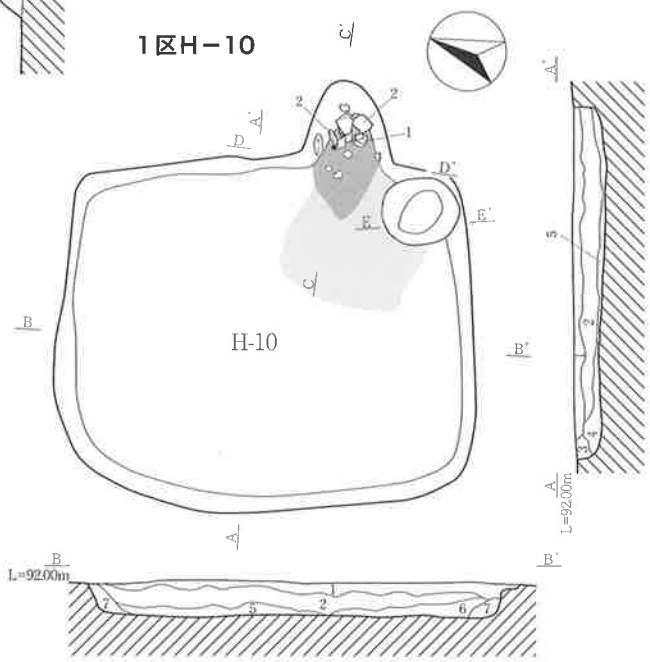
Fig.17　1区H－8・9・12・13号住居跡

1区H－13竈

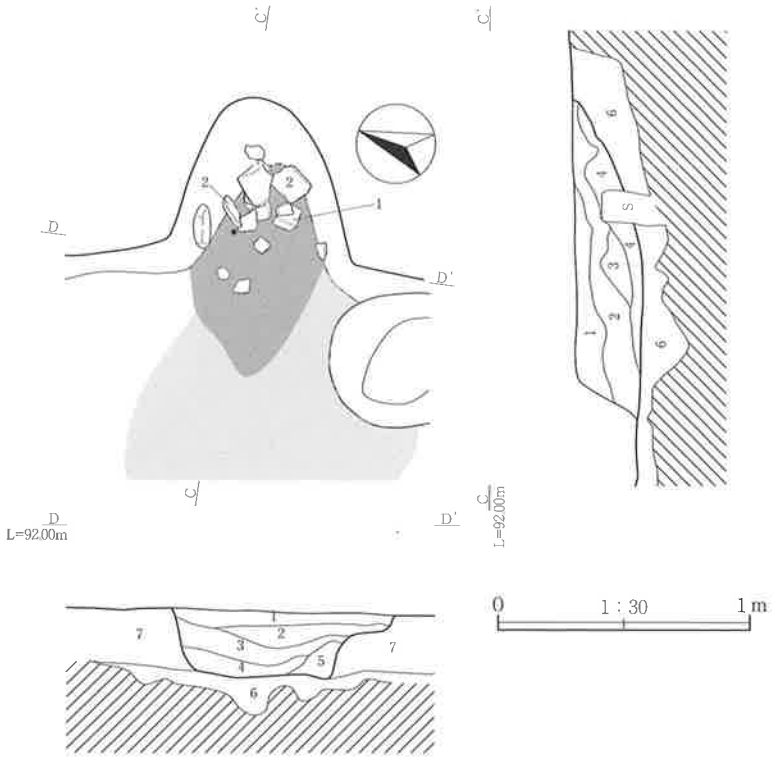


H－13号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒・炭化物をやや多く含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）
　黄褐色土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。（H－9覆土）

1区H－10



H－10号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR2/3）　褐色土をブロック状に少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
5　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色土をブロック状に少量含む。締まり弱く、粘性弱い。



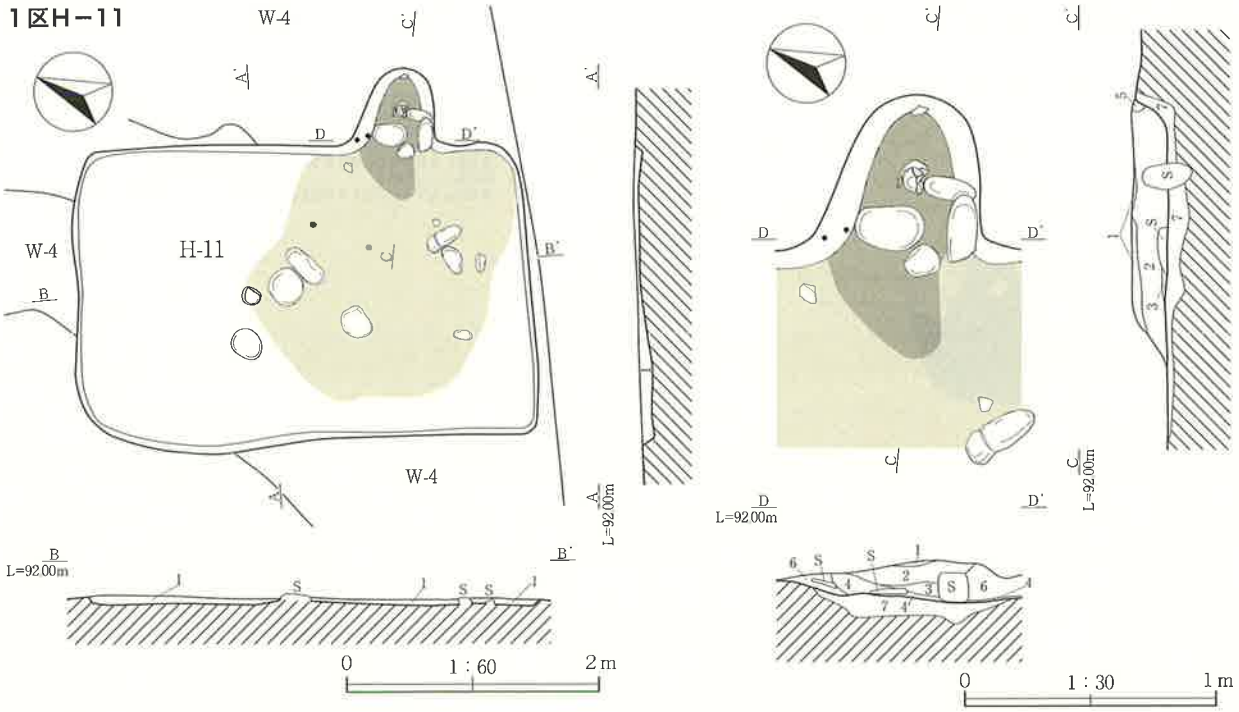
H－10号住居跡　SPE
1　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒を少量含む。
　締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　黄褐色土をブロック状に少量含む。
　締まりやや弱く、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/4）
　黄褐色土をブロック状に多く含む、
　地山風化土。締まり弱く、粘性弱い。

0　1：60　2m

H－10号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/4）
　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR2/3）
　焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
4　黒褐色土（10YR2/3）
　焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒を多く含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
6　黒褐色土（10YR2/3）
　暗褐色土ブロック状に少量含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
7　黒褐色土（10YR2/3）
　地山土。締まり弱く、粘性やや弱い。

Fig.18　1区H－13号住居跡竈・H－10号住居跡

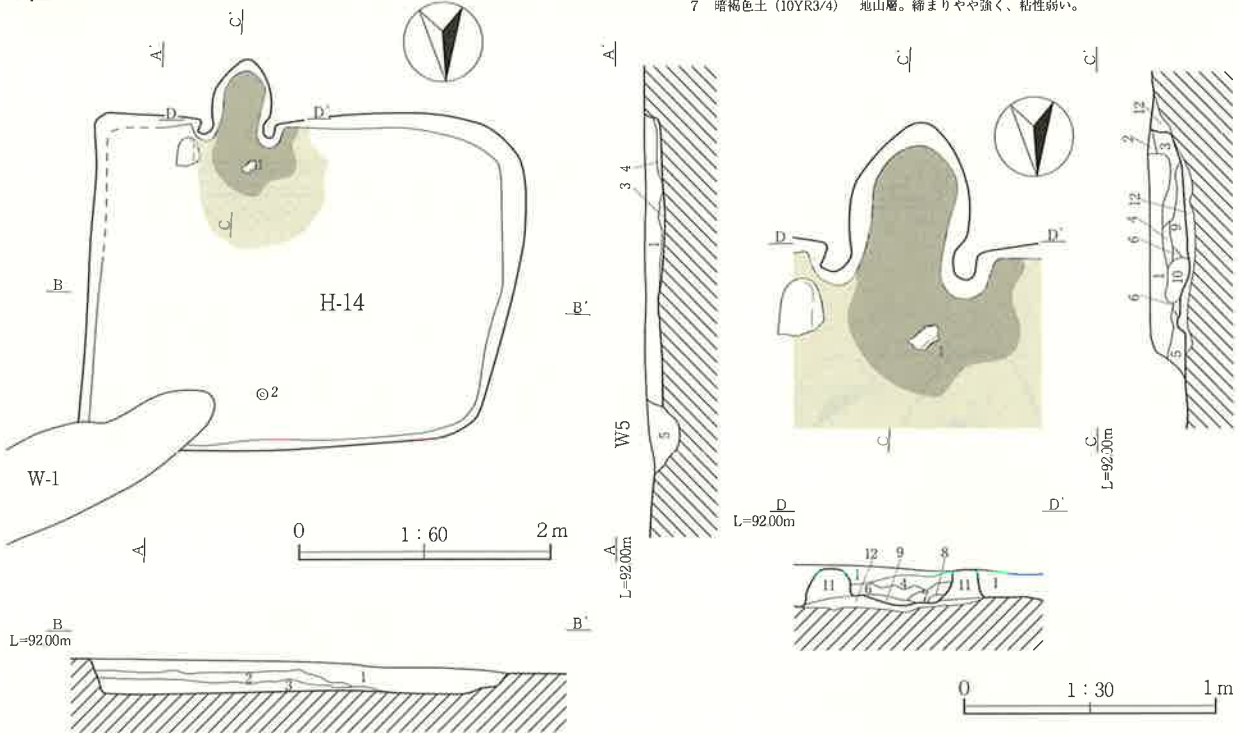
1区H－11



H－11号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）白色粒、焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

H－11号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒をブロック状に多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　白色粒・焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　褐色土　（7.5YR4/3）　焼土粒を中心とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
4　褐色土　（10YR4/4）　白色粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　褐色土　（7.5YR4/3）　焼土粒を中心とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒をブロック状に含む。締まりやや強く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）　地山層。締まりやや強く、粘性弱い。

1区H－14

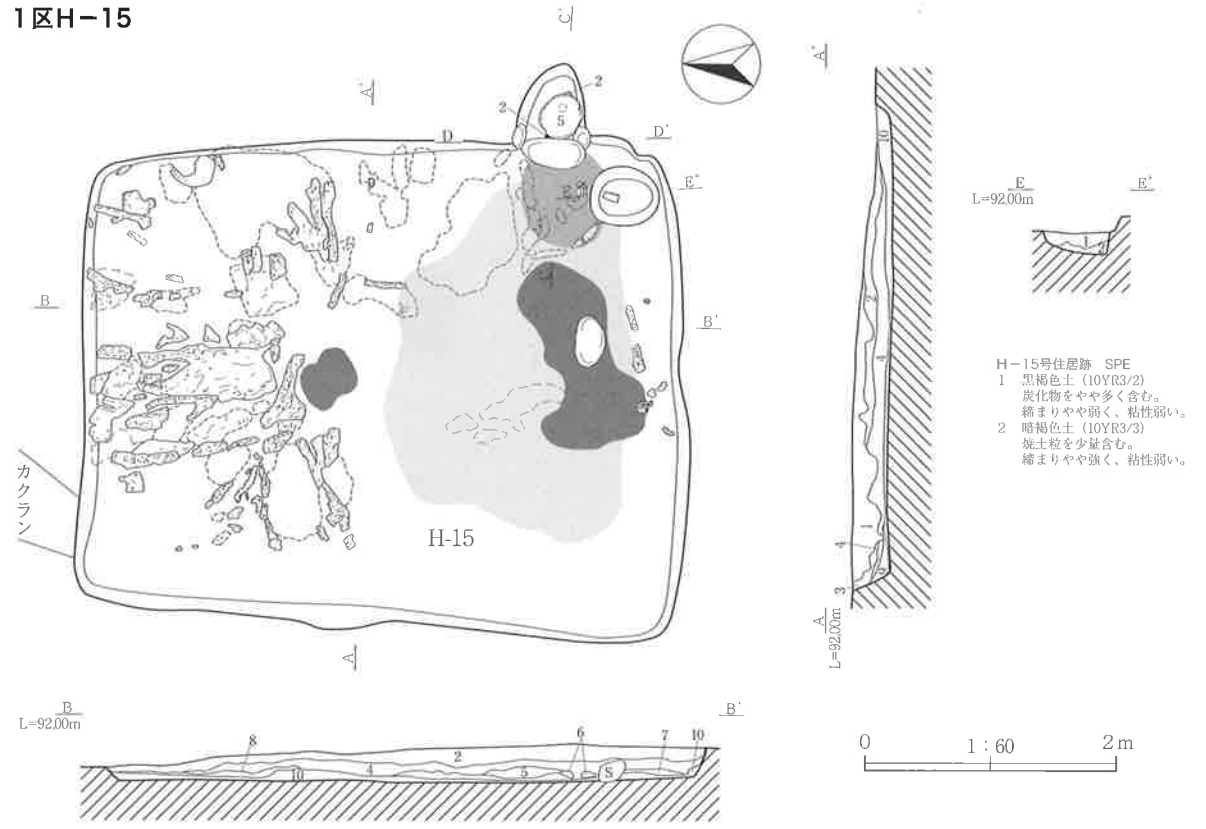


H－14号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　白色粒・炭化物を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR3/2）　２層と同質だが、白色粒がやや多い。締まり強く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　W－１覆土で、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。

H－14号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　白色粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　褐色土　（7.5YR4/3）　焼土粒を中心とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
3　にぶい黄褐色土　（7.5YR4/3）　焼土粒をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土　（10YR3/2）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　天井崩落土と思われる焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
7　褐色土　（7.5YR4/3）　焼土粒を中心とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
9　黒褐色土（10YR2/2）　８層と同質だが、やや黒みが強い。締まり弱く、粘性弱い。
10　褐色土　（7.5YR4/3）　天井崩落土を中心とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
11　明褐色土（7.5YR5/6）　竈袖構築土、粘土層。締まり強く、粘性強い。
12　暗褐色土（10YR3/4）　地山層。締まりやや強く、粘性弱い。

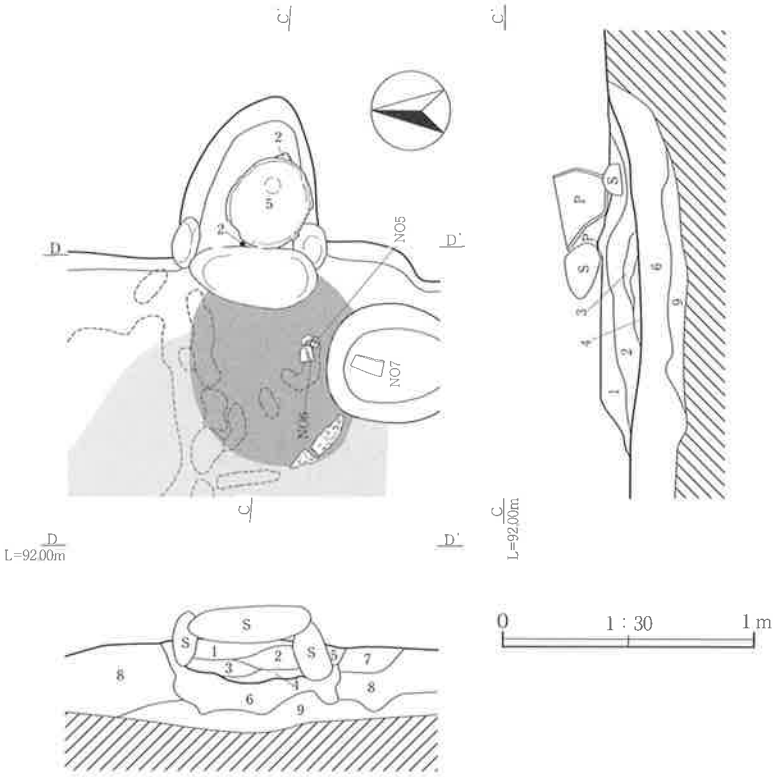
Fig.19　１区Ｈ－11・14号住居跡

1区H－15



H－15号住居跡　SPE
1　黒褐色土（10YR3/2）
　炭化物をやや多く含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒を少量含む。
　締まりやや強く、粘性弱い。

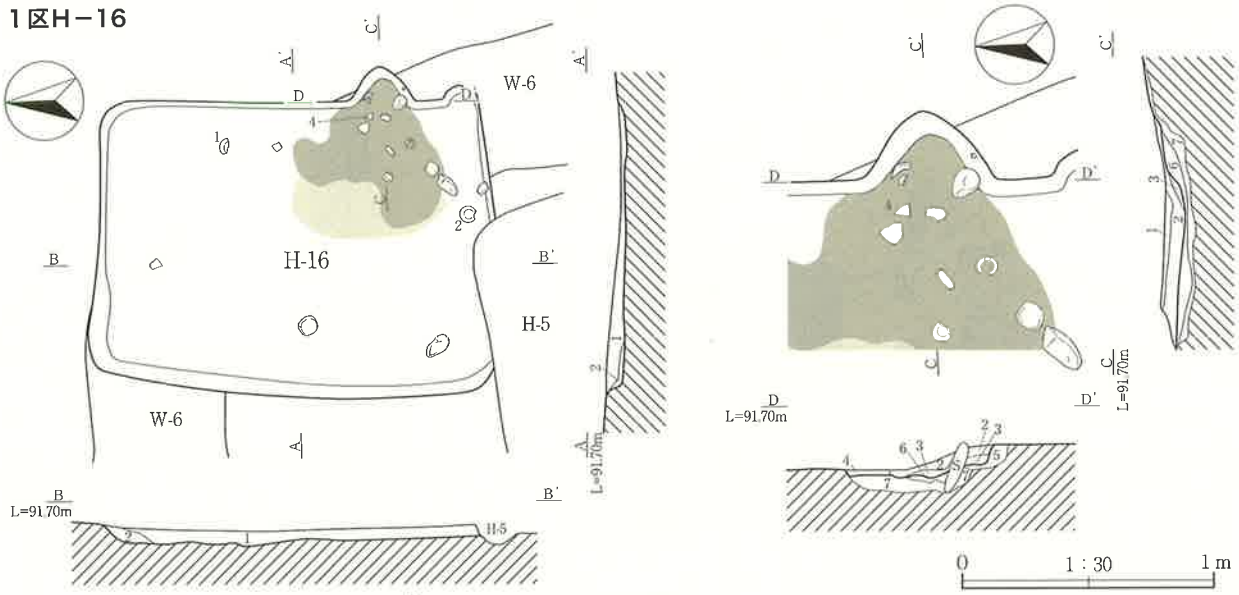
H－15号住居跡　SPA・B
1　攪乱土層
2　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR3/2）　白色粒を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物。＊白色粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR3/2）　炭化物をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　褐色土　（7.5YR4/6）　焼土粒を中心とする層。締まり弱く、粘性弱い。
7　黒褐色土（10YR3/2）　炭化物をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
8　黒褐色土（10YR3/2）　7層と同質で炭化物をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
9　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
10　黒褐色土（10YR3/2）　焼失した柱材等の炭化物を主とする層。締まりやや弱く、粘性弱い。



H－15号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）
　焼土粒＊炭化物を多く含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒・炭化物をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/4）
　粘質土。締まり強く、粘性強い。
6　暗褐色土（10YR3/3）
　灰＊焼土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）
　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
8　黒褐色土（10YR2/3）
　軽石＊灰黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
9　暗褐色土（10YR3/4）
　暗褐色土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

Fig.20　1区H－15号住居跡

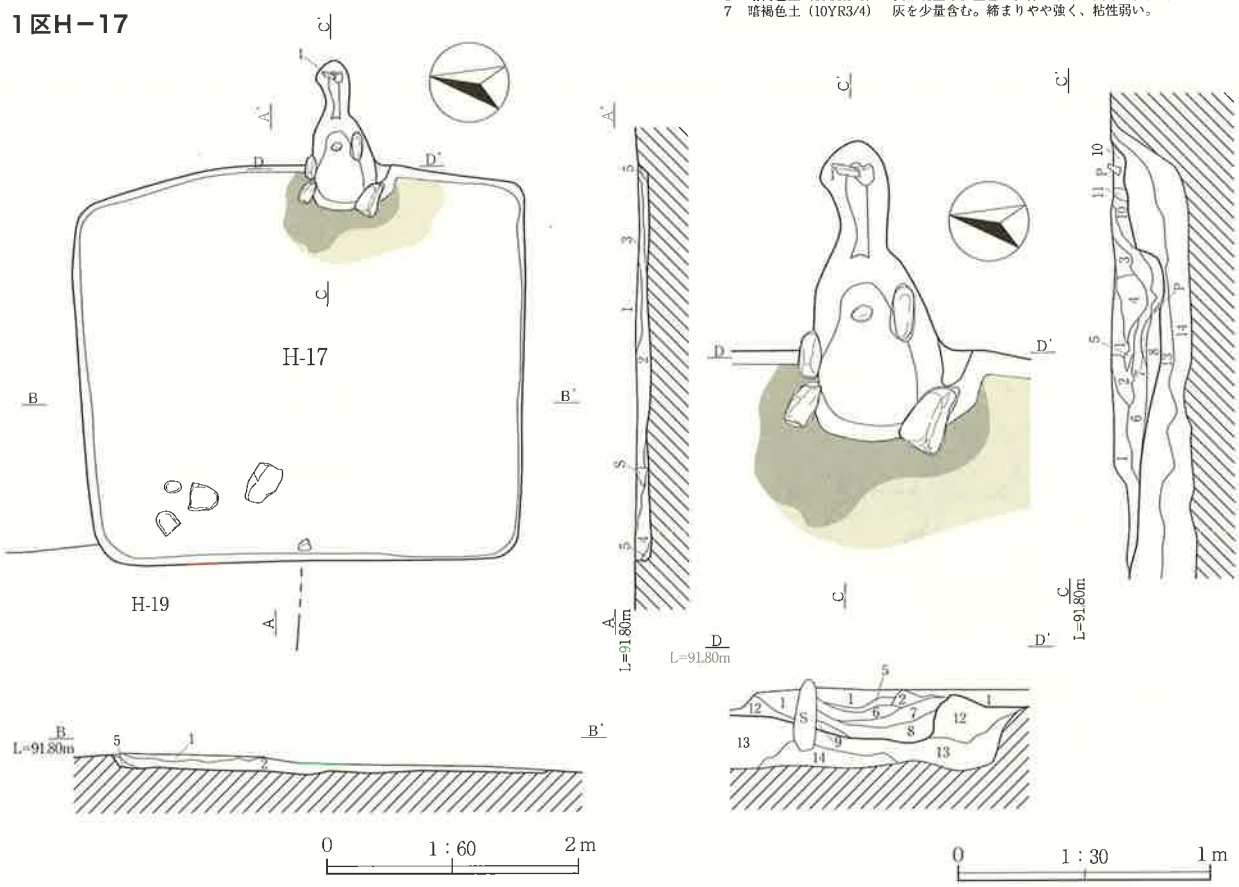
1区H－16



H－16号住居跡　SPA・B
1　黒褐色土（10YR3/2）　白色粒をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　白色粘質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

H－16号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　褐色土　（10YR4/4）　焼土粒をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　褐色土　（7.5YR4/3）　焼土粒・炭化物を多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰を多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/4）　粘質土による竈袖構築土層。締まり強く、粘性強い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　灰・焼土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）　灰を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

1区H－17

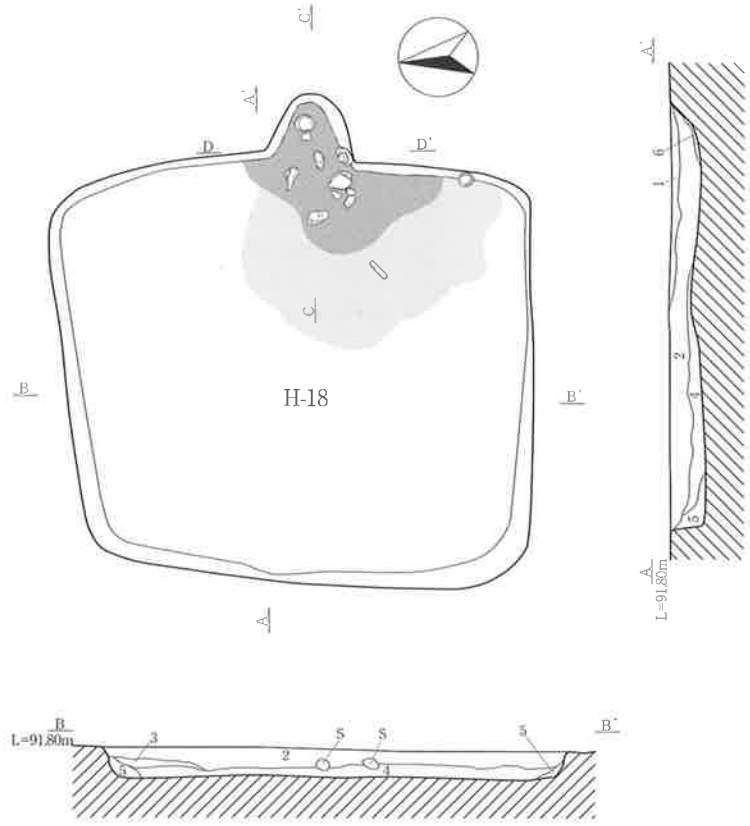


H－17号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　白色粒・粘質小土塊を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　褐色土　（10YR4/3）　焼土粒・炭化物を多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR2/2）　灰黄褐色粘質土をまばらに含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

H－17号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　白色粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　にぶい黄褐色土　（10YR7/3）　竈構築土の崩落土層。締まり強く、粘性強い。
3　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土　（10YR3/2）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR3/2）　灰黄褐色粘質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
7　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰を多く層。締まりやや弱く、粘性弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
9　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰を多く層。締まりやや弱く、粘性弱い。
10　褐色土　（7.5YR4/3）　天井崩落土を中心とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
11　明褐色土（7.5YR5/6）　煙道部先端構築土か、粘土層。締まり強く、粘性強い。
12　暗褐色土（10YR3/4）　地山層。締まりやや強く、粘性弱い。
13　暗褐色土（10YR3/4）　地山層。締まりやや強く、粘性弱い。
14　黄褐色土（10YR5/6）　地山層。締まりやや強く、粘性弱い。

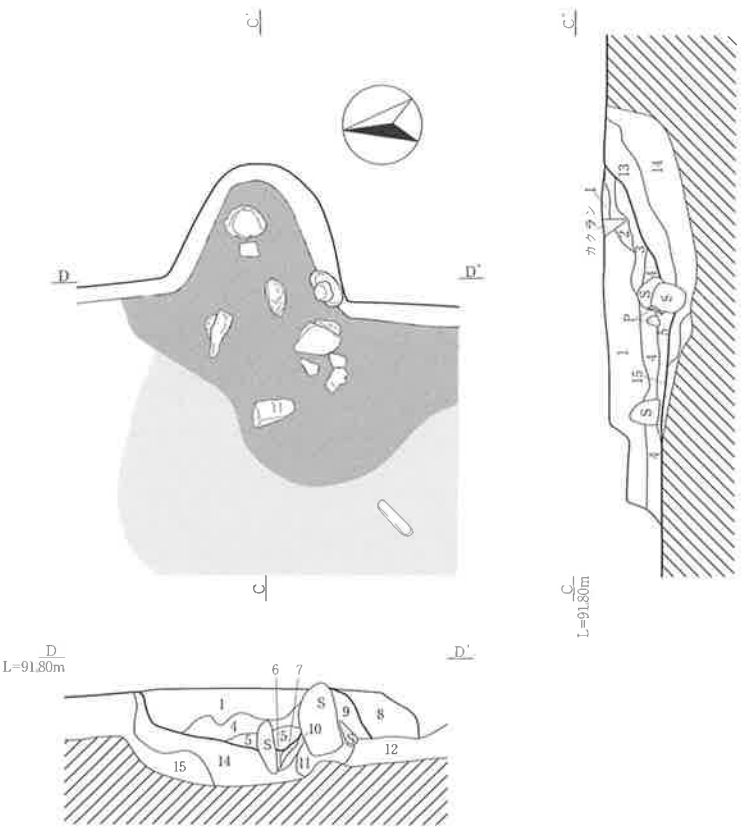
Fig.21　1区H－16・17号住居跡

1区H－18



H－18号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）
白色粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
焼土粒を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
灰黄褐色粘質土をブロック状に含む。締まり強く、粘性やや強い。
4　黒褐色土（10YR3/2）
炭化物・焼土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）
白色粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
6　黒褐色土（10YR2/2）
にぶい黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

0　1：60　2m

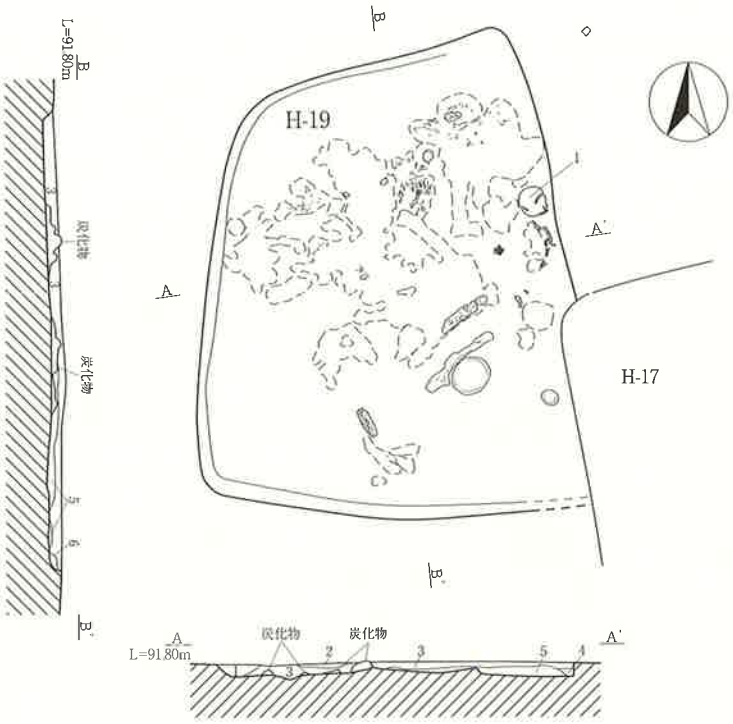


H－18号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）
白色粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　にぶい黄褐色土　（10YR7/3）
竈構築土の崩落土層。締まり強く、粘性強い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
炭化物を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土　（10YR3/2）
焼土粒＊炭化物を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR3/2）
炭化物・灰を多く含む、灰層。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　黒褐色土（10YR2/2）
焼土粒を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
7　黒褐色土（10YR2/2）
炭化物＊灰を多く層。締まりやや弱く、粘性弱い。
8　黒褐色土（10YR2/2）
炭化物を少量含む、灰層。締まり弱く、粘性弱い。
9　褐色土　（7.5YR4/3）
竈構築土か。袖石の補強に思われる。締まりやや強く、粘性強い。
10　褐色土　（7.5YR4/3）
天井崩落土を中心とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
11　明褐色土（7.5YR5/6）
煙道部先端構築土か、粘土層。締まり強く、粘性強い。
12　暗褐色土（10YR3/4）
地山層。締まりやや強く、粘性弱い。
13　暗褐色土（10YR3/4）
地山層。締まりやや強く、粘性弱い。
14　黄褐色土（10YR5/6）
地山層。締まりやや強く、粘性弱い。
15　暗褐色土（10YR3/4）
地山層。締まりやや強く、粘性弱い。

0　1：30　1m

Fig.22　1区H－18号住居跡

1区H－19

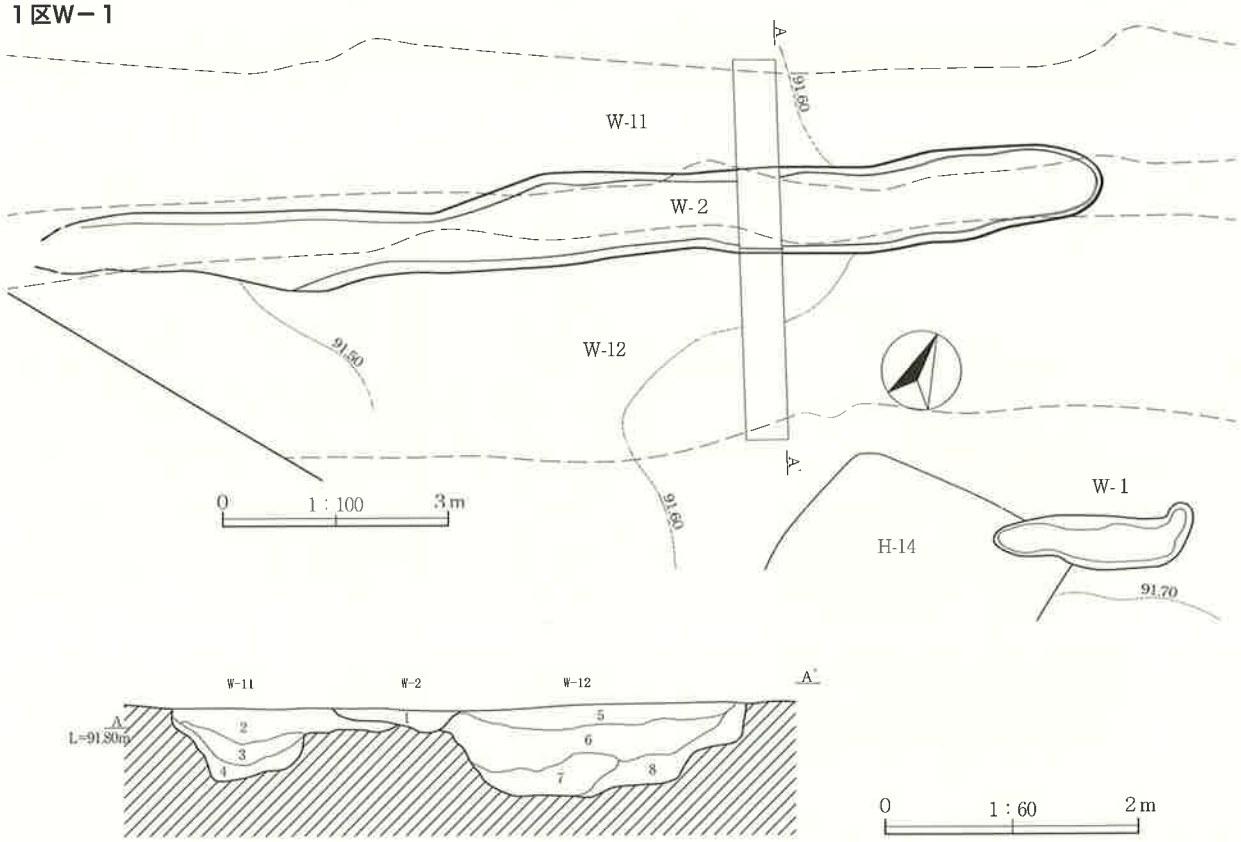


H－19号住居跡　SPA・B

1　暗褐色土（10YR3/3）
　白色粒を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　1層と同質だが、やや炭化物を多く含む。締まり強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）
　炭化物をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）
　炭化物・焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　明褐色土（7.5YR3/4）
　焼土粒を中心とする層で、間に黄褐色土を含む。
　締まり弱く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/3）
　灰黄褐色粘質土を極少量含む。締まり強く、粘性弱い。

0　1：60　2m

1区W－1

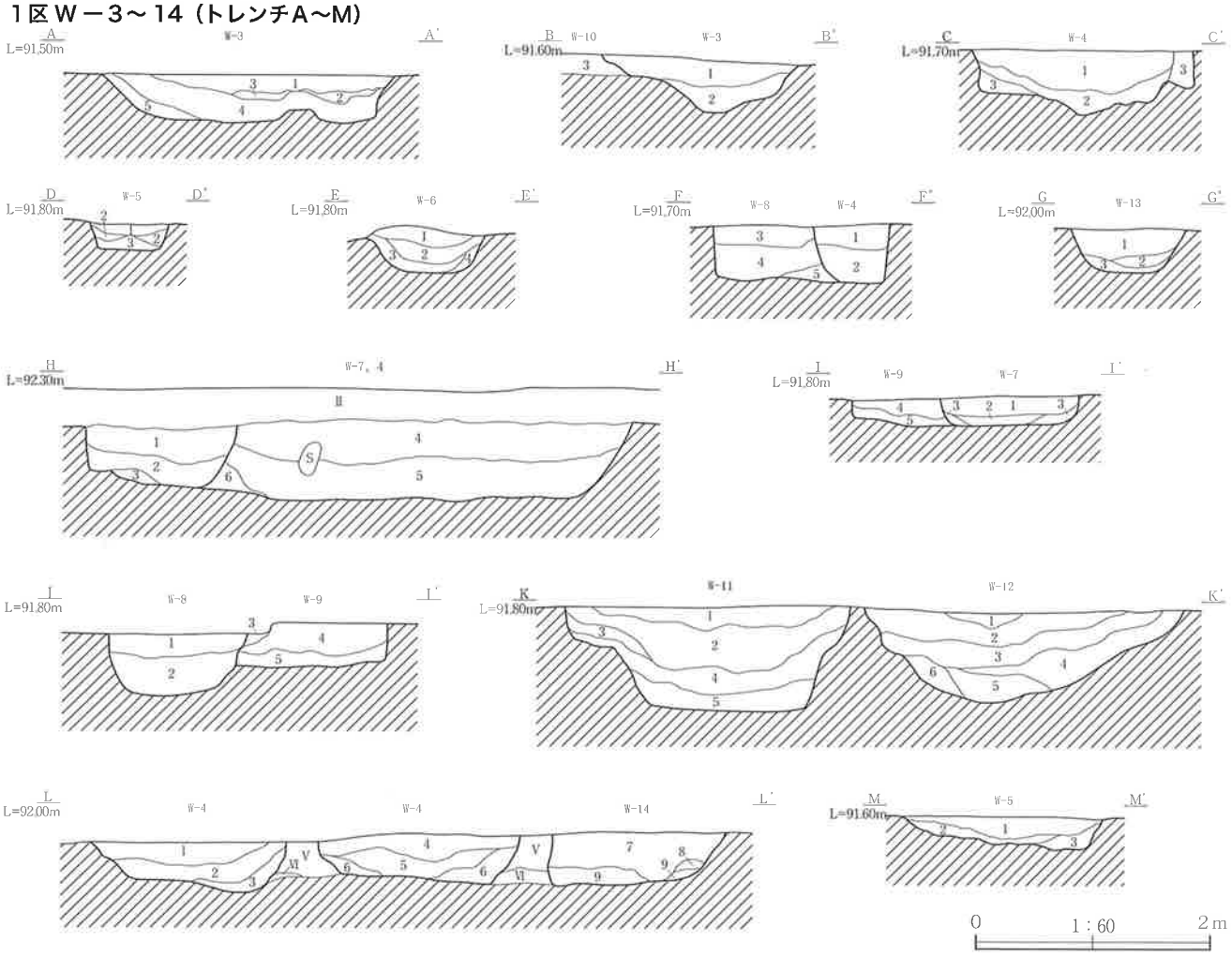


W－2・11・12号溝　SPA

1　暗褐色土　(10YR3/4)　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。（W－2覆土）
2　暗褐色土　(10YR3/3)　黒褐色砂質土を多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－11覆土）
3　黒褐色土　(10YR3/2)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－11覆土）
4　黒褐色土　(10YR3/2)　含有物が少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや弱い。（W－11覆土）
5　暗褐色土　(10YR3/4)　黄褐色粘質土・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（W－12覆土）
6　黒褐色土　(10YR3/2)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－12覆土）
7　暗褐色土　(10YR3/3)　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－12覆土）
8　黒褐色土　(10YR3/2)　褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－12覆土）

Fig.23　1区H－19号住居跡・W－1・2号溝

1区W－3～14（トレンチA～M）



W－3号溝　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土　（10YR3/4）　黄褐色粘質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　暗褐色土　（10YR3/3）　含有物が少なく、肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
5　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色粘質土を極少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

W－3・10号溝　SPB
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色粘質土を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　にぶい黄褐色土　（10YR4/3）　暗褐色土を少量含み、肌理の粗い層。締まりやや弱く、粘性やや強い。

W－4号溝　SPC
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

W－5号溝　SPD
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色粘質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

W－6号溝　SPE
1　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色粘質土を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土　（10YR3/3）　含有物が少なく、肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性やや強い。
4　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

W－4・8号溝　SPF
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　暗褐色土　（10YR3/3）　含有物が少なく、肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性やや強い。
5　暗褐色土　（10YR3/4）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

W－13号溝　SPG
1　暗褐色土　（10YR3/4）　暗褐色砂質土をブロック状に含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　灰黄褐色粘質土を多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

W－7・4号溝　SPH
Ⅱ　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
1　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色土＊軽石少量を含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　にぶい黄褐色土　（10YR4/3）　含有物が少なく、肌理の細かい層。地山風化土か。
締まりやや弱く、粘性やや強い。
4　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石＊焼土粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色土＊焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
6　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色土をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。

W－7・9号溝　SPI
1　暗褐色土　（10YR3/4）　暗褐色砂質土をブロック状に少量含む。
締まりやや強く、粘性弱い。（W－7覆土）
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（W－7覆土）
3　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－7覆土）
4　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（W－9覆土）
5　黒褐色土　（10YR2/3）　黄褐色砂質土＊軽石を少量含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－9覆土）

W－8＊9号溝　SPJ
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－8覆土）
2　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色粘質土を極少量含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－8覆土）
3　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－9覆土）
4　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色粘質土をブロック状に多く含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－9覆土）
5　暗褐色土　（10YR3/4）　4層と同質だが、含有物がやや少ない。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－9覆土）

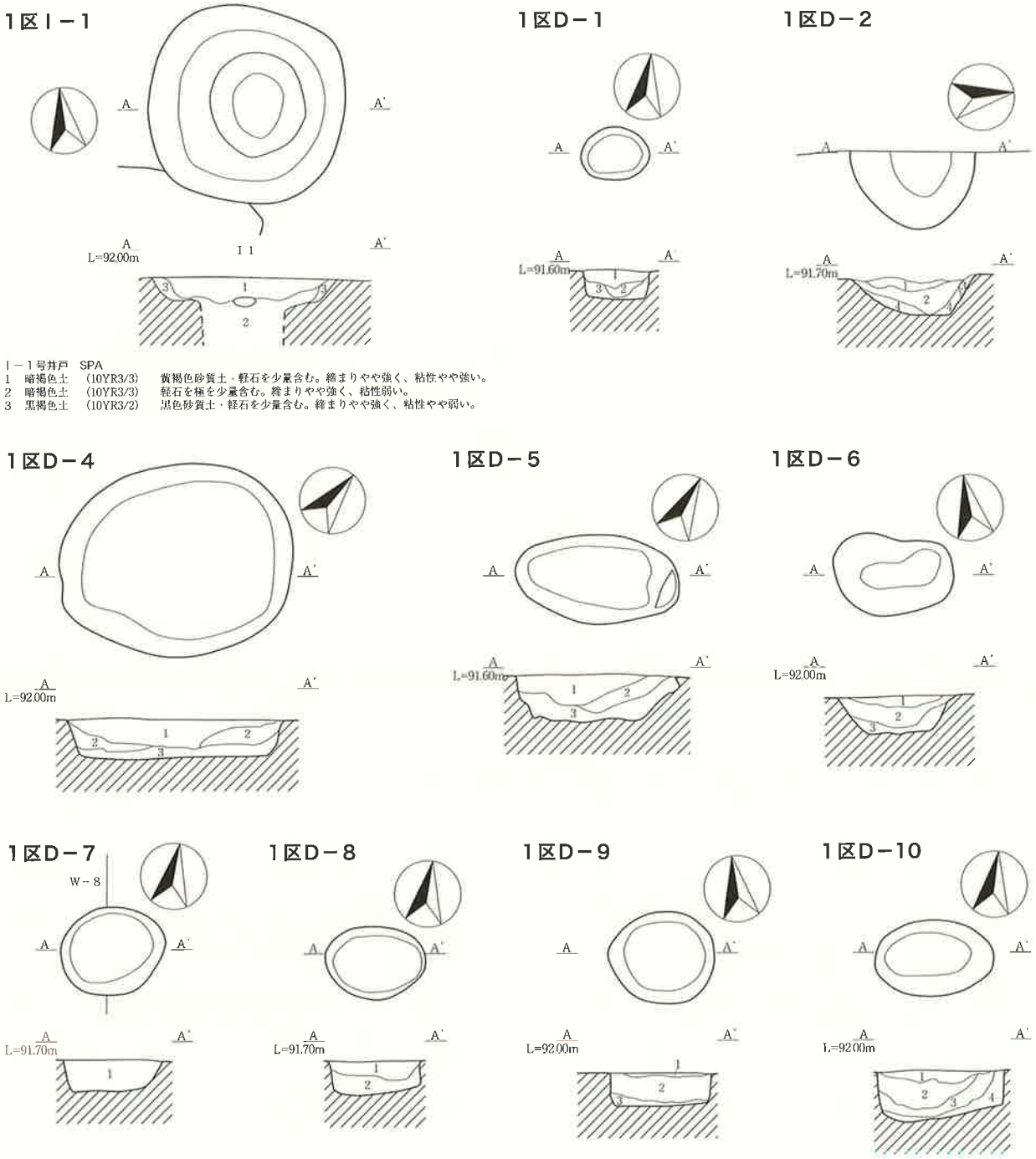
W－11号溝　SPK
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石を極少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
3　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色粘質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
5　黒褐色土　（10YR2/3）　暗褐色土をブロック状に含む。締まり弱く、粘性弱い。

W－12号溝　SPK
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/4）　黄褐色粘質土を極少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色粘質土・軽石を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
5　黒褐色土　（10YR2/3）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
6　黒褐色土　（10YR2/3）　暗褐色土をブロック状に含む。地山風化土層。
締まりやや強く、粘性やや強い。

W－4・14号溝　SPL
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－4覆土）
2　暗褐色土　（10YR3/4）　黄褐色粘質土を極少量含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－4覆土）
3　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－4覆土）
4　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－4覆土）
5　暗褐色土　（10YR3/4）　褐色砂質土をブロック状に含む。
締まりやや強く、粘性弱い。（W－4覆土）
6　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－4覆土）
7　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。（W－14覆土）
8　黒褐色土　（10YR2/2）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（W－14覆土）
9　暗褐色土　（10YR3/4）　黄褐色砂質土を少量含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。（W－14覆土）

W－5号溝　SPM
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

Fig.24　1区W－3～14号溝



Ｉ－１号井戸　SPA
1　暗褐色土　(10YR3/3)　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　(10YR3/3)　軽石を極を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　(10YR3/2)　黒色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

D－１号土坑　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　(10YR3/3)　軽石を極少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　(10YR3/2)　褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

D－２号土坑　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　(10YR3/3)　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　(10YR3/2)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
4　暗褐色土　(10YR3/3)　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

D－４号土坑　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　(10YR3/2)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
3　黄褐色土　(10YR5/6)　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性弱い。

D－５号土坑　SPA
1　暗褐色土　(10YR3/3)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　(10YR3/2)　黄褐色土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土　(10YR3/4)　黄褐色土をブロック状にやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

D－６号土坑　SPA
1　黄褐色土　(10YR3/3)　黄褐色土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　(10YR3/2)　黒褐色土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　(10YR2/3)　黄褐色土を少量含む。締まり強く、粘性弱い。

D－７号土坑　SPA
1　暗褐色土　(10YR3/3)　黄褐色土をブロック状にやや多く含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。

D－８号土坑　SPA
1　暗褐色土　(10YR3/3)　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
2　黒褐色土　(10YR3/2)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

D－９号土坑　SPA
1　暗褐色土　(10YR3/4)　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性弱い
2　黒褐色土　(10YR3/2)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
3　黒褐色土　(10YR2/3)　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

D－10号土坑　SPB
1　暗褐色土　(10YR3/4)　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　(10YR3/3)　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　(10YR3/2)　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
4　暗褐色土　(10YR3/3)　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

0　1：60　2m

Fig.25　１区Ｉ－１号井戸、D－１・２・４～10号土坑

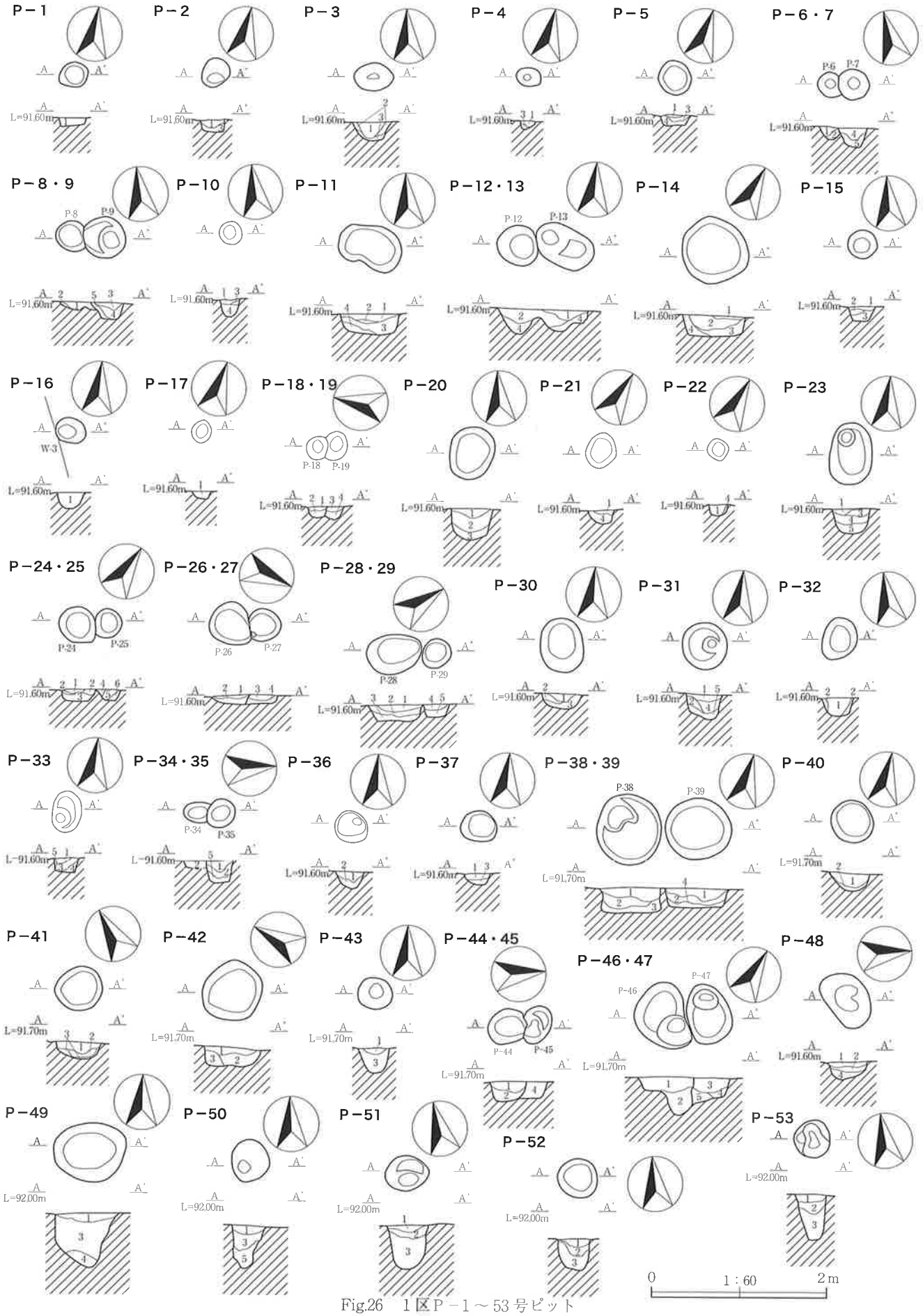
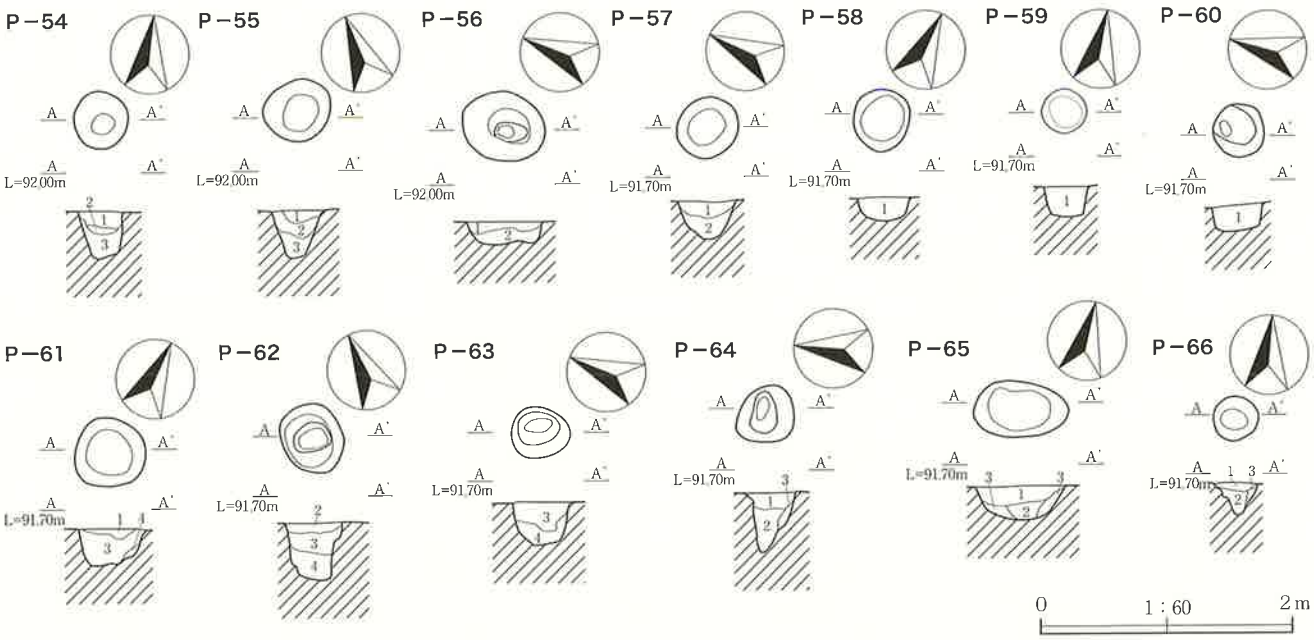


Fig.26　1区P－1～53号ピット



P－1～5号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　暗褐色土　（10YR3/4）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
P－6～10号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黄褐色土　（10YR5/8）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
5　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
P－11～13号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黄褐色土　（10YR5/8）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
3　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
P－14～17号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　黄色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黄褐色土　（10YR5/6）　1層と同質だが、含有物が少ない。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR2/3）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　黒褐色土　（10YR2/3）　黄色砂質土をブロック状にやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
P－18～23号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黄褐色土　（10YR5/8）　褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　明黄褐色土（10YR6/6）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色砂質土をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
P－24・25号ピット　SPA
1　暗褐色土　（10YR3/4）　灰黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　明黄褐色土（10YR6/6）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　暗褐色土　（10YR3/4）　灰黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
5　明黄褐色土（10YR6/6）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
6　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
P－26・27号ピット　SPA
1　暗褐色土　（10YR3/4）　灰黄褐色砂質土・焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　明黄褐色土（10YR6/6）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　暗褐色土　（10YR3/4）　灰黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
P－28・29号ピット　SPA
1　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　暗褐色土　（10YR3/4）　灰黄褐色砂質土・焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
5　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
P－30・31号ピット　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　暗褐色土　（10YR3/4）　灰黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　黒褐色土　（10YR3/2）　褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
5　黒褐色土　（10YR3/2）　暗褐色砂質土をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
P－32～35号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黄褐色土　（10YR5/8）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色砂質土をブロック状に少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
5　黒褐色土　（10YR3/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
P－36・37号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土　（10YR3/3）　褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
P－38・39号ピット　SPA
1　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
4　にぶい黄褐色土　（10YR3/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
P－40～43号ピット　SPA
1　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土　（10YR3/4）　黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
P－44～47号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　明黄褐色土（10YR6/6）　灰黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
5　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
P－48～50号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　明黄褐色土（10YR6/6）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　黒褐色土　（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
5　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まり強く、粘性弱い。
P－51号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まり強く、粘性弱い。
P－52号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　黒褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まり強く、粘性弱い。
P－53号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色砂質土を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
P－54号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　灰黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
5　黒褐色土　（10YR3/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり強く、粘性弱い。
P－55号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　黒褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
3　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
P－56号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
P－57号ピット　SPA
1　褐色土　（10YR4/4）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石を極少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
P－58・59号ピット　SPA
1　暗褐色土　（10YR3/3）　黒褐色砂質土・軽石を少量含む。締まり強く、粘性やや強い。
P－60号ピット　SPA
1　褐色土　（10YR4/4）　褐色砂質土・軽石を少量含む。締まり強く、粘性やや強い。
P－61～63号ピット　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　含有物少なく肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　黒褐色土　（10YR3/2）　黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まり強く、粘性弱い。
P－64号ピット　SPA
1　暗褐色土　（10YR3/4）　軽石をやや多く含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土　（10YR3/3）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　黒褐色土　（10YR3/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性弱い。
P－65号ピット　SPA
1　黄褐色土　（10YR5/6）　黄色砂質土をブロック状に少量含むい。
締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR2/3）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　（10YR2/3）　黄色砂質土をブロック状にやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
P－66号ピット　SPA
1　明黄褐色土（10YR6/6）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
3　黒褐色土　（10YR2/3）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。

Fig.27　1区P－54～66号ピット

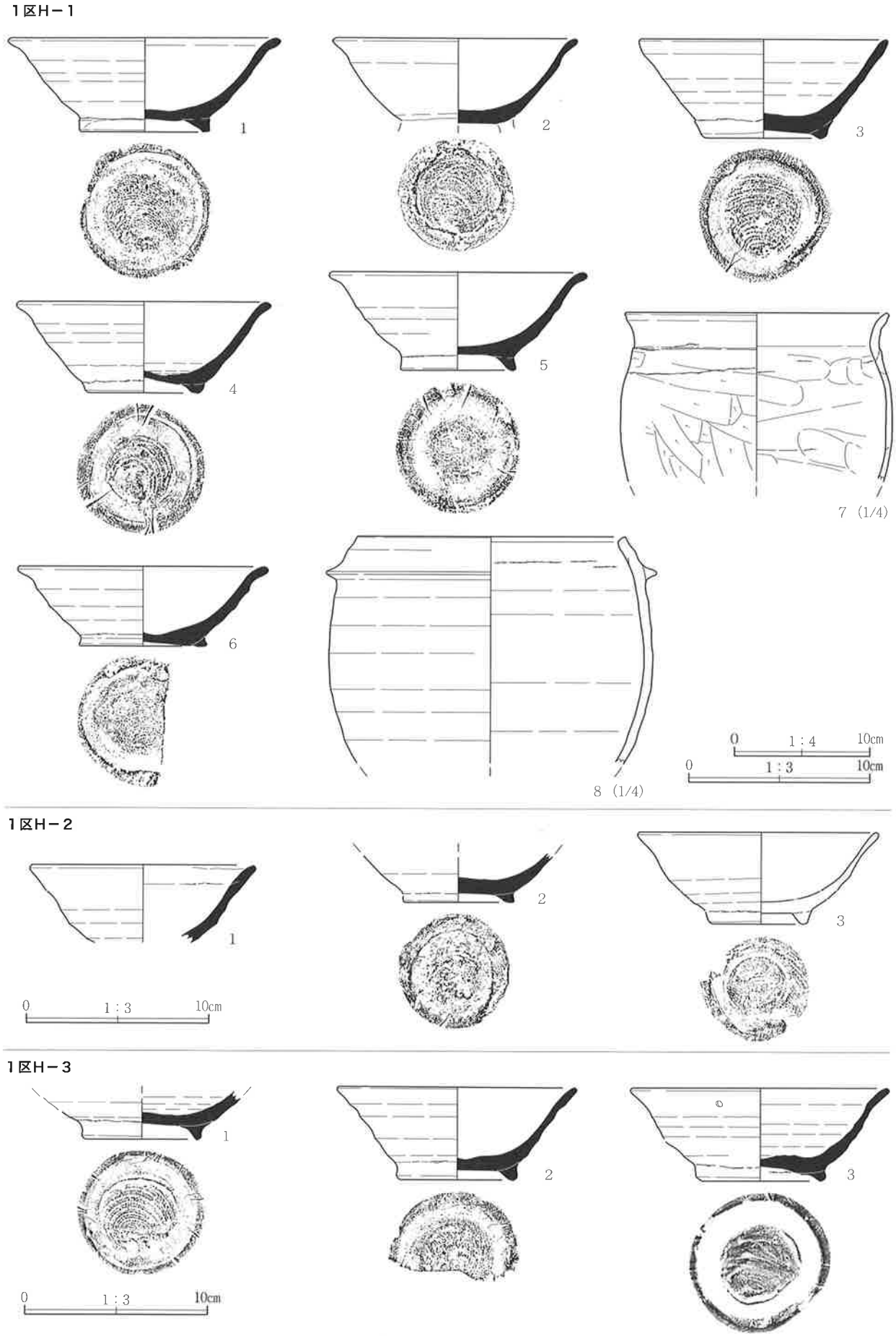


Fig.28　1区H－1～3号住居跡出土遺物

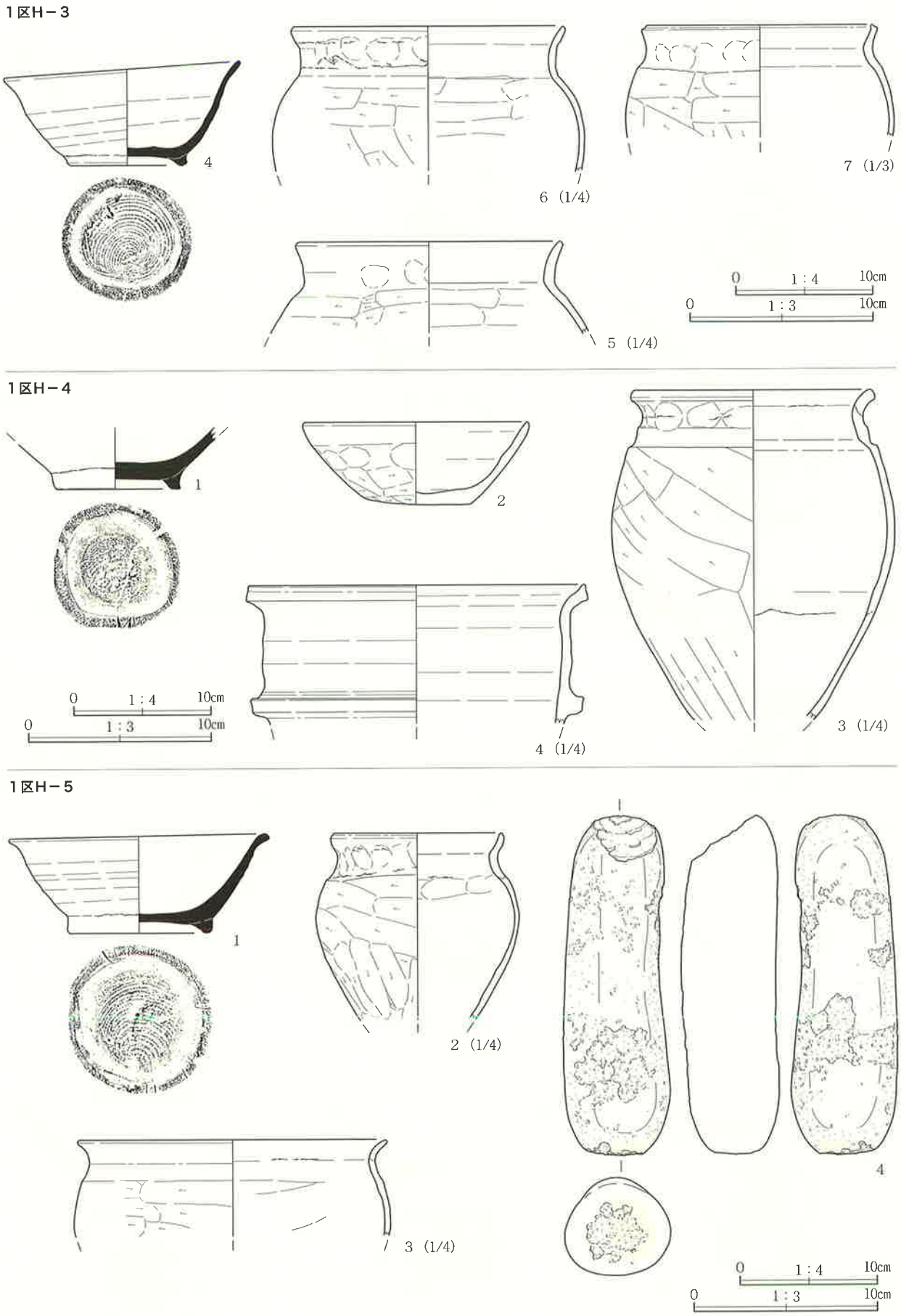


Fig.29　1区H－3～5号住居跡出土遺物

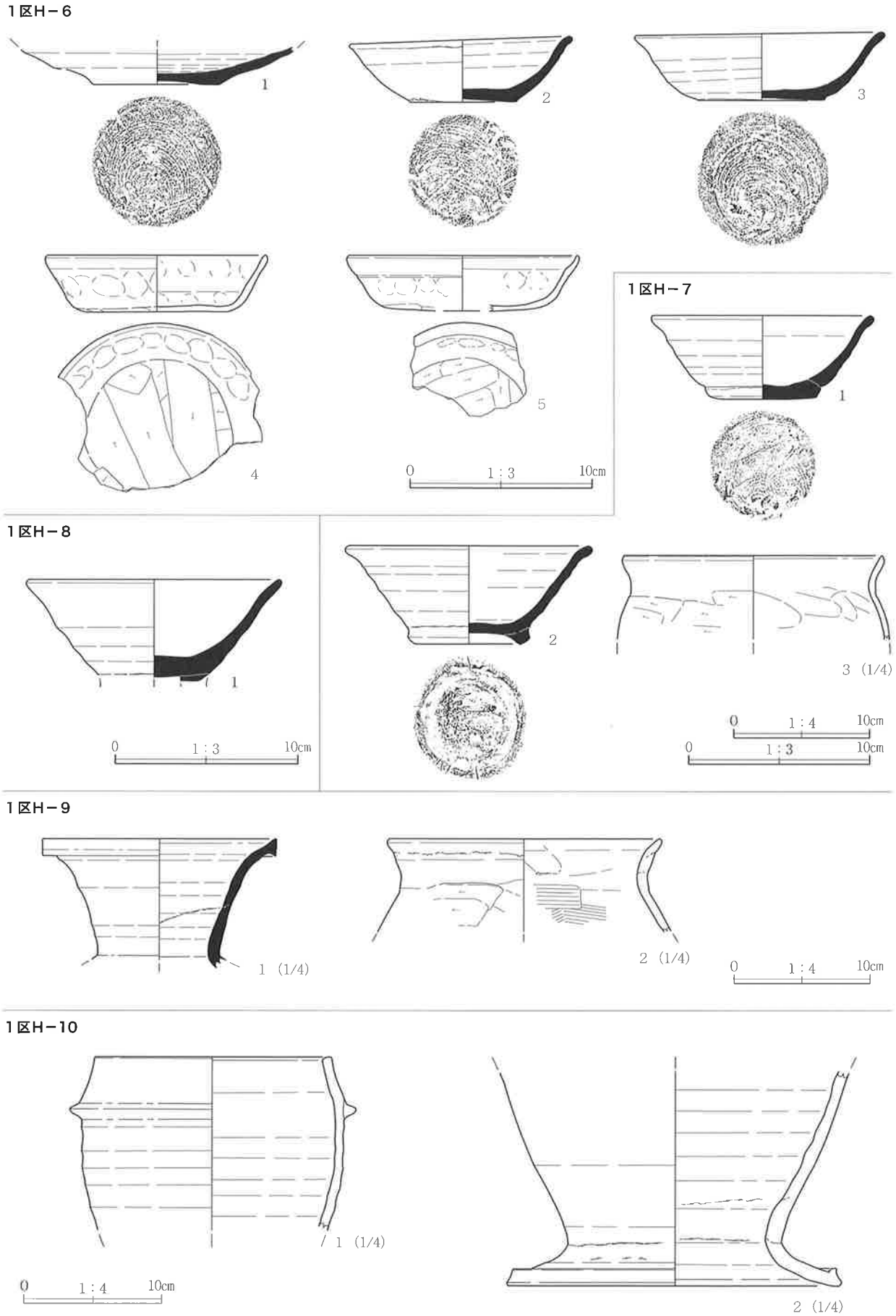


Fig.30　1区H－6～10号住居跡出土遺物

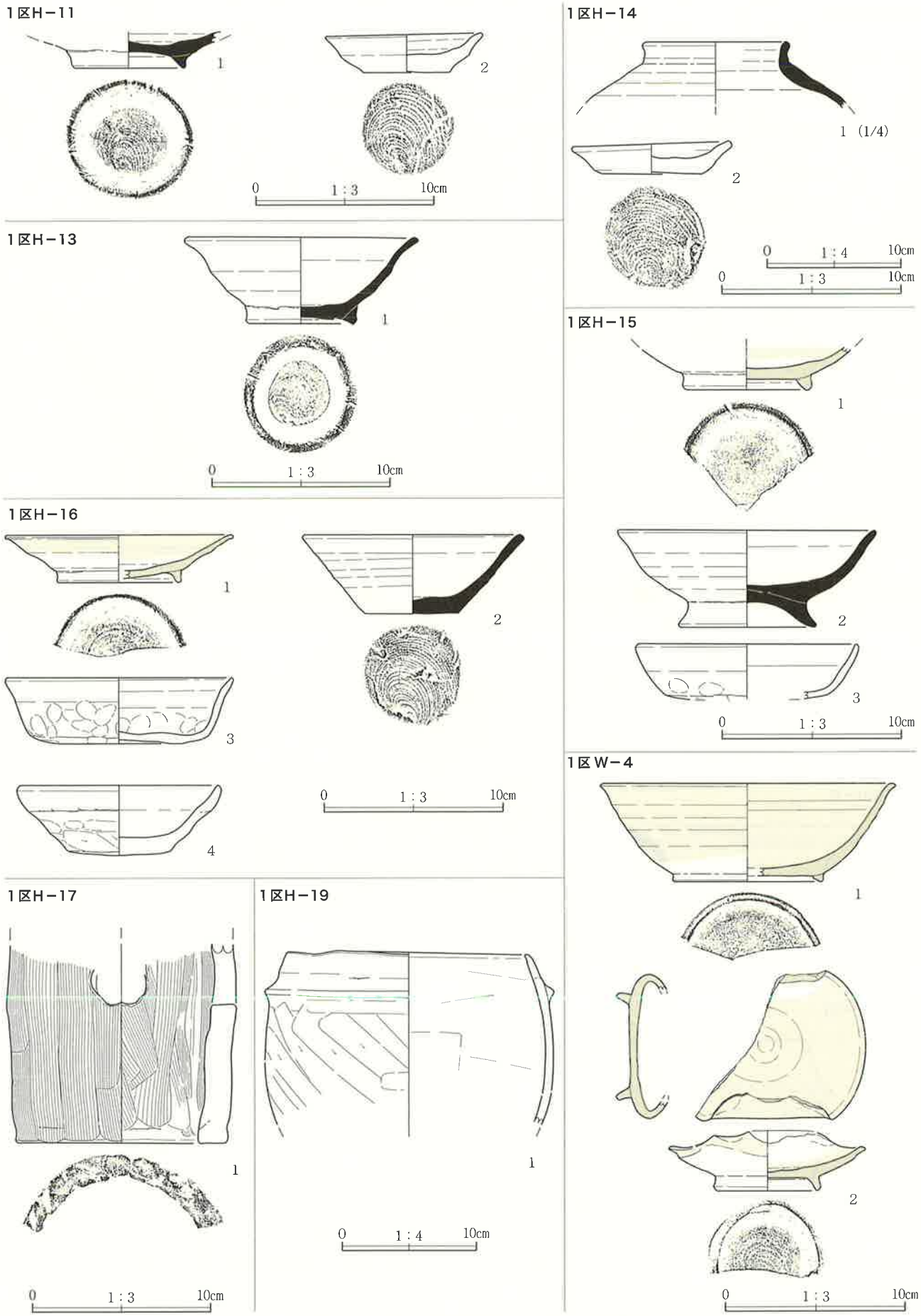


Fig.31　1区H－11・13～17・19号住居跡、W－4号溝出土遺物

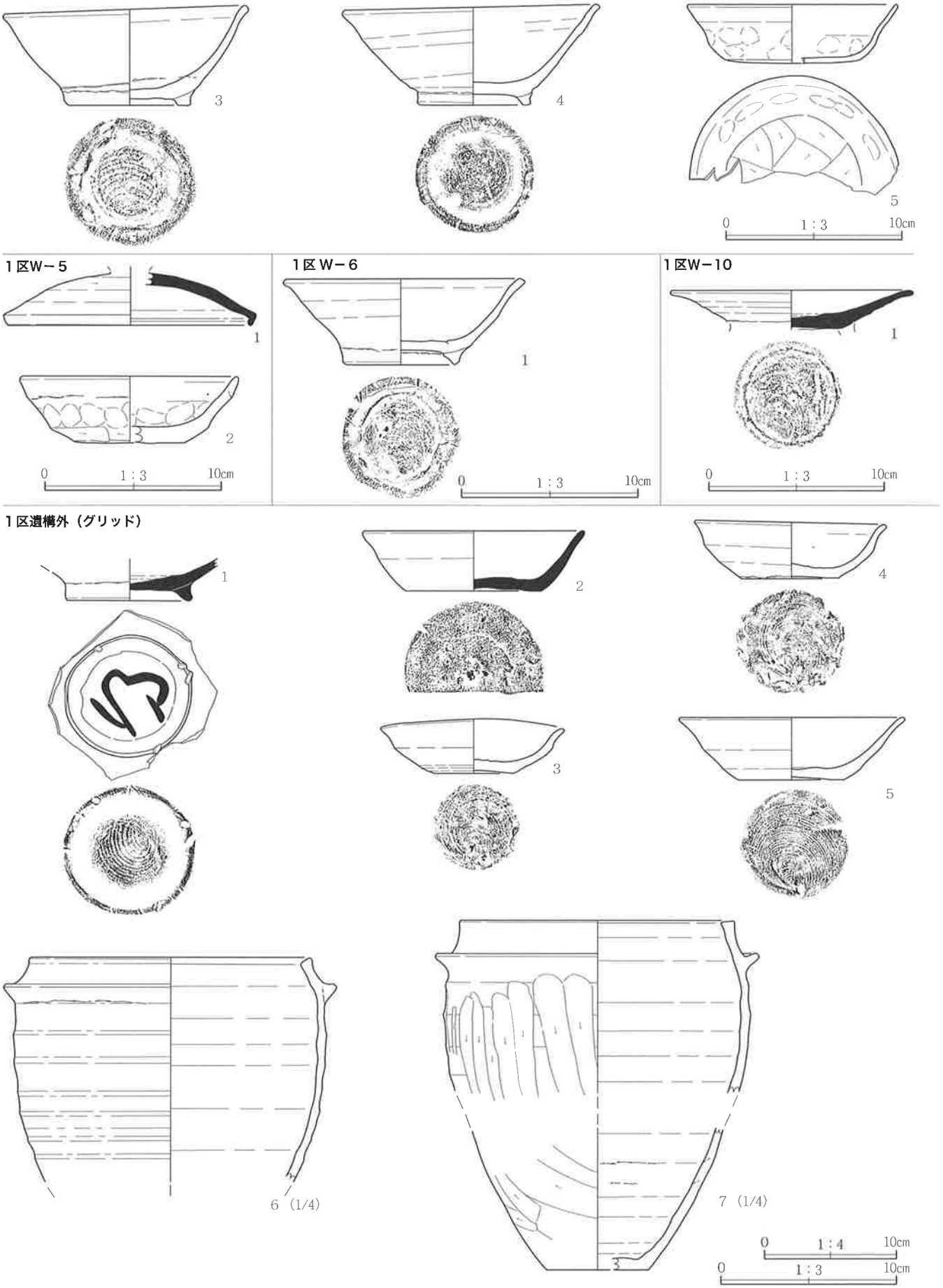
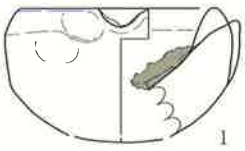
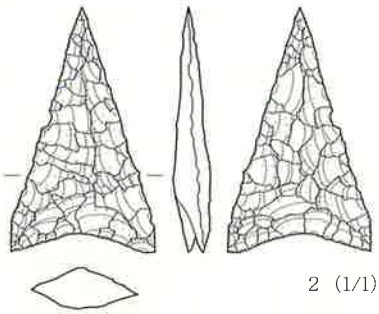


Fig.32　1区W－4～6・10号溝、遺構外出土遺物

1区遺構外





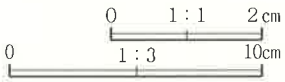


Fig.33　1区遺構外出土遺物

Tab. 2　1区出土遺物観察表

H－1

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	貯蔵穴	須恵器 高台付埦	(14.6)	6.6	5.2	石英、長石	良好	黄灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3残存。
2	貯蔵穴	須恵器 高台付埦	13.1	(4.5)	(4.7)	石英、長石	良好	灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。高台剥落。 内面ロクロによるヨコナデ。	3/4残存。
3	貯蔵穴	須恵器 高台付埦	(13.5)	6.4	5.4	雲母、白色粒	良好	オリーブ黒	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3残存。
4	竈	須恵器 高台付埦	(13.6)	6.0	5.0	石英、長石	やや軟質	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3残存。 外面に黒斑。
5	床面直上	須恵器 高台付埦	(13.8)	6.2	5.4	石英、長石、小礫	良好	褐灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3残存。
6	竈	須恵器 高台付埦	(13.5)	(6.4)	4.4	石英、長石、雲母	良好	灰黄色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/5残存。
7	貯蔵穴	土師器 甕	(19.2)	－	(12.4)	石英、長石	良好	外・にぶい黄橙色 内・にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部1/8残存。
8	貯蔵穴	須恵器 羽釜	(19.6)	－	(16.6)	石英、長石、黒色粒	良好	にぶい黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/5残存。 酸化焔。

H－2

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 埦	(12.2)	－	(4.2)	白・黒色粒	良好	褐灰色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁～体部破片残存。
2	覆土	須恵器 埦	－	(5.9)	(2.5)	石英、長石	やや軟質	褐灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部残存。
3	床面直上	須恵器 埦	(13.1)	(5.2)	(5.0)	白色粒	やや軟質	外・灰白色 内・褐灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3残存。 酸化焔。

H－3

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	－	6.0	(2.2)	白色粒	良好	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部～高台部残存。
2	床面直上	須恵器 高台付埦	(13.0)	6.4	5.1	雲母、白色粒	良好	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/2残存。
3	床面直上	須恵器 高台付埦	(14.0)	6.6	5.1	チャート、白・黒・茶色粒	やや軟質	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3残存。 口縁部に穿孔。
4	床面直上	須恵器 高台付埦	12.8	6.1	5.6	白色粒	良好	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁1/3欠損。 内面に煤付着。
5	床面直上	土師器 甕	(19.0)	－	(6.5)	石英、長石	良好	にぶい赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～肩部破片残存。
6	床面直上	土師器 甕	(19.7)	－	(10.5)	赤色粒	やや軟質	外・にぶい橙色 内・にぶい黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部上半破片残存。
7	床面直上	土師器 甕	(12.3)	－	(6.1)	角閃石、灰色粒	やや軟質	橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～肩部1/4残存。

H－4

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈	須恵器 高台付埦	－	6.7	2.7	小礫、白・黒色粒	やや軟質	黄灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部残存。
2	竈	土師器 坏	12.2	5.7	4.5	雲母、白・黒・茶色粒	良好	明褐・灰褐色	外面口縁部ヨコナデ、体部上半無調整、下半～底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体～底部ユビナデ。	ほぼ完存。
3	竈	土師器 甕	17.0	－	(24.0)	角閃石、白・黒色粒	良好	明赤褐・黒褐色	外面口縁～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁～頸部ヨコナデ、胴部ナデ。	2/3残存。
4	竈	須恵器 瓶	(24.6)	－	(10.1)	白・黒色粒	良好	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ	口縁～鍔部破片残存。

H－5

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	14.0	7.5	5.5	小石、白・黒・茶色粒	やや軟質	灰褐・にぶい赤褐色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	ほぼ完存。
2	床面直上	土師器 甕	(12.2)	－	(13.5)	雲母、白・黒・茶色粒	良好	明赤褐・黒褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ。	口縁～胴部 1/4 残存。
3	竈　覆土	土師器 甕	(22.4)	－	(7.0)	角閃石、白・黒色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～肩部破片残存。

番号	出土位置	種別 器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石質	焼成	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	床面直上	敲き石	18.4	5.8	5.3	粗粒安山岩	－	856.2	上端部敲打による剥離。表・裏・右側面の上半部中位及び下半部中位と下端部に敲打痕が顕著である。 平端部周縁に若干の磨耗痕あり。	完存。

H－6

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 皿か	－	7.0	(2.0)	石英粗粒、白・黒・茶色粒	堅緻	灰黄褐色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部残存。
2	床面直上	須恵器 坏	12.0	6.0	3.6	石英、白・黒・茶色粒	やや軟質	黒褐色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	完存。
3	床面直上	須恵器 坏	13.5	7.0	3.8	石英粗粒、黒・茶色粒	やや軟質	褐灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3 残存。
4	床面直上	土師器 坏	(12.1)	(8.0)	3.1	角閃石、白色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ後ナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ後ナデ。底部ナデ。	1/2 残存。
5	覆土	土師器 坏	(12.5)	(8.9)	(3.0)	角閃石、白・黒色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ後ナデ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ後ナデ。底部ナデ。	1/5 残存。

H－7

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 埦	(12.0)	6.0	4.6	石英、灰・茶色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3 残存。
2	床面直上	須恵器 高台付埦	(13.1)	5.6	5.4	雲母、小礫、白・茶色粒	堅緻	黒色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/2 残存。
3	床面直上	土師器 甕	(19.0)	－	(6.1)	角閃石、白・黒・茶色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～肩部破片残存。

H－8

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	(13.7)	－	(5.2)	石英、雲母、白・茶色粒	良好	にぶい黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。高台剥落。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3 残存。

H－9

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 壺	(17.0)	－	(8.7)	チャート、白・茶色粒	堅緻	黄灰色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁～頸部破片残存。
2	床面直上	土師器 甕	(19.8)	－	(6.7)	雲母、白・黒・茶色粒	良好	にぶい赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ及びハケナデ。	口縁～肩部破片残存。

H－10

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈	須恵器 羽釜	(17.2)	－	(12.6)	石英粗粒、灰・橙色粒	酸化焔	橙色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁部 1/8 残存。 酸化焔。
2	竈	須恵器 甑	－	(24.0)	(15.5)	石英粗粒、灰・橙色粒	良好	橙・灰色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部 1/4 残存。 中性焔。

H－11

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈　覆土	須恵器 高台付埦	－	6.1	(2.0)	石英、白　黒色粒	良好	灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部残存。
2	竈	かわらけ	8.7	5.0	2.2	角閃石、白・灰・橙色粒	やや軟質	淡黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	ほぼ完存。

H－13

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈	須恵器 高台付埦	(12.7)	5.8	4.8	白・黒・茶色粒	堅緻	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3 残存。

H－14

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 短頸壺	(10.4)	－	(5.0)	白・黒色細粒	堅緻	灰黄色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁部1/5 残存。
2	床面直上	かわらけ	8.7	5.6	1.8	角閃石、雲母、白・黒色粒	良好	褐灰・にぶい黄褐色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	完存。

H－15

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	灰釉陶器 埦	－	(6.7)	(2.3)	白・茶色粒	堅緻	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り後ナデ後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部 1/4 残存。
2	竈	須恵器 高台付坏	(14.4)	7.4	5.4	雲母、黒・橙色粒	やや軟質	淡灰色	外面ロクロによるヨコナデ、高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/2 残存。
3	覆土	土師器 坏	(12.1)	(9.0)	(3.1)	角閃石、白・黒色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体～底部ナデ。	口縁～体部破片残存。
4	竈　覆土	須恵器 羽釜	(24.6)	－	(13.0)	白・黒・茶色粒	やや軟質	明赤褐色	外面口縁から鍔部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部上半破片残存。 酸化焔。

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
5	竈	土釜	28.1	10.8	26.5	雲母、白・黒・橙色粒	良好	橙・黒褐色	外面口縁部ヨコナデ及びユビオサエ、肩部ユビナデ、胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。底部ヘラナデ後ユビナデ。	ほぼ完存。 酸化焔。

H－16

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	灰釉陶器 皿	(12.6)	(6.8)	2.7	黒色粒、白色粗粒	堅緻	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ。高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/3 残存。
2	床面直上	須恵器 埦	12.0	5.2	4.4	小礫、小石。黒色粒	堅緻	褐灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	ほぼ完存。
3	覆土	土師器 坏	(12.6)	(6.9)	3.7	角閃石、白・橙色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ、底部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ、体～底部ユビオサエ後ナデ。	1/2 残存。
4	床面直上	土師器 坏	(11.0)	(5.8)	(3.9)	角閃石、白・黒・橙色粒	良好	にぶい褐色	外面口縁部ヨコナデ、体部上半ユビオサエ、下半～底部ヘラケズリ。 内面ナデ。	1/2 残存。

H－17

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈	埴輪	－	(11.6)	(11.0)	雲母、小礫、白・黒・茶色粒	良好	外・明赤褐色 内・暗褐色	外面タテハケナデ。 内面タテハケナデ及びユビナデ。	底部 1/4 残存。 穿し孔径 2.7 cm。

H－19

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 羽釜	17.8	－	(12.8)	石英、砂粒	やや軟質	外・橙色 内・にぶい黄橙色	外面口縁～鍔部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部上半残存。 酸化焔。

W－4

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	灰釉陶器 埦	(16.0)	(8.0)	5.5	白・黒色粗粒	堅緻	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ、高台貼り付け。体部上半灰釉施釉。 内面ロクロによるヨコナデ。灰釉施釉。	1/4 残存。
2	覆土	灰釉陶器 耳皿	(9.5)	6.0	(3.3)	黒色粒	堅緻	灰白色	外面ロクロによるヨコナデ、耳部ユビオサエ、底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。灰釉施釉。	3/5 残存。
3	覆土	須恵器 高台付埦	13.6	6.8	5.6	石英、小礫、黒・橙色粒	やや軟質	にぶい橙色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。。 内面ロクロによるヨコナデ。	ほぼ完存。 酸化焔。
4	覆土	須恵器 高台付埦	14.3	6.0	5.8	石英粗粒、黒・橙色粒	やや軟質	橙色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。。 内面ロクロによるヨコナデ。	完存。 酸化焔。
5	覆土	土師器 坏	(11.8)	(7.5)	3.3	角閃石、白・灰色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体～底部ユビオサエ後ナデ。	1/3 残存。

W－5

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 蓋	(13.8)	－	(2.9)	白色粒、黒色粗粒	堅緻	灰色	外面口縁～体部ロクロによるヨコナデ、天井部回転ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体～天井部ロクロによるヨコナデ。	1/5 残存。
2	覆土	土師器 坏	(12.2)	(6.2)	3.8	角閃石、白・橙色粒	やや軟質	灰黄褐・にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体～底部ユビオサエ後ナデ。	1/4 残存。

W－6

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 高台付埦	13.4	6.1	4.9	石英、小礫、黒・橙色粒	やや軟質	にぶい黄橙・褐灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。。 内面ロクロによるヨコナデ。	2/3 残存。 酸化焔。

W－10

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 高台付皿	(13.6)	－	(2.2)	石英、角閃石、小礫	やや軟質	灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。高台剥落。 内面ロクロによるヨコナデ。	2/3 残存。

遺構外（グリッド）

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	X21-Y31	須恵器 高台付埦		7.0	(2.3)	白・黒色粒	良好	灰色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部残存。 底部外面に墨書。
2	X27-Y31	須恵器 坏	(12.4)	7.7	3.4	石英、長石。黒色粒	堅緻	灰色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転ヘラ切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/2 残存。
3	X38-Y37	小皿	10.2	4.5	3.1	白・黒・茶色粒	良好	橙色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	2/3 残存。 酸化焔。
4	X38-Y37	小皿	10.8	5.6	3.3	雲母、白・黒・茶色粒	良好	にぶい黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	3/4 残存。 酸化焔。
5	X35-Y38	須恵器 坏	(12.6)	6.0	3.5	石英、雲母、黒・茶色粒	良好	にぶい橙・灰色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/2 残存。 酸化焔。
6	X25-Y34	須恵器 羽釜	(21.0)	－	(16.9)	白・黒色粒	良好	灰色	外面ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁～胴部 1/4 残存。 酸化焔。
7	X25-Y34	須恵器 羽釜	(20.8)	(7.6)	(23.3)	白・黒色粒	良好	灰白色	外面口縁部ロクロによるヨコナデ、胴部ロクロによるヨコナデ後ヘラケズリ。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁 1/4、底部 1/4 残存。 酸化焔。

1区遺構外

番号	出土位置	種別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	表土	土製品 坩堝	(7.7)	－	5.3	白・黒・茶色粒	堅緻	外・灰白色 内・黒褐色	手捏ね成形。注口部ユビオサエ。	注口部破片残存。 内面気泡化。付着物あり。

番号	出土位置	種別 器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石質	焼成	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	表土	凹基無茎鏃	3.2	1.9	0.5	チャート	－	1.8	表・裏面ともに丁寧な調整加工を施し、細身で鋭利な先端部を作出している。	完存。

2　2区

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.34・39、PL 6・11）

位置　X 47・48、Y 37　主軸方向　N－77°－E　規模　東西軸（3.77）m、南北軸（1.52）m、現壁高0.11 m。北側は試掘トレンチ、南側を攪乱により削平される。　面積　（2.96）㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色・黄褐色土による貼り床。竈周辺に強い硬化が認められる。　竈　東壁に位置する。確認長0.60 m、燃焼部0.43 mを測る。燃焼部に支脚石が残る。　出土遺物　竈より出土した羽釜（1）・甑（2）の2点を図示。　時期　出土遺物の傾向から10世紀代と想定される。

H－2号住居跡（Fig.34・39、PL 7・11）

位置　X 44、Y 33　主軸方向　N－81°－E　規模　東西軸3.37 m、南北軸（2.36）m、現壁高0.07 m。住居北半は調査区外になる。　面積　（5.89）㎡　床面　ほぼ平坦で、暗褐色土による貼り床を施す。竈周辺を中心として、住居中央まで硬化が強い。　竈　東壁に位置し、住居の形態から南寄りに造り付けているものと思われる。確認長0.57 m、燃焼部0.37 mを測る。竈構築材として粘土の利用を確認した。　出土遺物　土師器坏（1）、砥石（2）を図示。土師器坏は器高が低く、底部は扁平なヘラ削り調整によるものである。なお、図示し得なかったが台付きの土師器甕も出土している。　時期　出土遺物の傾向から8世紀後半～9世紀前半と想定される。

H－3号住居跡（Fig.35、PL 7）

位置　X 41・42、Y 34　主軸方向　N－88°－E　規模　東西軸（3.52）m、南北軸（2.04）m、現壁高0.19 m。住居南側は攪乱により削平される。　面積　（5.10）㎡　床面　ほぼ平坦な地山床。　竈　東壁に位置する。確認長0.90 m、燃焼部0.28 mを測る。　重複　W－4と重複し、新旧関係はW－4→本遺構である。　出土遺物　須恵器、土師器、灰釉陶器、羽釜が出土しているが、いずれも小破片であり図示し得た遺物はない。　時期　出土遺物から9世紀後半～10世紀代と想定される。

H－4号住居跡（Fig.35、PL 7）

位置　X 44、Y 35　主軸方向　N－67°－E　規模　後世の削平により居住域ははぼ削平を受け、竈のみの確認である。　竈　東壁に位置する。確認長0.67 m、燃焼部0.42 mを測る。　出土遺物　なし。　時期　出土遺物が破片で少数、重複関係もなく判然としないが、他の住居跡の所属時期の傾向から9～10世紀代と想定しておく。

H－5号住居跡（Fig.36、PL 7）

位置　X 42・43、Y 34・35　主軸方向　N－80°－E　規模　東西軸2.64 m、南北軸2.68 m、現壁高0.13 m。　面積　（5.90）㎡　床面　暗褐色土を中心とする貼り床を施す。竈前庭部を中心に強い硬化が認められる。竈　東壁の南寄りに位置する。確認長（0.51）m、燃焼部0.35 mを測る。袖の一部および煙道先端は後世の攪乱により削平を受ける。　出土遺物　須恵器、土師器が出土しているが、少量・小破片のため図示し得た遺物はない。　時期　出土遺物の傾向から10世紀代と想定される。

（2）掘立柱建物跡

B－1号掘立柱建物跡（Fig.36・37、PL 7）

位置　X 47・48、Y 37　主軸方向　N－21°－W　規模　桁行（2）間、梁行2間。東西に伸びる可能性が考えられるが、西側はW－1により不明になっている。桁行長（3.68）m、梁行3.46 m。柱穴は7基を確認、柱穴間隔は桁行1.54～1.84 m、梁行1.68～1.79 mを測る。　重複　W－1と重複し、新旧関係は本遺構→W－1である。　出土遺物　なし。　時期　出土遺物がないため判然としないが、重複関係から9世紀以前と想定される。

（3）溝跡

W－1号溝（Fig.37、PL 8）

位置　X 46～50、Y 33～39　主軸方向　N－15°－W　規模　長さ31.84 m、上幅1.56 m、下幅1.02 m、深さ0.37 m。　形状等　北から走行し、X 47・Y 36グリッド付近で45°程度東へ振り、南東へ屈曲する。断面はU字状を呈する。覆土はAs-Kk・As-B軽石が良好にレンズ状堆積を示し、As-B軽石降下直前まで機能していたことが分かる。　重複　W－2と重複し、新旧関係はW－2→本遺構である。　出土遺物　覆土中より円筒埴輪・須恵器・土師器・灰釉陶器が出土しているが、いずれも小破片で図示し得なかった。　時期　覆土から12世紀初頭（1108年）の埋没である。

W－2号溝（Fig.38、PL 8・11）

位置　X 46～50、Y 33～39　主軸方向　N－13°－W　規模　長さ31.84 m、上幅3.69 m、下幅2.16 m、深さ0.92 m。　形状等　北から走行し、X 47・Y 36グリッド付近で45°程度東へ振り、南東へ屈曲する。断面はU字状を呈する。　重複　B－1、W－1と重複し、新旧関係はB－1→本遺構→W－1である。　出土遺物　覆土中より円筒埴輪・須恵器・土師器・灰釉陶器が出土し、土師器坏を1点図示した。小型化の傾向を示し、底部は回転糸切りによる成形である。　時期　出土遺物および重複関係から10世紀後半以前と思われる。　備考　W－1号溝と走行方向が同じであり、W－1号溝は本遺構の埋没段階の一地点を示しているとも考えられ、同一遺構となる可能性もある。

W－3号溝（Fig.38）

位置　X 53～60、Y 37・38　主軸方向　N－92°－W　規模　長さ29.18 m、上幅2.37 m、下幅0.45 m、深さ0.54 m。　形状等　南東から北へ湾曲し西へ走行する。断面は緩やかなV字状を呈する。　出土遺物　なし。　時期　覆土にAs-Kk・As-B軽石が良好にレンズ状堆積を示し、12世紀初頭（1108年）の埋没である。

W－4号溝（Fig.38、PL 8）

位置　X 51～55、Y 33～36　主軸方向　N－44°－E　規模　長さ20.18 m、上幅0.33 m、下幅0.16 m、深さ0.12 m。　形状等　南西から北東へ走行し、断面はU字上を呈する。　出土遺物　なし。　時期　覆土にAs-Kk・As-B軽石が良好にレンズ状堆積を示し、12世紀初頭（1108年）の埋没である。

（4）井戸、土坑、ピット（Fig.38・39、PL 8）

井戸、土坑、ピットについては「Tab. 3　2区　井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

Tab. 3　２区井戸・土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	長軸比	深さ(m)	平面形状	断面形状
1号井戸	X45・46、Y33・34	1.70	1.64	1.03	(0.54)	円形	箱状
1号土坑	欠番						
2号土坑	X48、Y36・37	1.14	0.85	1.34	0.52	楕円形	階段状
3号土坑	X48、Y37	0.47	0.45	1.04	0.45	円形	弧状
4号土坑	X46・47、Y36・37	2.04	0.92	2.22	0.68	長方形	台形状
1号ピット	欠番						
2号ピット	X47・48、Y35	0.54	0.38	1.42	0.20	楕円形	箱状
3号ピット	X48、Y35	0.57	0.49	1.16	0.18	円形	台形状
4号ピット	X48、Y35	0.58	0.46	1.26	0.15	楕円形	階段状
5号ピット	X48、Y35	0.34	0.32	1.06	0.37	円形	U字状
6号ピット	X48、Y35	0.57	0.49	1.16	0.23	円形	V字状
7号ピット	X49、Y36	0.65	0.59	1.10	0.26	円形	半円状
8号ピット	X48、Y36	0.60	(0.58)	1.03	0.28	円形	半円状
3号ピット	X27、Y35	0.45	0.32	1.41	0.22	楕円形	台形状
4号ピット	X26、Y35	0.29	0.22	1.32	0.10	楕円形	V字状

Tab. 4　２区出土遺物観察表

H－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈	須恵器 羽釜	(21.5)	－	(14.5)	灰・黒・茶色粒	やや軟質	にぶい橙色	外面口縁～胴部上半ロクロによるヨコナデ、下半ロクロによるヨコナデ後ヘラケズリ。 内面ロクロによるヨコナデ。	口縁～胴部 1/4 残存。 酸化焔。
2	竈	須恵器 甑	－	(20.2)	(7.8)	雲母、白・黒・橙色粒	良好	橙色	外面胴部ロクロによるヨコナデ後ナデ、裾部ヨコナデ。 内面胴部ロクロによるヨコナデ後ナデ、裾部ヨコナデ。	胴部下半～底部 1/4 残存。 酸化焔。

H－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 坏	(11.7)	(8.4)	(3.6)	角閃石、白・黒色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体～底部ナデ。	1/4 残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	砥石	(9.5)	(4.5)	4.1	粗粒安山岩	－	209.9	表・裏・右左側面に研磨痕が顕著である。	上端部欠損。

W－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 坏	10.0	4.8	3.3	石英、灰・茶色粒	良好	にぶい黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	ほぼ完存。 酸化焔。

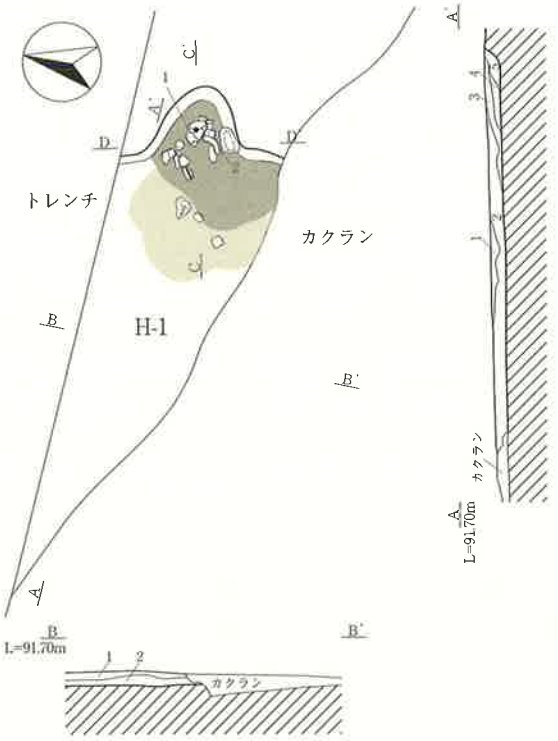
D－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 坏	(9.2)	(4.0)	(3.1)	角閃石、白・黒・茶色粒	良好	橙色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/2 残存。 酸化焔。

２区遺構外

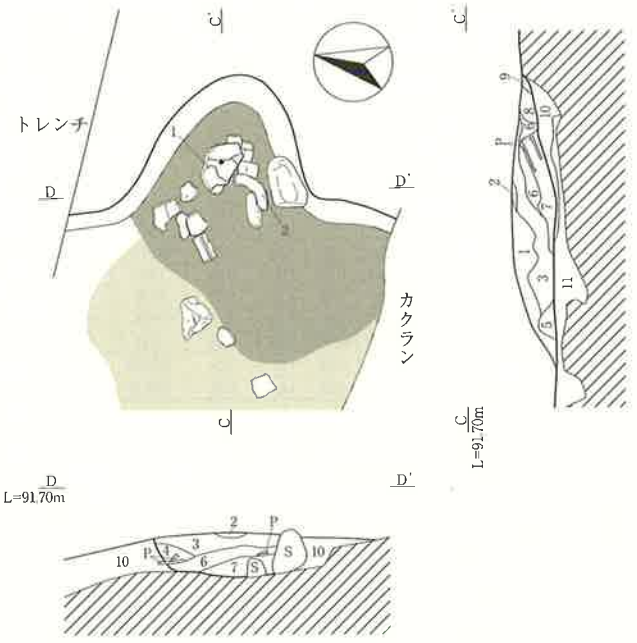
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	表土	須恵器 高台付椀	12.3	8.4	6.9	角閃石、雲母、チャート、白・黒・茶色粒	良好	橙色	外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り後。高台貼り付け。 内面ロクロによるヨコナデ。	4/5 残存。 酸化焔。

2区H－1



H－1号住居跡　SPA・B
1　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/4）　軽石・焼土粒を少量含む含む。締まりやや強く、粘性弱い。

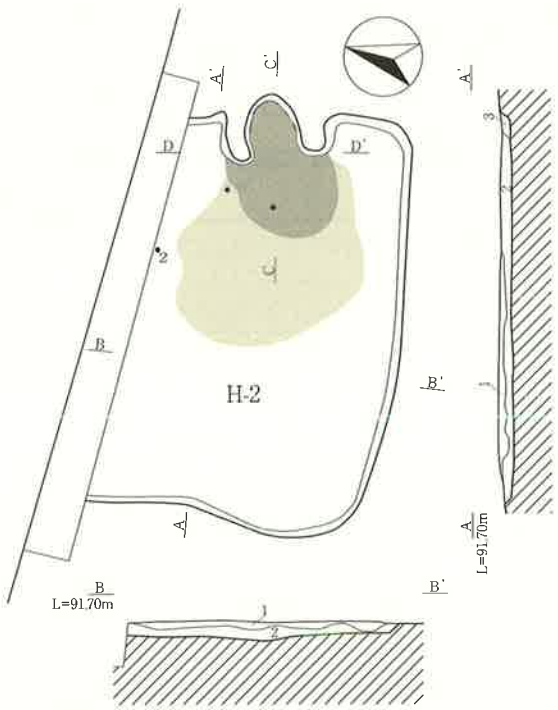
0　1：60　2m



H－1号住居跡竈　SPC・D
1　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　粘質土。締まりやや強く、粘性強い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・灰をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒やや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/4）　灰黄褐色粘質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
7　褐色土　（10YR4/4）　焼土粒・灰やや多く含む。灰層。締まり弱く、粘性弱い。
8　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒やや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
9　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
10　暗褐色土（10YR2/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。竈掘り方。
11　暗褐色土（10YR2/2）　軽石・黄褐色土を少量含む。締まり強く、粘性弱い。竈掘り方。

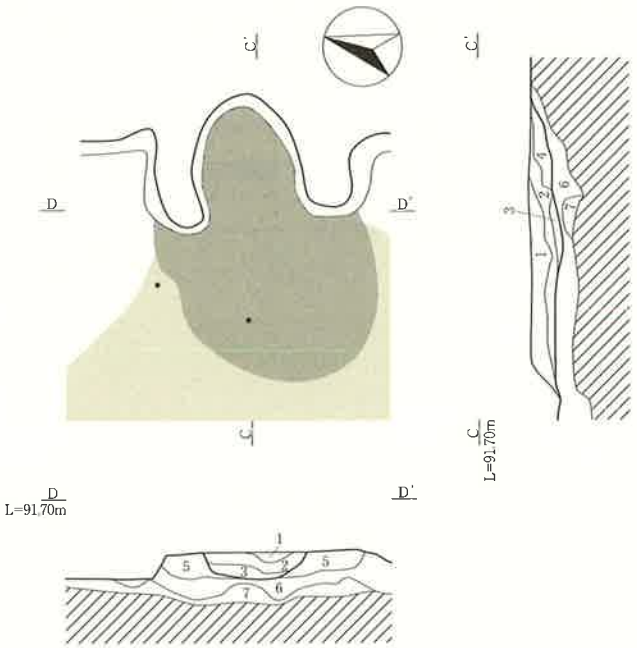
0　1：30　1m

2区H－2



H－2号住居跡　SPA・B
1　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　軽石・焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

0　1：60　2m

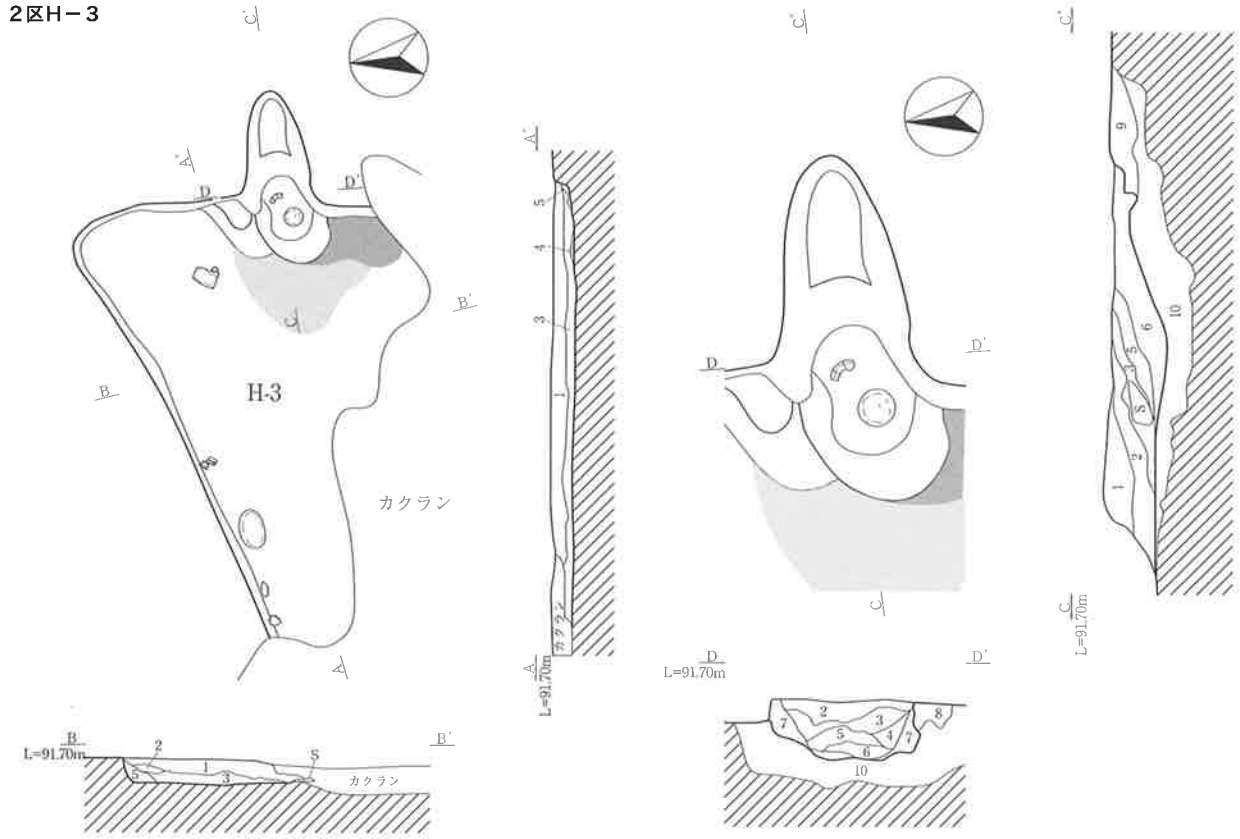


H－2号住居跡竈　SPC・D
1　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒をやや多く含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　軽石・焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性強い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒・灰をやや多く含む。灰層。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・灰を多く含む。灰層。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。竈掘り方。
6　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。竈掘り方。
7　暗褐色土（10YR3/4）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性弱い。竈掘り方。

0　1：30　1m

Fig.34　２区Ｈ－１・２号住居跡

2区H－3



H－3号住居跡　SPA・B

1　黒褐色土（10YR2/2）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　軽石・黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

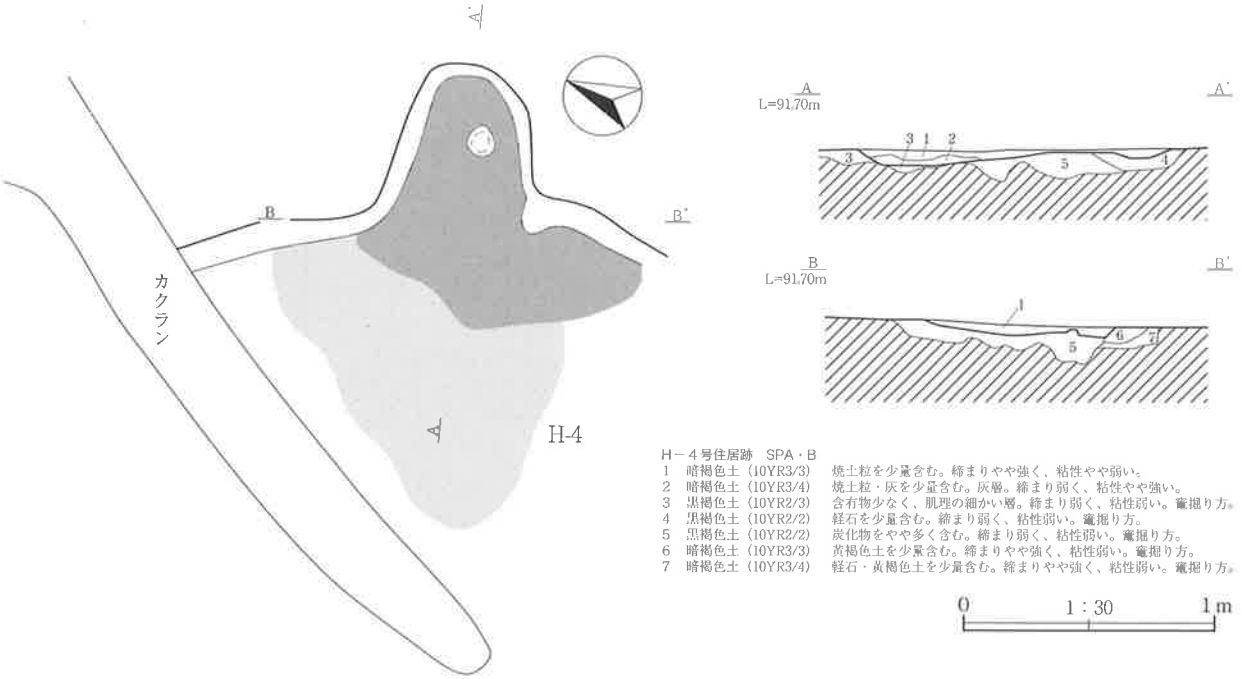
0　1：60　2m

H－3号住居跡竈　SPC・D

1　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　粘質土。締まりやや強く、粘性強い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・灰をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　天井崩落土と思われる焼土粒を含む。締まり弱く、粘性弱い。
6　褐色土　（10YR4/4）　天井崩落土。下層に薄く灰が広がる。締まり弱く、粘性弱い。
7　褐色土　（10YR4/6）　竈構築土か、被熱が強く赤変する。締まり強く、粘性やや弱い。
8　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒やや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。竈掘り方。
9　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。竈掘り方。
10　暗褐色土（10YR2/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。竈掘り方。

0　1：30　1m

2区H－4



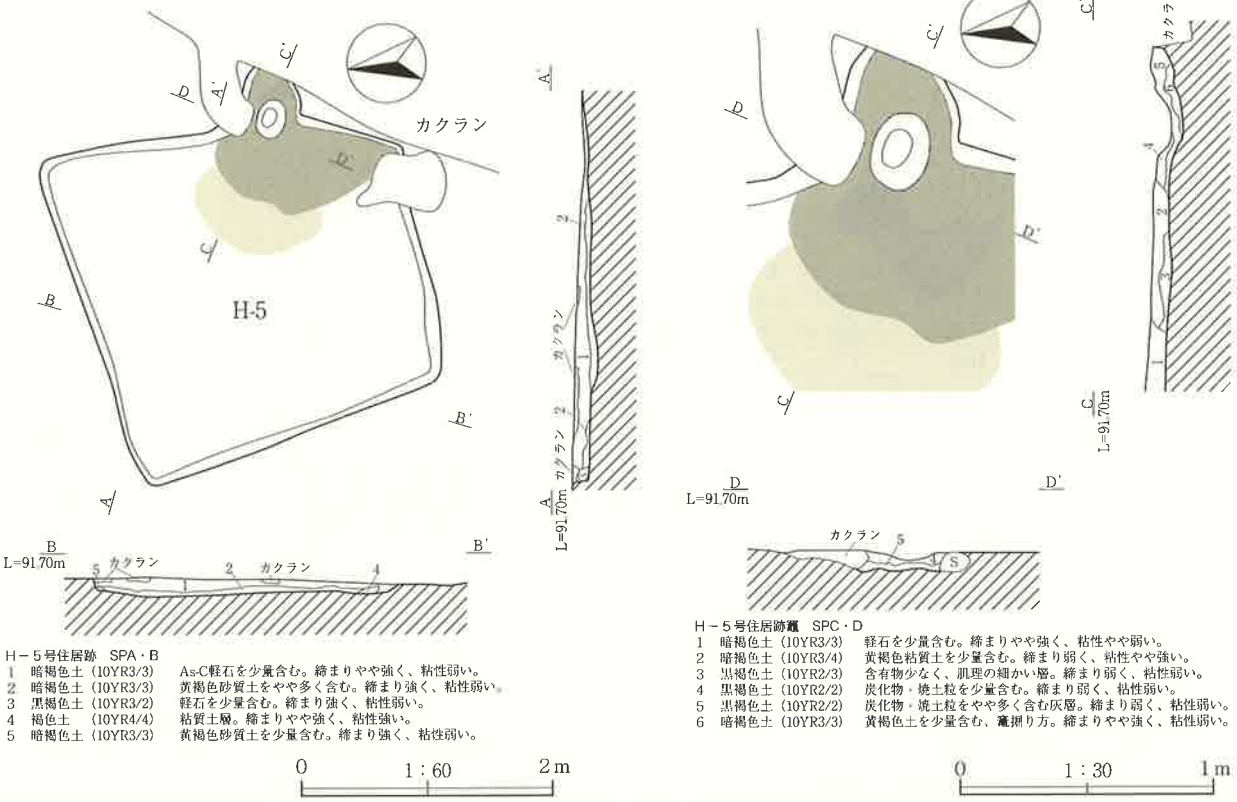
H－4号住居跡　SPA・B

1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・灰を少量含む。灰層。締まり弱く、粘性やや強い。
3　黒褐色土（10YR2/3）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性弱い。竈掘り方。
4　黒褐色土（10YR2/2）　軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。竈掘り方。
5　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物をやや多く含む。締まり弱く、粘性弱い。竈掘り方。
6　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。竈掘り方。
7　暗褐色土（10YR3/4）　軽石・黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。竈掘り方。

0　1：30　1m

Fig.35　２区Ｈ－３・４号住居跡

2区H－5



H－5号住居跡　SPA・B

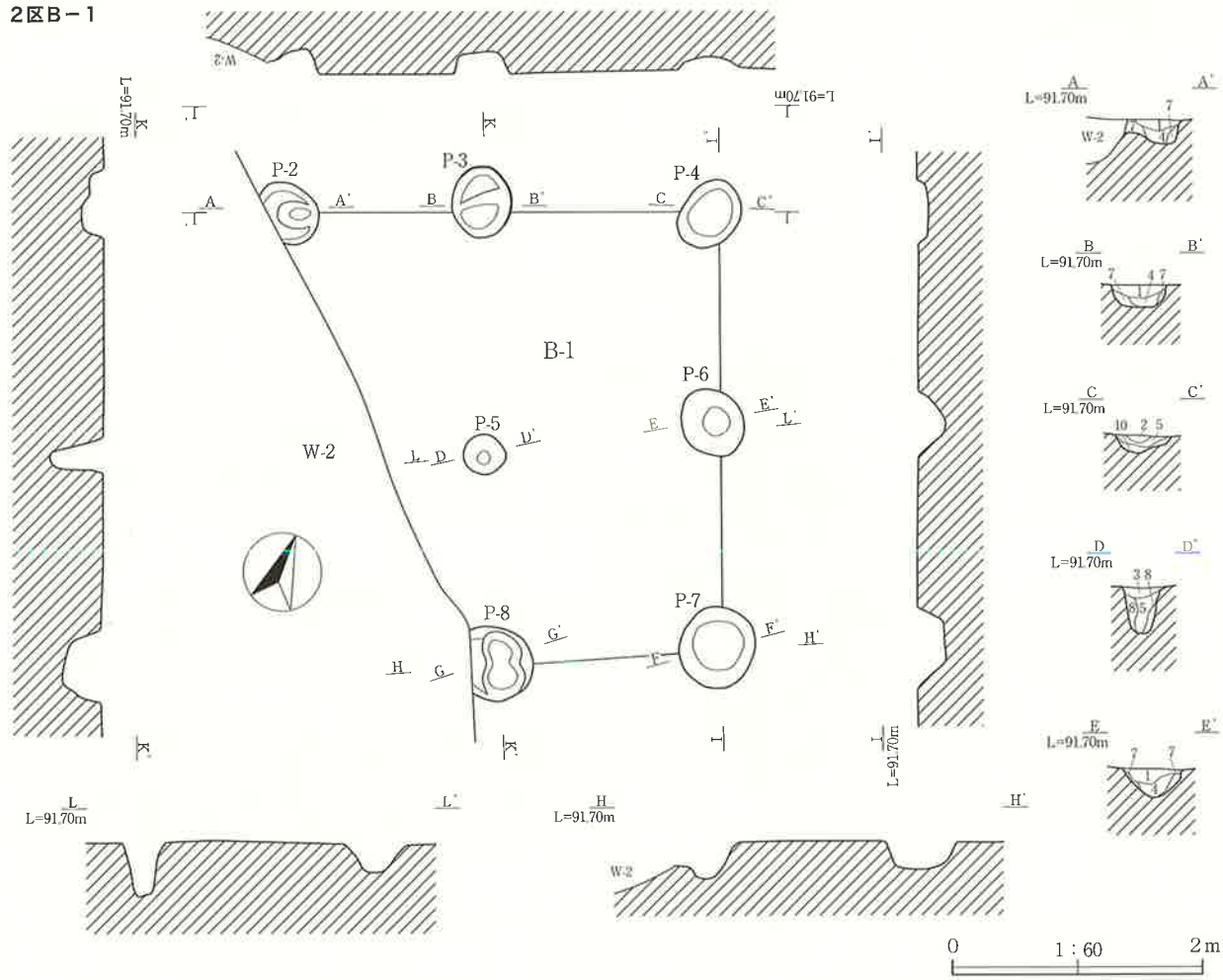
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土をやや多く含む。締まり強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
4　褐色土　（10YR4/4）　粘質土層。締まりやや強く、粘性強い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土を少量含む。締まり強く、粘性弱い。

H－5号住居跡竈　SPC・D

1　暗褐色土（10YR3/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色粘質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
3　黒褐色土（10YR2/3）　含有物少なく、肌理の細かい層。締まり弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・焼土粒をやや多く含む灰層。締まり弱く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色土を少量含む、竈掘り方。締まりやや強く、粘性弱い。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

2区B－1



0　1：60　2m

Fig.36　２区Ｈ－５号住居跡・Ｂ－１号掘立柱建物跡

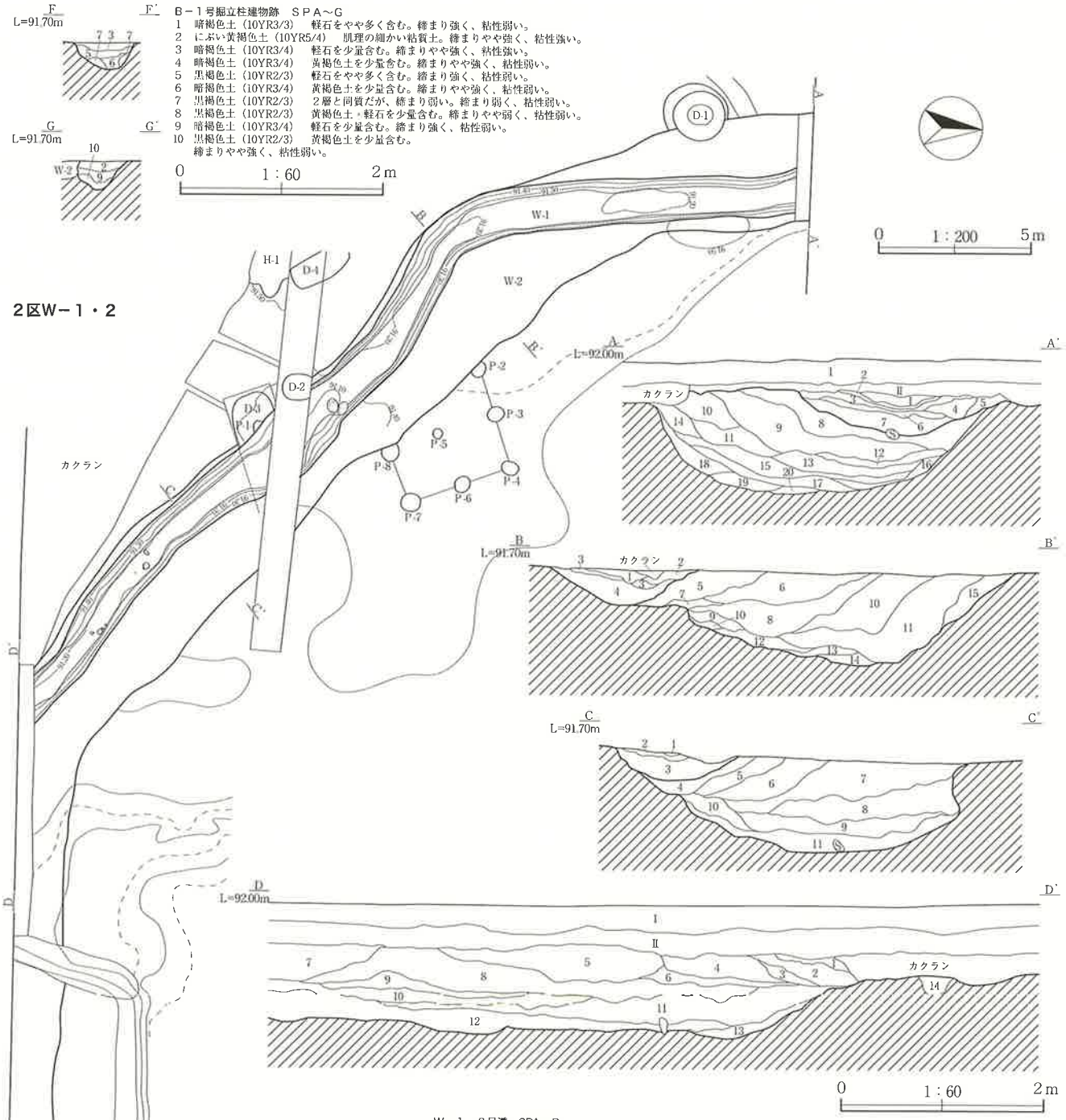
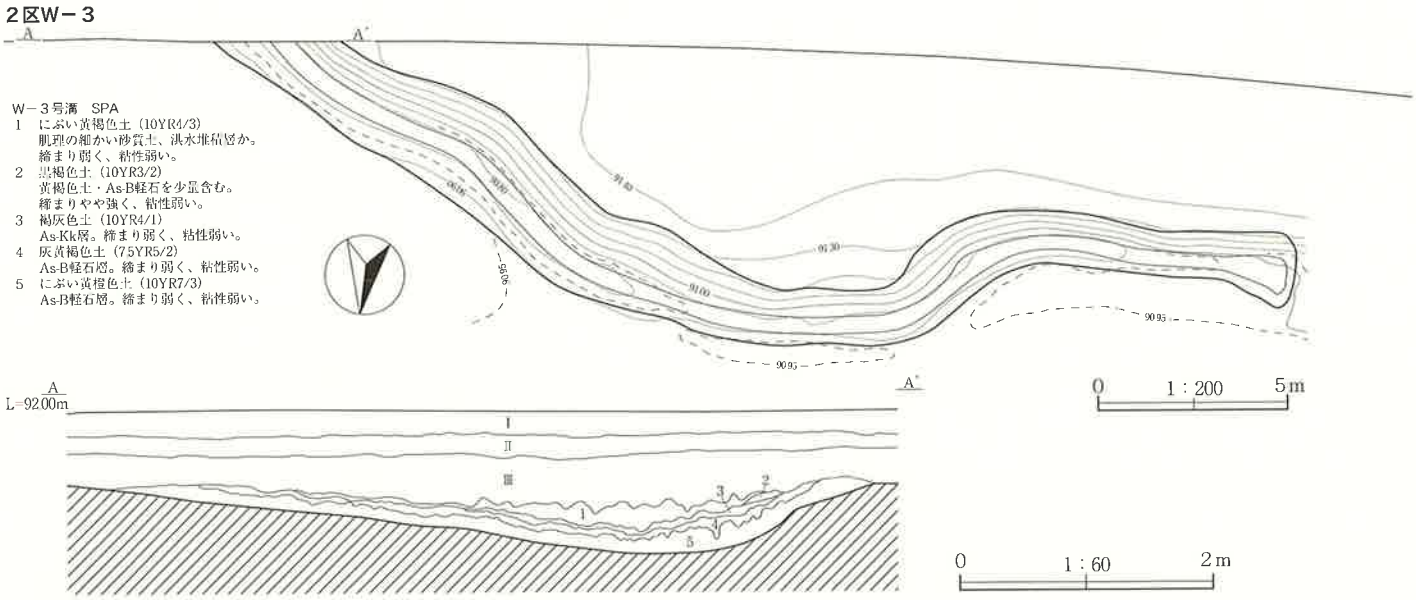


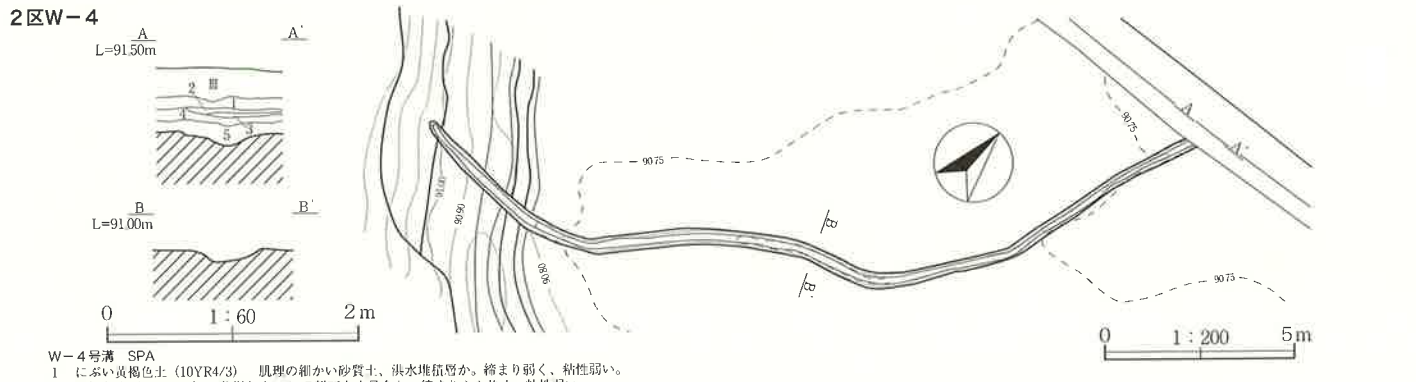
Fig.37　２区Ｂ－１号掘立柱建物跡、W－１・２号溝

2区W－3



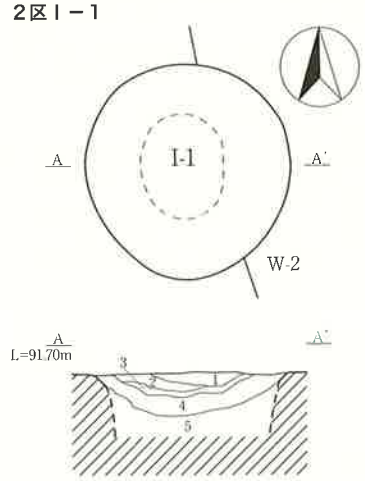
W－3号溝　SPA
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　肌理の細かい砂質土、洪水堆積層か。
　締まり弱く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）
　黄褐色土・As-B軽石を少量含む。
　締まりやや強く、粘性弱い。
3　褐灰色土（10YR4/1）
　As-Kk層。締まり弱く、粘性弱い。
4　灰黄褐色土（7.5YR5/2）
　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
5　にぶい黄橙色土（10YR7/3）
　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。

2区W－4

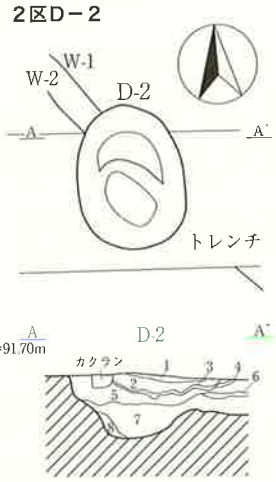


W－4号溝　SPA
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　肌理の細かい砂質土、洪水堆積層か。締まり弱く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色土・As-B軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　褐灰色土（10YR4/1）　As-Kk層。締まり弱く、粘性弱い。
4　灰黄褐色土（7.5YR5/2）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
5　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。

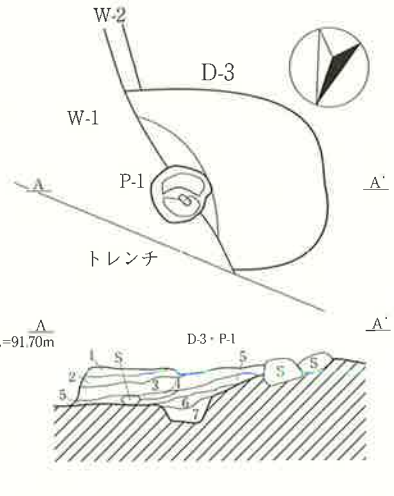
2区I－1



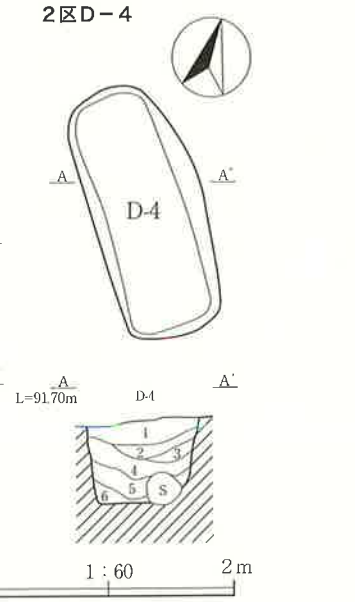
2区D－2



2区D－3・P－1



2区D－4



I－1号井戸　SPA
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　As-B混層。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色土・As-B軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　灰黄褐色土（7.5YR5/2）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
4　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

D－2号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR2/2）　含有物少なく肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　褐灰色土（10YR4/1）　As-Kk層。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　As-B軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色土をやや多く含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　灰黄褐色土（7.5YR5/2）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
7　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
8　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色土を少量含む、地山風化土。締まり弱く、粘性弱い。

D－3号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　含有物少なく肌理の細かい層。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　褐色土　（10YR4/4）　黄褐色粘質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
4　灰黄褐色土（7.5YR5/2）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
5　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　As-B軽石層。締まり弱く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
7　黒褐色土（10YR2/2）　軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。（P－1覆土）

D－4号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土をブロック状に含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　黄褐色土を主体とする層。締まりやや強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR2/2）　1層と同質だが、含有物がやや多い。締まり弱く、粘性弱い。
5　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　黄褐色土を主体とし、黒褐色土を含む。締まりやや強く、粘性弱い。
6　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。

Fig.38　2区W－3・4号溝、I－1号井戸、D－2～4号土坑、P－1号ピット

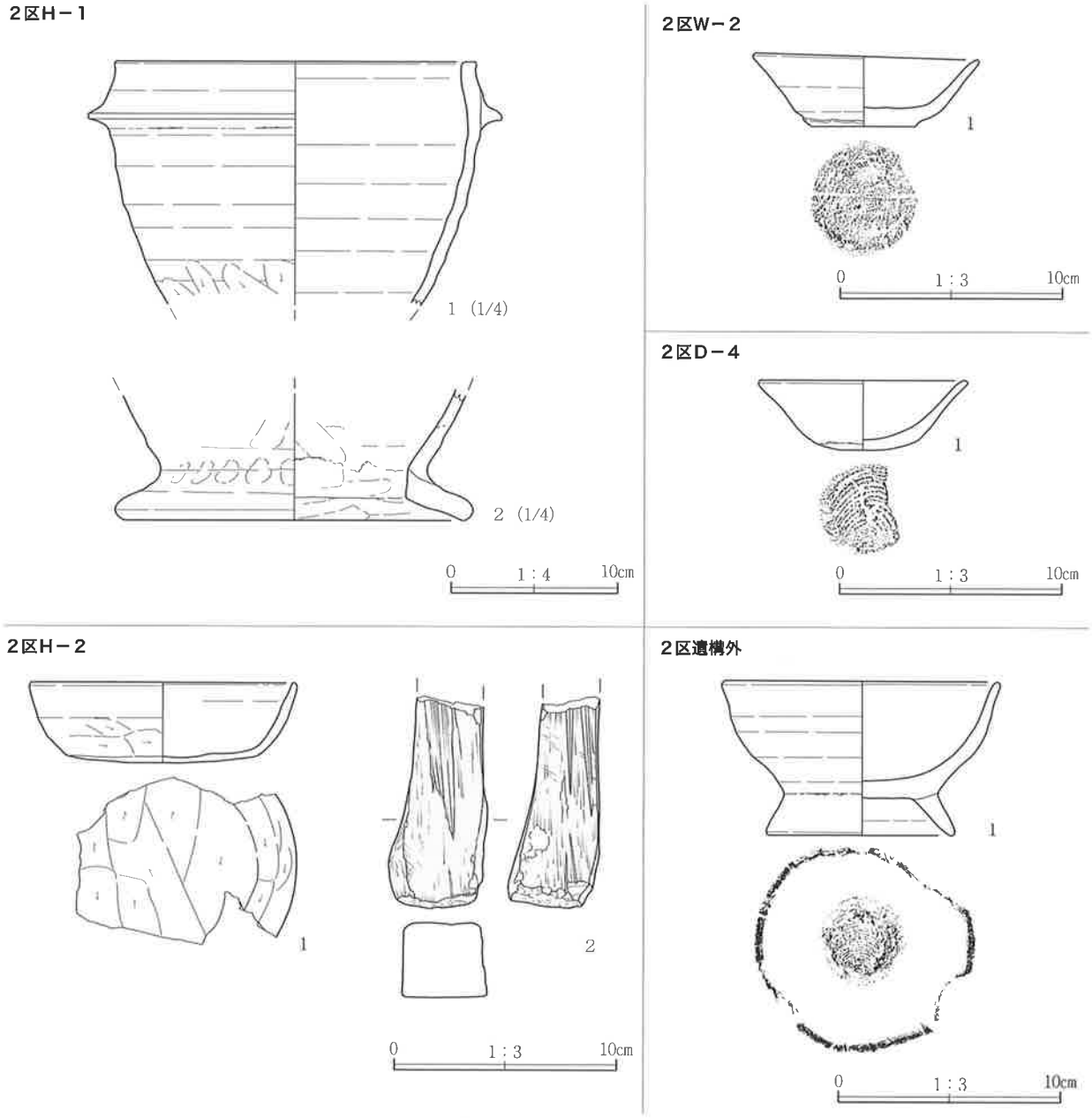


Fig.39　２区出土遺物

Ⅵ　朝倉伊勢西№1遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

朝倉伊勢西№1遺跡（群馬県前橋市朝倉町）は、狭義の前橋台地上に形成された微高地から後背湿地にかけて立地する。本遺跡の発掘調査では、9～10世紀末頃の集落であることが確認されているほか、住居跡より古いと考えられる溝跡も検出されている。また、これらの遺構が検出された地点の東側には、相対的に低所となる区域（以下、低地部）の広がりが認められている。

本報告では、浅間Bテフラ（新井,1979; 以下、As-B）降灰直前の低地部における土地利用（稲作の可能性）の検討を目的として、植物珪酸体分析を実施した。

1　試料

試料は、調査区東側の低地部の2箇所（1地点、2地点）より採取した土壌試料である。以下に、土壌試料を採取した各地点の堆積層の観察所見を記す。また、模式柱状図を図1に示す。

（1）1地点

1地点は、調査区北東隅の調査区壁の堆積層である。本地点は、調査区の施工上の関係から、壁面に段が設けられていたため、観察範囲は堆積層の最下部から壁面の段差の深度約110cmまでを対象としている。本地点の堆積層の最下部は、灰色砂混じりシルト（層厚約8cm以上）からなる。当堆積物の上部は、暗色化し植物遺体等が混じる黒色シルト（層厚約9cm）である。黒色シルト上位は、灰色および黒色シルトからなる葉理構造を有する泥層（層厚約1cm）、炭化物層（層厚約2～3mm）を挟在する灰～褐灰色のシルト～粘土からなる葉理構造を有する泥層（層厚約17cm）が堆積する。なお、後者の泥層の上部は、やや腐植質であり、淡く茶褐色を呈する。灰～褐灰色泥の上位は、成層したAs-B（層厚約22cm）が堆積し、フォールユニットの最上部にはAs-B上部テフラに含まれる、あるいは浅間粕川テフラ（As-Kk: 早田,1991;2004）と称される、灰色の細粒火山灰も観察された。As-B上位は、黒色シルト（層厚約1cm）、　葉理構造を有する灰色シルト（層厚5cm）および灰白色シルト（層厚約1cm）、側方に連続する偽礫化した極細粒砂（層厚約1cm）、灰色極細粒砂混じりシルト（層厚約14cm）が堆積する。さらに、上位は、管状酸化鉄が発達する軽石混じりの黒灰色シルト（層厚約13cm）、および管状酸化鉄が発達する灰色シルト（層厚約19cm）がそれぞれ不整合に堆積する。

（2）2地点

2地点は、調査区の低地部中央付近に相当する北壁の堆積層である。観察範囲は、1地点と同様に、堆積層の最下部から壁面の段差までに相当する（深度約92cm）。本地点の堆積層最下部は、植物遺体や灰色シルトの偽礫が混じる黒～黒灰色シルト（層厚約6cm以上）からなる。黒～黒灰色シルト上位は、炭化物層（層厚約1mm程度）が挟在する灰白色シルトを最下部とし、葉理構造を有する灰～褐灰色シルト～粘土（層厚約24cm）からなる泥層が堆積する。灰～褐灰色泥層の上位は、成層し

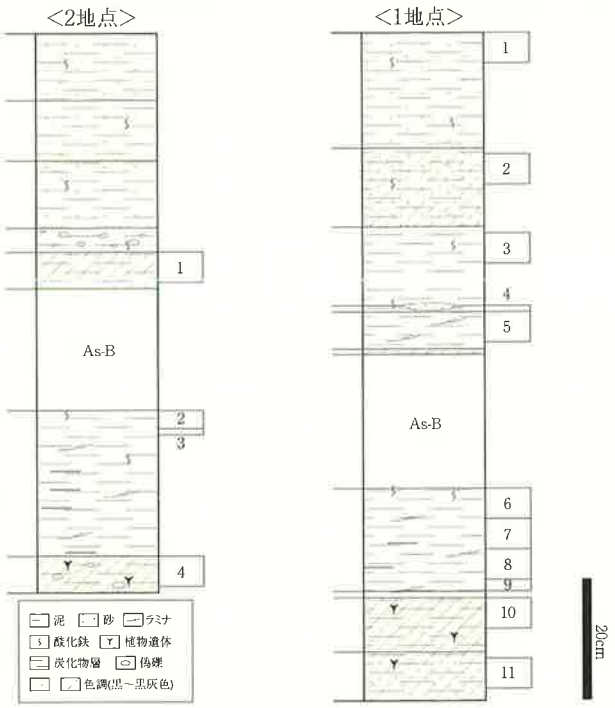


図1. 調査区北壁(1･2地点)の模式柱状図および試料採取位置

たAs-B（層厚約20cm）、黒色シルト（層厚約6cm）が堆積する。黒色シルト上位は、1地点の黒色シルト上位に認められた灰色シルト、灰白色シルト、極細粒砂等の偽礫（亜円～亜角礫状、最大径約5cm）が混じる灰色極細粒砂混じりシルト（層厚約4cm）が堆積する。灰色極細粒砂混じりシルト上位は、軽石混じり灰色シルト（層厚約32cm）が不整合に堆積する。なお、灰色シルトは、軽石の混入の程度および班鉄の発達により、区分される。

今回の分析では、上述した分析目的を踏まえ、1地点および2地点のそれぞれAs-B直下の堆積層より採取した土壌試料2点（1地点 試料番号6、2地点 試料番号2）を対象に、植物珪酸体分析を実施する。

2　分析方法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤（2010）の分類を参考に同定、計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「＜100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め（100単位にする）、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、植物珪酸体含量を図示する。

3　結果

結果を表1、図2に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、各地点の産状を記す。

(1) 1地点

1地点の灰～褐灰色泥層の最上部（試料番号6）の植物珪酸体含量は約2.0万個/gである。ヨシ属の含量が最も高く、メダケ属（ネザサ節）を含むタケ亜科、ススキ属を含むウシクサ族等が検出される。栽培植物では、イネ属が検出される。その含量は、短細胞珪酸体が約100個/g、機動細胞珪酸体が約300個/gである。

(2) 2地点

2地点の灰～褐灰色泥層の最上部（試料番号2）の植物珪酸体含量は、1地点よりも低く、約8,000個/gである。検出された分類群では、ヨシ属の含量が高く、メダケ属（ネザサ節）を含むタケ亜科、ススキ属を含むウシクサ

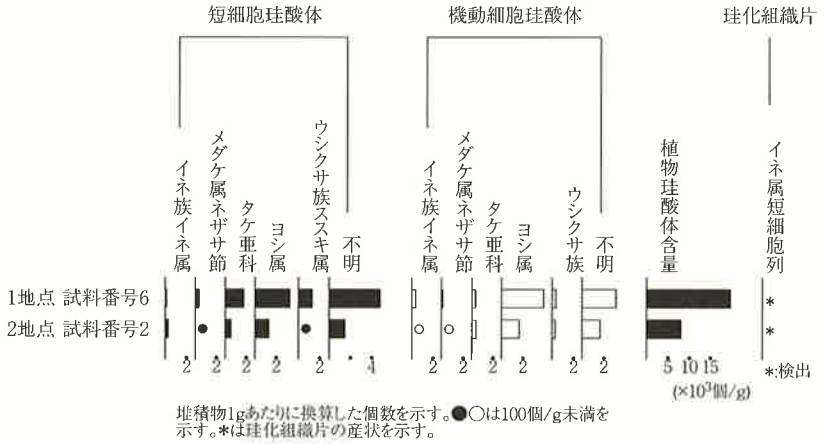


図2. 植物珪酸体含量

族等も認められる。栽培植物では、1地点と同様にイネ属が検出される。その含量は、短細胞珪酸体が約300個/g、機動細胞珪酸体が100個/g未満である。

なお、2試料中には、植物珪酸体の他に珪藻化石も数多く認められた。分析処理の過程で小型の珪藻や殻の薄い珪藻は消失したと考えられるが、確認された珪藻化石には低湿地に見られる分類群が多く、流水域に生育する分類群はほとんど認められなかった。

表1. 植物珪酸体含量 (個/g)

分類群	1地点 6	2地点 2
イネ科葉部短細胞珪酸体		
イネ族イネ属	100	300
メダケ属ネザサ節	300	<100
タケ亜科	1,700	600
ヨシ属	3,300	1,300
ウシクサ族ススキ属	1,300	<100
不明	4,800	1,500
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
イネ族イネ属	300	<100
メダケ属ネザサ節	100	<100
タケ亜科	300	400
ヨシ属	4,000	1,700
ウシクサ族	300	300
不明	3,100	1,700
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	11,500	3,800
イネ科葉身機動細胞珪酸体	8,300	4,200
植物珪酸体含量	19,800	8,000
珪化組織片		
イネ属短細胞列	*	*

珪化組織片　*:検出

4　考察

調査区東側の低地部のAs-B直下の灰～褐灰色泥層最上部の植物珪酸体含量は、地点間で多寡があるものの、いずれもヨシ属の含量が高いという特徴を示した。また、試料中に認められた珪藻化石には、流水域の環境を示す分類群はほとんど認められず、沼沢地等に認められる分類群が多く確認された。

As-B直下の堆積層は、葉理構造を有する泥を基質とする堆積物であったことから、河川等の氾濫や増水に伴う堆積物等の累重が考えられる。また、やや腐植質な堆積物や炭化物層の薄層が挟在する様子も確認されたことから、As-B直下の泥を基質とする堆積物の形成された期間には、砕屑物が供給された時期と、砕屑物の供給のない比較的安定した時期とがあったと推定される。さらに、今回の分析結果を考慮すると、低地部は、河川の氾濫や増水の影響を受けやすい環境にあり、湿潤な場所を好むヨシ属が生育する湿地のような状態であったと考えられる。

なお、1地点および2地点の各試料からは、栽培植物のイネ属が検出された。その含量は、短細胞珪酸体が約100～300個/g、機動細胞珪酸体が100個/g未満～300個/gであった。水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料1g当り5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている（杉山,2000)。上記した判断基準を目安とすると、今回の試料におけるイネ属の含量は極めて低いことから、As-B降灰直前頃の低地部において稲作が行われていた可能性は低い。おそらく、隣接地や集水域における稲作やイネの植物体の利用を示していると推定される。

また、2試料からは、ヨシ属や栽培植物のイネ属のほかに、ネザサ節やススキ属には開けて乾いた場所に生育する分類群を含むネザサ節やススキ属も検出された。これらは、低地部から住居跡等が検出された微高地等に生育したイネ科植物に由来すると考えられる。

引用文献

新井房夫,1979,関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層.考古学ジャーナル,157,41-52.

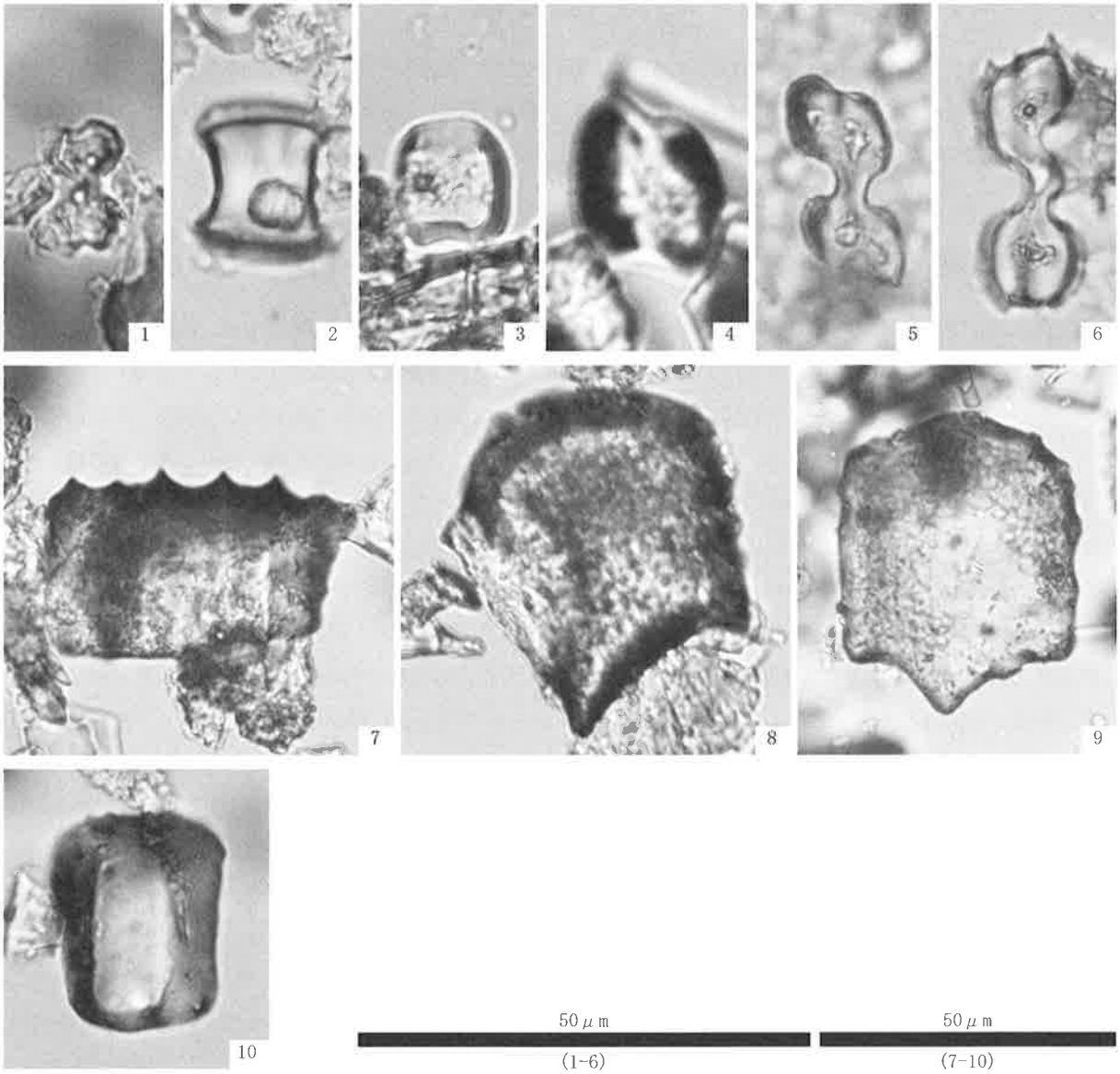
近藤錬三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.

早田　勉,1991,浅間火山の生い立ち.佐久考古通信,№53,2-7.

早田　勉,2004,火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史-とくに平安時代の噴火について.かみつけの里博物館第12回特別展　1108　浅間火山,中世への胎動.45-56.

杉山真二,2000,植物珪酸体（プラント・オパール).辻　誠一郎（編著）考古学と自然科学3　考古学と植物学,同成社,189-213.

図版1 植物珪酸体



1. イネ属短細胞珪酸体(2地点;2)
2. ネザサ節短細胞珪酸体(1地点;6)
3. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点;6)
4. ヨシ属短細胞珪酸体(2地点;2)
5. ススキ属短細胞珪酸体(1地点;6)
6. ススキ属短細胞珪酸体(2地点;2)
7. ネザサ節機動細胞珪酸体(2地点;2)
8. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点;6)
9. ヨシ属機動細胞珪酸体(2地点;2)
10. ウシクサ族機動細胞珪酸体(2地点;2)

Ⅶ　まとめ

今回の発掘調査により、１・２区を合わせて竪穴住居跡24軒、掘立柱建物１棟、溝18条、井戸２基等を検出した。また、１区から２区中央へ展開する居住域としての微高地と、２区東側の低所となる区域の広がりを確認した。ここでは本調査で確認した遺構を概観し、主要な遺構等については個別に検討を行ない、まとめとしたい。

１　調査の成果

本調査においては、弥生時代以前に該当する遺構・遺物は検出しなかった。この様相は、周囲の遺跡においても土器片が散発的に見られる程度のようで、まとまった形での遺構・遺物の検出例はなく、本遺跡もその例外ではないものと考えられる。続く古墳時代については、遺物として両調査区の表土層および住居跡・溝等の遺構覆土から散発的に埴輪小片が数点出土したのみであり、後述する溝群の所属時期が不明瞭な点があるものの、確実に古墳時代に属する遺構の検出には至らなかった。

古代の遺構としては、本遺跡で検出した遺構のほぼ全てがこの時期に該当するものと思われる。１区の竪穴住居跡は９世紀後半～10世紀代を中心として展開しており、一部は11世紀まで継続する。２区の竪穴住居跡については、後世の攪乱等の影響により住居跡の全容が明らかなものはないが、少数の出土遺物から鑑みると１区と同様に９世紀～10世紀の年代を想定でき、本遺跡に展開する集落の主要年代を示している。これらの住居跡の主軸方向は一部例外もあるが、概ね９世紀代の住居跡がN－84°－E、10世紀代の住居跡はN－79°－E、11世紀以降にはN－90°－Eの平均値を持つことから、それぞれの時期毎にある程度の主軸方向の指向性が看取できる結果となっている。竈については基本的に東壁に設置されるが、唯一の例外として１区H－14号住居跡のみが南壁に竈を作り付けている。また、本調査で検出した竪穴住居跡の中で特筆されるものは１区H－15・19号住居跡であり、「Ⅴ　遺構と遺物」でも詳細を記したように残存状況の良好な炭化材や焼土塊が多く出土しており、「焼失住居」と目されるものである。これについては別に検討を行なうこととする。

また、本調査では古代に属すると思われる溝を多数検出しており、両調査区合わせて18条の検出に至っている。18条検出した溝の内訳は、１区14条・２区４条であり、特に１区では東西方向の溝と南北方向の溝が重なり合い、網の目状の溝群を呈している。この１区の14条の溝は、南北方向に走る溝が先行し、東西方向に走行するやや規模の大きい溝が後出すると思われる。なかでもW－11・12号溝は、幅2.3～2.8ｍ・深さ0.8～0.9ｍと規模や走行方向が類似しており、また覆土の状況から埋没時期もほぼ同時と考えることができ、両遺構が併存していたことが示唆される。これら溝群の時期については、覆土の上に竪穴住居跡が営まれることを確認しており、重複関係からは若干の時期差はあろうが概ね９世紀代を下限とすることが妥当のように思われる。上限についてはW－11号溝の最下層から円筒埴輪の小破片が出土しているものの、後世の流入も十分に考えられ、本調査では時期の特定には至らなかった。なお、遺構の性格については本遺跡周辺に広がるであろう水田等の生産域への給水路の可能性も考えられるが、現状では不明とせざるを得ず、今後の周辺での調査事例の追加を待って、改めて検討を要する。

２区で検出した溝についてはW－２号溝以外は、覆土中にAs-B軽石の一次堆積層およびAs-Kk軽石が良好に堆積しており、埋没時期が12世紀初頭（1108年）と特定できるものである。W－２号溝については個別の遺構名称を付しているが、「Ⅴ　遺構と遺物」でも記したように、W－１号溝と同一の遺構となり埋没段階での時期差を示している可能性も考えられる。なお、覆土の土質は１区W－11・12号溝の覆土に類似した暗褐色砂質～粘質シルトを主体としており、調査区外北側において湾曲し、いずれかと合流する可能性もある。

2 「焼失住居」について

ここでは1区H－15・19号住居跡で確認した「焼失住居」について概観し、若干の検討を行ないたい。

1区H－15号住居跡　ほぞ穴と思われる炭化材

竪穴住居跡から炭化材・焼土等が検出される事例については、早くは大川清氏や寺沢薫氏らによって、分類・火災要因の考察が試みられ（大川1954、寺沢1979）、全国的にも発掘調査による遺跡ごとの焼失住居の分析が進められた。その中で、石野博信氏が集成・類型化を試み、火災要因についての論及を行なっている（石野1990）。この論考では、石野氏自身が「類型化と意義が先行したことと、資料収集の不十分さ」に課題があるとしながらも、弥生時代から平安時代にかけての火災住居を集成している。これらの火災住居の炭化材・焼土・遺物の出土状況等を基準として類型の設定を行ない、そこで設定した各火災類型の意義について検討する。その結果として火災要因について、失火・放火（忌避的放火・住居の焼却・戦火）・飛火（類焼）等の3パターンを推定し、火災要因と各火災類型との関連性について推察されている。また、集落内での火災住居の在り方についても論及されており、火災住居について考えるうえで、重要な視点を喚起しているものと言える。

また、群馬県内では石守晃氏が復元住居を用いた焼失実験を行なっており（石守1995・2001）、土葺き屋根の住居で炭化材が放射状に遺存する事実を明らかにするとともに、住居の焼失過程についても詳細に観察・分析されている。以下では、石野・石守両氏の論考を参考として、本遺跡で検出したH－15・19号住居跡の焼失住居についての、若干の検討を行なっていく。

H－15号住居跡は、住居壁際を中心として炭化材が遺存する状況を確認した。また、住居全体に亘り焼土が分布している状況も見受けられる。特に住居北側での炭化材の広がりが顕著であり、角材・丸材・板材と思われる炭化材を検出している。出土状況としては、残存状態の良好な箇所を見ると、角材・丸材を上位とし下に板材が、これらの中間および床面直上には藁・茅類と思われる炭化材が認められる。出土状況から角材・丸材は柱・垂木等の一部であると思われ（ほぞ穴と思われる加工痕が残る部材も含む）、下層から出土した板材については、壁材の可能性が考えられる。藁・茅類について、石野氏は「特定することは意外に難しい」と断りながらも、炭化材の間からの出土は葺代、最下層の床面直上からの出土は敷物と考えられることが多いとしており、ここでは氏の見解に従っておきたい。

次に土器等の生活痕跡に伴う遺物の出土状況についてであるが、石野氏は出土量の多い住居跡を「日常用具を運び出すゆとりがなかった火災」、出土量の少ない住居跡については「日常用具を運び出したあとの焼失」としている。この点を勘案すると、H－15号住居跡の遺物は実測遺物として6点、破片資料を合わせて200点弱（未接合資料含む）の遺物が出土しており、本遺跡の住居跡出土遺物としては相対的に多いものとなっている。また、竈の残存状況は良好であり両袖石および天井石が架けられたまま検出している。さらにほぼ完存の土釜が竈に掛けられた状態で出土している。これらの出土状況から、竈については当時の使用状態のまま残存しているものと思われる。

上述のような出土遺物・竈の残存状況を鑑みると、土器の持ち出しは想定できず、突発的な火災に遭ったための緊急的な非難の様相を窺うことができる。これは炭化材・焼土等が住居の床面直上から層的に堆積しており、床面と炭化物の間に埋没土が見られないことからも、住居の使用停止から焼失までの間に時間差が無かったこと

を証左するものと考えられる。また、本遺構の火災要因としては、石野氏の分類される放火（忌避的放火・住居の焼却・戦火）の痕跡は認められず、また周辺での同時期の焼失住居を本調査では確認していないことから、現段階では飛火（類焼）の可能性も低いように考えられ、ここでは失火の可能性を指摘しておきたい。失火場所については火災専門家等による検証を経るべきであろうが、炭化材の遺存が少ない住居南西側付近が火元になる可能性が高いように思われる。

なお、失火後の消化活動・片付けについては、石守氏の実験・分析によると、消火がなされなければ建築材の燃え過ぎとなり、ほとんどの建築材が灰になってしまうため、「どこかで消火しなければ典型的な焼失家屋は出現しなくなる」とされており、本遺跡の焼失住居に関しても同様である可能性も考えられる。しかしながら、炭化材の良好な遺存や、住居ベルトの土層断面の観察から安定した埋没過程を想定できるため、これらの行為については現状では可能性を指摘するに留めておきたい。

H－19号住居跡については、H－15号住居跡と同様に床面直上に遺存状態の良好な炭化材・焼土が堆積する。炭化材は角材・丸材を中心に、藁・茅類と思われるものも含み、出土した炭化材の構成としてはH－15号住居跡と同様である。しかしながら、その出土状況はH－15号住居跡との相違点を挙げることができる。H－15号住居跡が住居壁際を中心に炭化材の遺存が見られるのに対し、H－19号住居跡の炭化材・焼土はほぼ住居全面に認められるものの、特に残りの良好なものについては住居壁際には少なく、住居中央に多いといった偏りをもって遺存する。炭化材以外の出土遺物は図示した羽釜のほか、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、灰釉陶器等が挙げられ、出土量も本調査地内での住居跡に比べると相対的に多いことから、火災要因についてはH－15号住居跡と同様に失火を推定しておく。失火場所は上述のように住居中央に残存状態の良好な炭化材の分布が偏在することから、竈周辺（竈についてはH－17号住居跡により削平される）ないしは住居周縁部と考えられる。なお、遺構の出土遺物および重複関係から、H－15号住居跡より古い時期を想定でき、それぞれの間での飛火（類焼）関係はないものと思われる。失火後の消火活動・片付けについては、後世の削平により住居上面の削平が強く、遺構確認面で既に炭化材の散布が認められるほどで、覆土の堆積については不明瞭であるが、炭化材の良好な遺存から見ると、H－15号住居跡と同様にこれらの行為はなされなかったものと考えられる。

以上、本調査で検出した２軒の「焼失住居」について既存の研究事例によりながら概観したが、（１）いずれの住居跡についても火災要因は突発的な火災であり、（２）要因としては失火の可能性が高いとものと思われる。また、（３）それぞれの住居間には時期差があることから飛火（類焼）関係はないものと思われ、本調査地での集落内火災は一時期に１軒であったと推定できる。この３点を本調査で検出した焼失住居の特徴として指摘することができよう。

３　遺跡周辺の土地環境について

本調査では、集落の展開する微高地（１区～２区中央）と、東側の低所となる区域（２区中央から東側、以下低地部と表す）の広がりを確認した。低地部には浅間Ｂテフラの良好な堆積が見られ、一部では浅間粕川テフラの堆積も確認できた。特に浅間Ｂテフラは、これまでの研究により天仁元（1108）年に浅間山が噴火した際に上野国を中心に降下したものとされ、「国内の田畠が壊滅状態（『中右記』）」となった。この火山灰により埋没した水田が所謂 As-B 下水田跡である。本遺跡の周辺は明瞭な条里地割の残る地域であり、特に本遺跡南の北関東自動車道および関連の発掘調査により、As-B 下水田跡の検出例が増加し、それに伴い発掘調査により検出した水田跡を基にした面的な条里地割の検討がなされるようになっている（神宮・前田 2010 ほか）。ここでは、本遺跡で確認した低地部の土地環境について触れたい。

本遺跡の試掘調査段階で、この低地部・As-B 軽石の堆積を確認しており、As-B 下水田跡の検出が想定された。

しかしながら、本調査においてAs-B軽石を除去すると、褐～褐灰色粘質土を基盤とする土層の広がりを確認した。この層は一般的に見られる水田跡土壌と様相を異にし、伴う畦畔の検出にも至らなかった。このことから、水田跡である可能性は低くなり、当時の土地利用（稲作の可能性）の検討を目的として、自然化学分析を実施した。主とした植物珪酸体分析の詳細・結果については「Ⅵ　自然科学分析」に記されているが、ヨシ属の含量が高く流水域の環境を示す分類群はほとんど認められないことから、低地部の土地環境は沼沢地等であったと推定されている。さらにAs-B軽石直下の堆積層は、葉理構造を有する泥を基質とする堆積物であり、河川等の氾濫や増水に伴う堆積物等の累重である可能性も指摘されている。今回の分析結果・遺構の検出状況から総合的に考慮すると、低地部は河川の影響を被りやすい環境で、湿潤な場所を好むヨシ属が生育する湿地のような状態と判断でき、水田の経営の可能性は極めて低いものである。なお、集落の展開する微高地と低地部の境界には、畦畔状の高まりが巡る。断ち割りでの断面観察から、盛土ではなく地山を削っての成形を確認している。当初は水田に伴うものかと思われたが、上述のように低地部は水田面の可能性がきわめて低いことから、この高まりの性格については明らかではないため、現状では微高地と低地部を画するための一施設として評価しておきたい。

本調査で検出したこの低地部については、東の広瀬川右岸の自然堤防に沿って南東方向に伸びると想定される低地部の一部に当たると思われる。これらの状況と条里地割の不明瞭な部分に当たること等を合わせて考慮すると、本遺跡東側に走る低地部には水田跡の展開する可能性は低く、湿地が広がっていたものと考えられる。しかしながら、上述したように本遺跡以南には明瞭な条里地割が認められ、本遺跡は微高地上に展開する集落の南端に当たり、今後の調査で本遺跡南側において集落域と生産域との明瞭な境界が確認されることが予見される。

4　結

今回の調査では微高地際に展開する集落の在り方やAs-B軽石降下前の土地環境の在り方についての一端が明らかとなった。上述したように、本遺跡以南は県内でも水田遺構の調査事例が多い地域であり、今後の調査事例の蓄積により集落域と生産域を含めた土地利用について、明確になることが期待される。

最後ではあるが、厳しい寒さ、また、3月11日に発生した東日本大震災により、社会的にも不安定となる中で調査に従事された作業員の方々、さらに現地調査・整理作業・報告書作成に御指導、御協力頂いた方々に感謝の意を記し、結びとしたい。

〈引用・参考文献〉

新井　仁　2001「群馬県における平安時代の水田開発について - 前橋台地南部を中心とした試論 - 」『研究紀要』19　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

新井　仁　2008「条里地割導入後の水田と集落の一様相 - 前橋台地南部地域を中心として - 」『研究紀要』26　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

飯島義雄　2010「浅間Ｂテフラ直下水田の総合的再検討に向けての予察 - プラント・オパール分析による放棄時期の問題提起を受けて - 」『研究紀要』28　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

石野博信　1990「第五章　火災住居跡の課題」『日本原始・古代住居の研究』　吉川弘文館

大川　清　1954「竪穴焼土考」『安房勝山田子台遺跡』　千葉県教育委員会

石守　晃　1995「復元住居を用いた焼失実験の成果について」『研究紀要』12　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

石守　晃　1999「竪穴住居と竪穴住居遺構に就いて - 多比良追部野遺跡の古墳時代後期の竪穴住居をサンプルとして - 」『研究紀要』17　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
石守　晃　2001「復元住居を用いた焼失実験再び」『研究紀要』19　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
石守　晃　2003「焼失実験と関東北部の焼失住居」『考古学ジャーナル』
かみつけの里博物館編　2004　第12回特別展図録『1108 - 浅間山噴火 - 中世への胎動』　かみつけの里博物館
工楽善通　1991『水田の考古学』UP考古学選書12　東京大学出版会
小峰　篤・吉沢　貴　2001『山王若宮Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
斉藤英敏　2003「水田跡研究の新視点 - 群馬県における水田跡理解の現状 - 」『考古学研究』第50巻第2号　考古学研究会
坂口　一・三浦京子　1986「奈良・平安時代の土器の編年 - 住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討 - 」『群馬県史研究』24　群馬県史編さん委員会
坂口好孝・佐藤則和　1997『宮地中田遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
神宮　聡・前田和昭　2010『南部拠点地区遺跡群№4』　前橋市教育委員会
高橋　亨・神宮　聡　2007『馬場東矢次遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
高橋　学　1989「埋没水田遺構の地形環境分析」『第四紀研究』第27巻第四号　日本第四紀学会
高山　剛・小峰　篤・井上唯雄　2003『史跡　八幡山古墳』　前橋市教育委員会
田中　雄　2002「群馬県条里制研究資料の収集と課題」『研究紀要』20　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
寺沢　薫　1979「火災住居覚書 - 大阪府観音寺山遺跡復元住居の火災によせて - 」『青陵』40号　橿原考古学研究所
外山政子　1989「群馬県地域の土師器甑について」『研究紀要』6　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
能登　健　1983「群馬県下における埋没田畠調査の現状と課題 - 火山災害史への考古学的アプローチ - 」『群馬県史研究』17　群馬県史編さん委員会
広瀬和雄　1996「条里制」『考古学による日本歴史16 - 自然環境と文化 - 』雄山閣
松下　勝　1989「水田遺構と自然科学」『第四紀研究』第27巻第四号　日本第四紀学会
三浦京子・黒沢はるみ　1989「平安時代の煮沸土器について - 土釜とは何か - 」『研究紀要』6　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
横倉興一　1986「上野国府周辺における条里遺構の問題点」『条里制研究』2　条里制研究会
横倉興一　2000「概説　古代の水田・畠」『新編高崎市史』資料編2　原始・古代Ⅱ　高崎市史編さん委員会
横倉興一・田村　孝　2003「浅間山の噴火と古代水田」『新編高崎市史』通史編1　高崎市史編さん委員会

写真図版

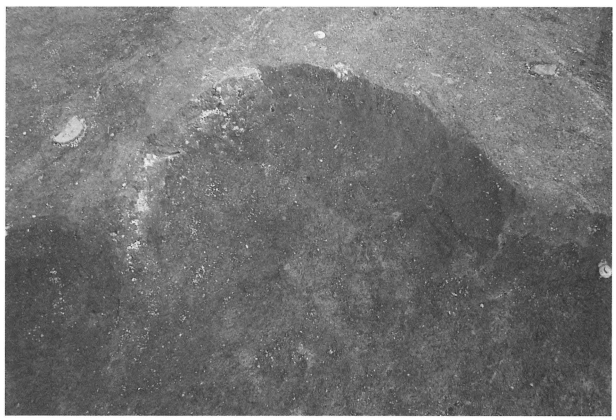
1区　H－1号住居跡　全景（西から）

1区　H－1号住居跡竈　全景（西から）

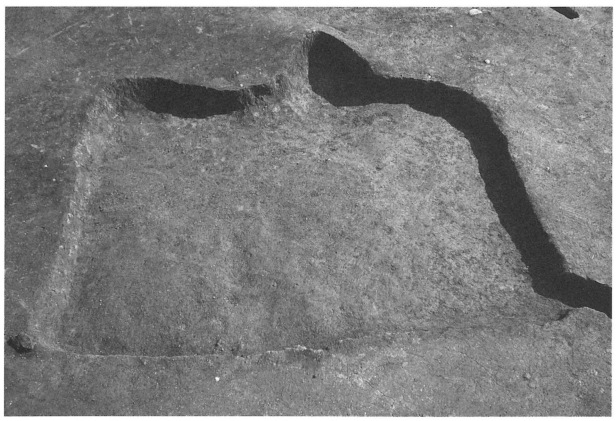
1区　H－2号住居跡　全景（西から）

1区　H－2号住居跡竈　全景（西から）

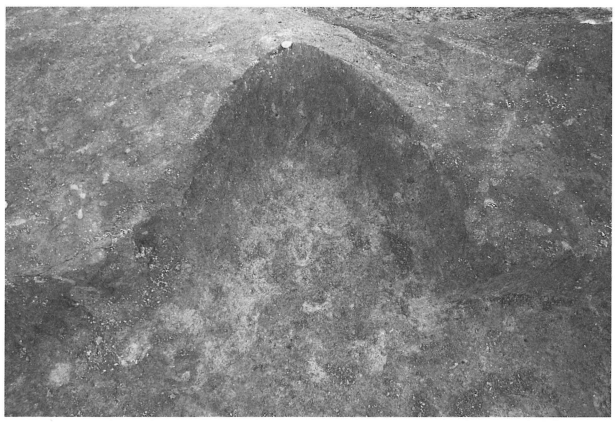
1区　H－3号住居跡　全景（西から）



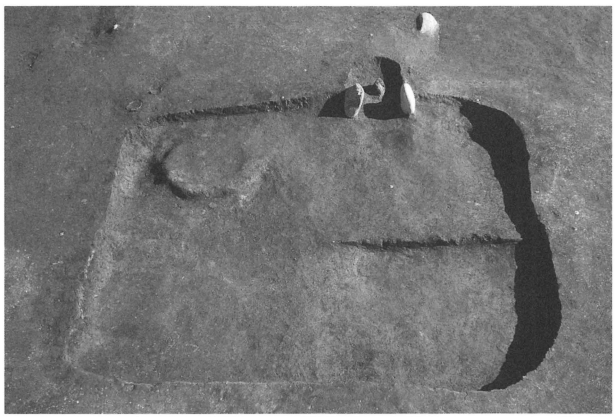
1区　H－3号住居跡竈　全景（西から）



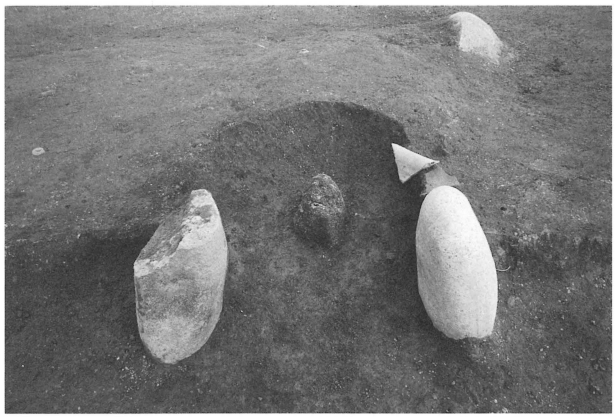
1区　H－4号住居跡　全景（西から）



1区　H－4号住居跡竈　全景（西から）



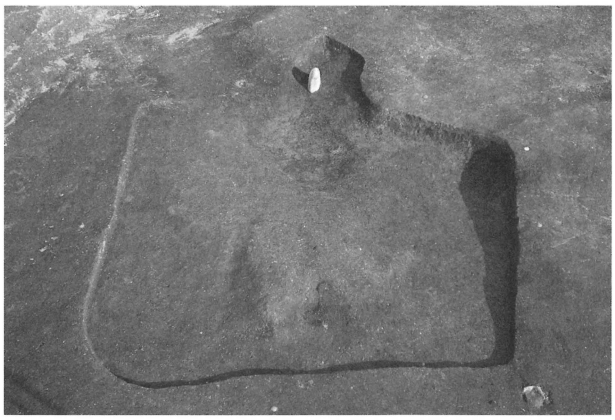
1区　H－5号住居跡　全景（西から）



1区　H－5号住居跡竈　全景（西から）

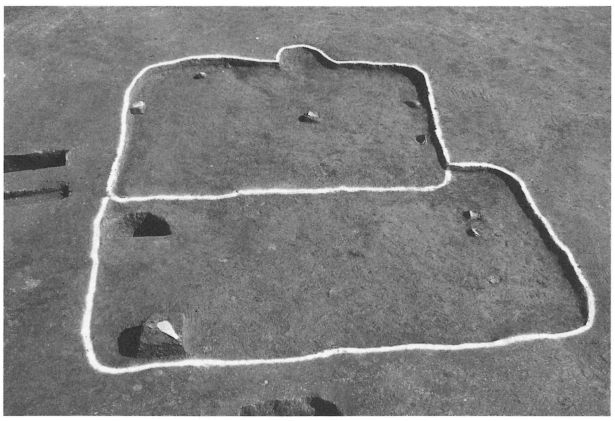
1区　H－6号住居跡　全景（西から）

1区　H－6号住居跡竈　全景（西から）

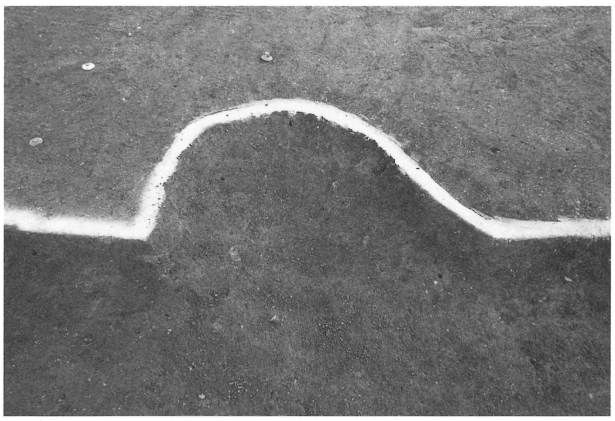


1区　H－7号住居跡　全景（西から）

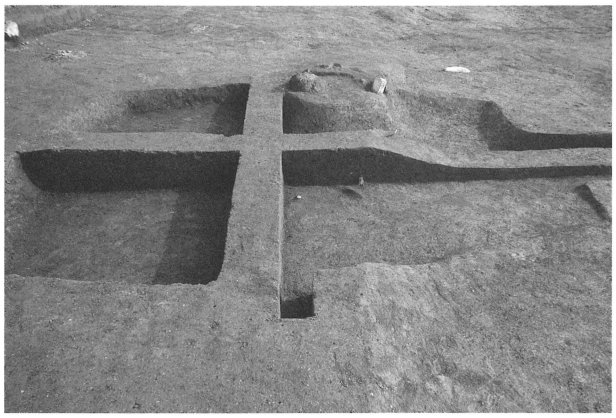
1区　H－7号住居跡竈　全景（西から）



1区　H－8・12号住居跡　全景（西から）



1区　H－8号住居跡竈　全景（西から）



1区　H－9・13号住居跡竈　全景（西から）

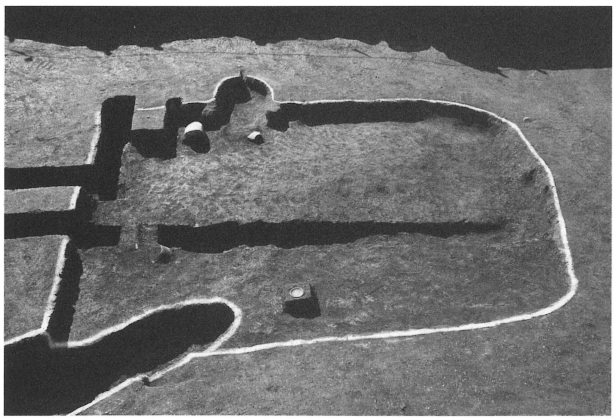
1区　H－10号住居跡　全景（西から）

1区　H－10号住居跡竈　全景（西から）

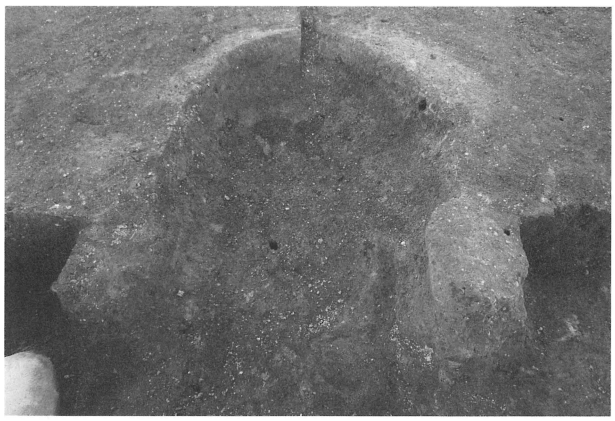
1区　H－11号住居跡　全景（西から）

1区　H－11号住居跡竈　全景（西から）

1区　H－13号住居跡竈　遺物出土状況（西から）

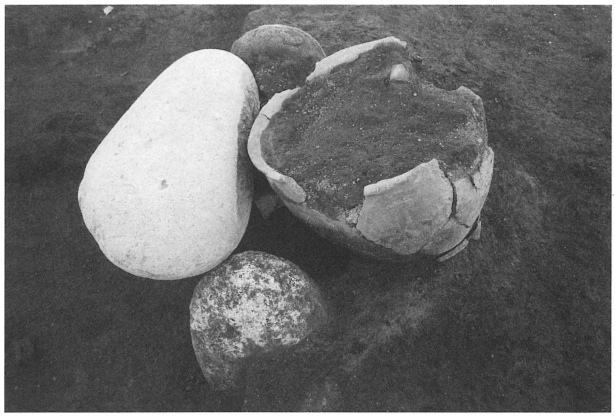


1区　H－14号住居跡　全景（北から）

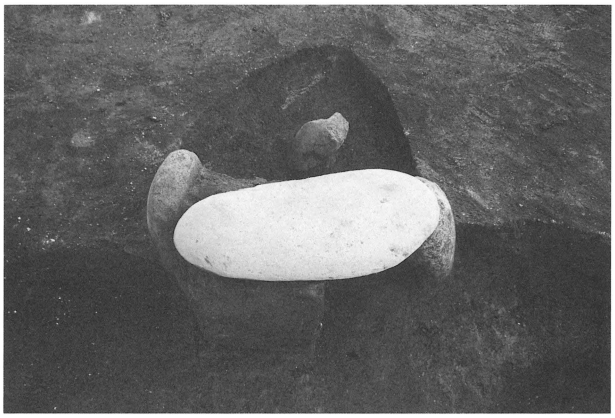


1区　H－14号住居跡竈　全景（北から）

1区　H－15号住居跡　全景（西から）



1区　H－15号住居跡竈　遺物出土状況（南から）

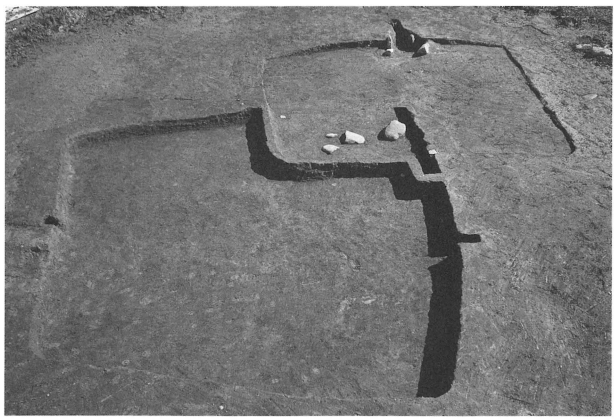


1区　H－15号住居跡竈　全景（西から）

1区　H－15号住居跡　炭化材検出状況（北西から）

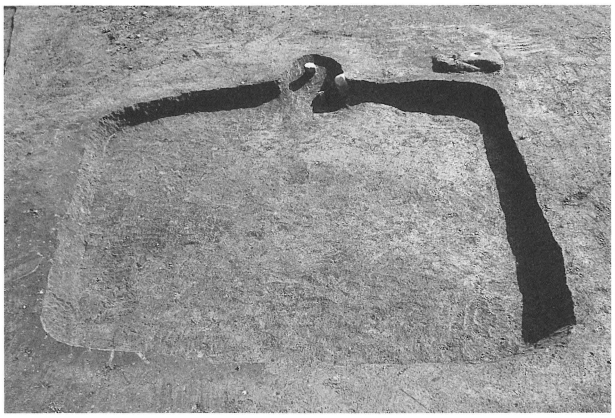
1区　H－16号住居跡　全景（西から）

1区　H－16号住居跡竈　全景（西から）



1区　H－17・19号住居跡　全景（西から）

1区　H－17号住居跡竈　全景（南西から）



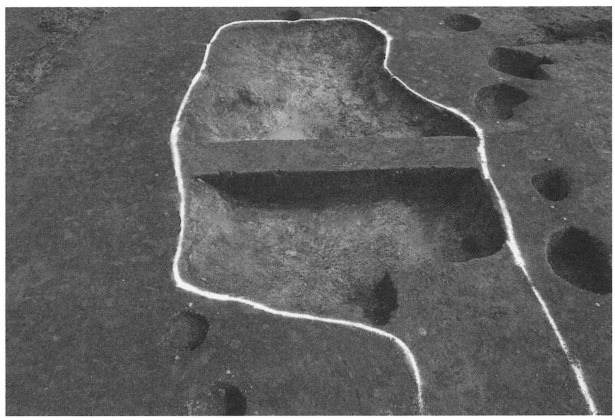
1区　H－18号住居跡　全景（西から）

1区　H－18号住居跡竈　全景（西から）

1区　H－19号住居跡　炭化材出土状況（西から）

1区　H－19号住居跡　遺物出土状況（南から）

1区　溝群　全景（南西から）

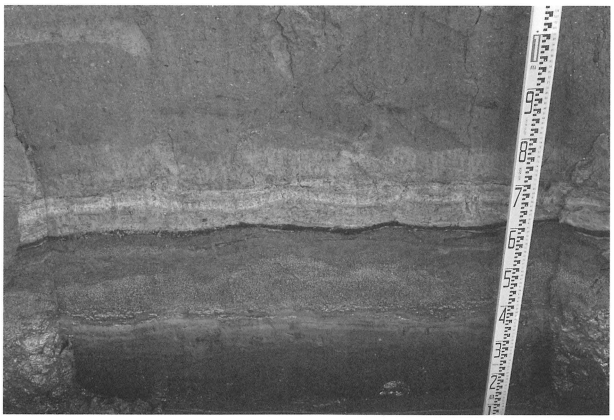


1区　W－3号溝　全景（西から）

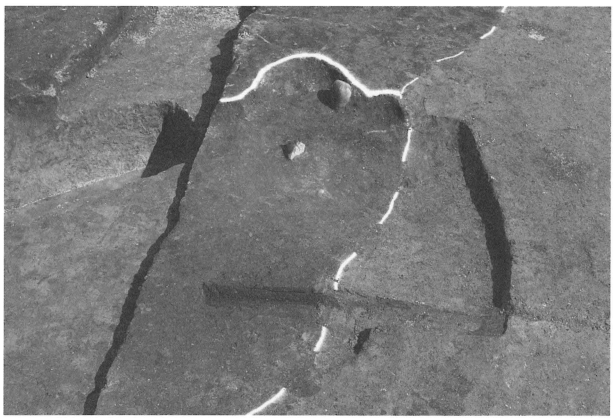
1区　調査風景

朝倉小学校遺跡見学会

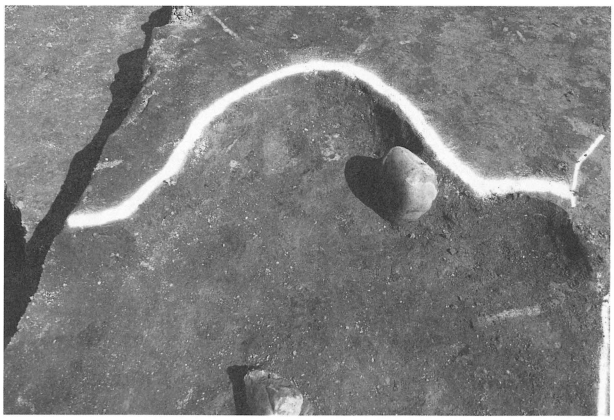
２区　調査区近景（東から）



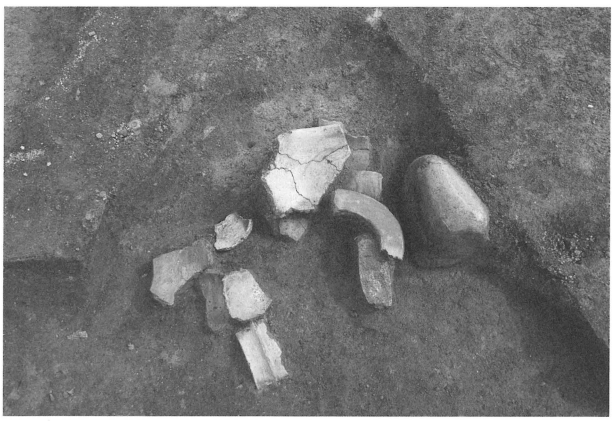
２区　基本層序Ｂ



２区　Ｈ－１号住居跡　全景（西から）



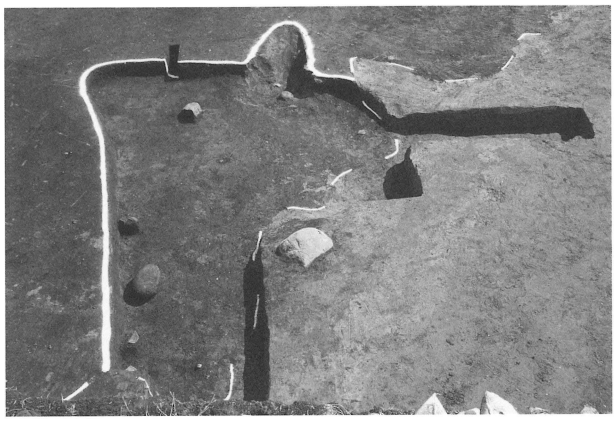
２区　Ｈ－１号住居跡竈　全景（西から）



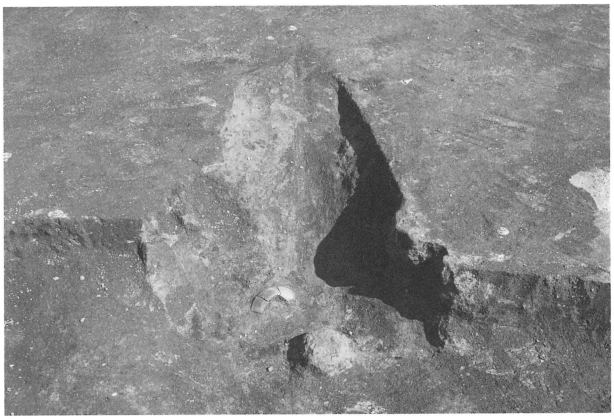
２区　Ｈ－１号住居跡竈　遺物出土状況（西から）

2区　H－2号住居跡　全景（西から）

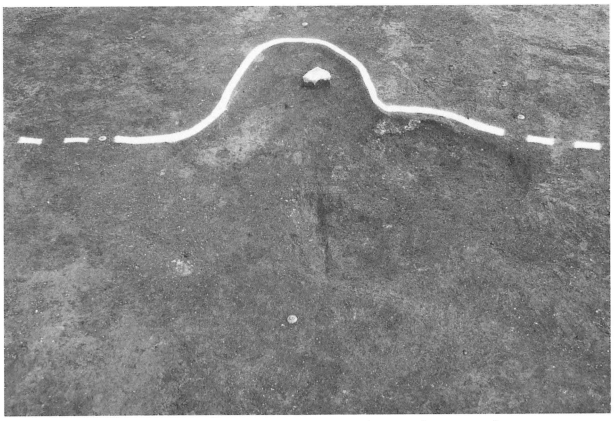
2区　H－2号住居跡竈　全景（西から）



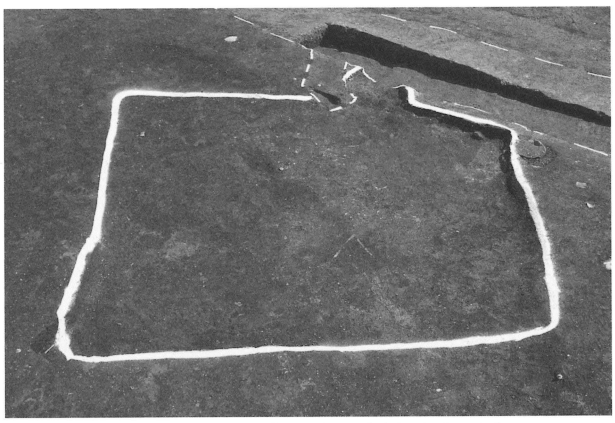
2区　H－3号住居跡　全景（西から）



2区　H－3号住居跡竈　全景（西から）

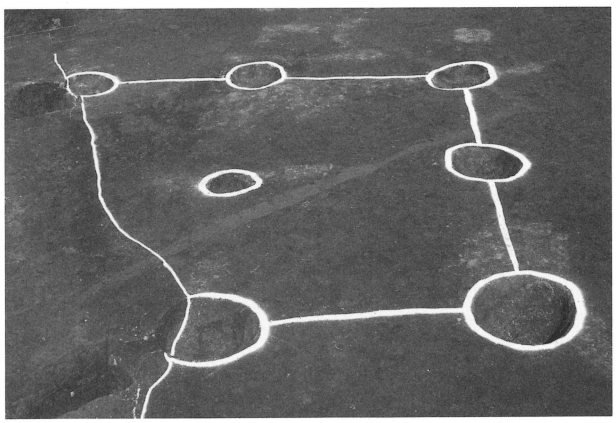


2区　H－4号住居跡　全景（西から）

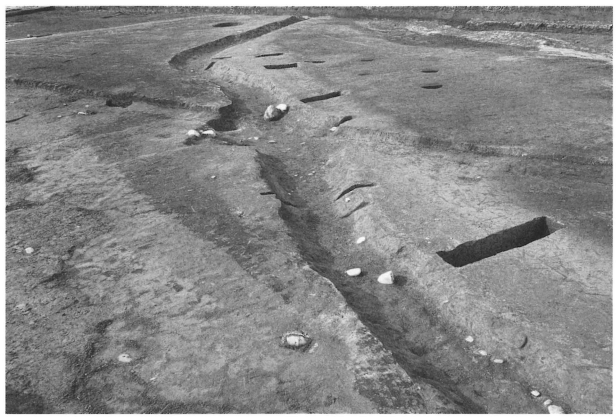


2区　H－5号住居跡　全景（西から）

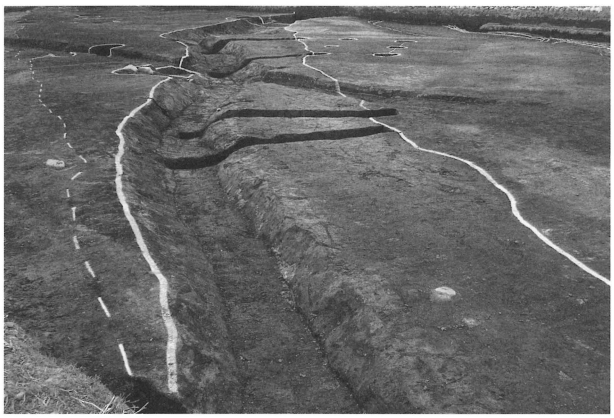
2区　H－5号住居跡竈　全景（西から）



2区　B－1号掘立柱建物跡　全景（南から）



２区　Ｗ－１号溝　全景（南から）



２区　Ｗ－２号溝　全景（南から）

２区　Ｗ－１・２号溝　SPA（南から）

２区　Ｗ－４号溝　全景（南から）

２区　Ｗ－４号溝　SPA（南から）

２区　Ｉ－１号井戸　SPA（南から）

２区　調査風景

２区　調査風景

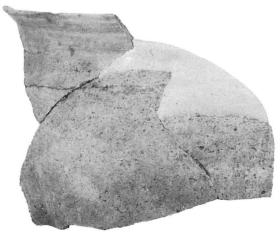
1区H-1-1

1区H-1-2

1区H-1-3

1区H-1-4

1区H-1-8


1区H-1-7

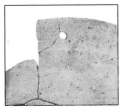
1区H-1-5

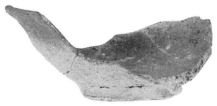
1区H-1-6

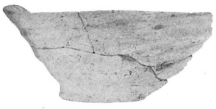
1区H-2-1

1区H-2-2

1区H-3-1




1区H-2-3


1区H-3-2

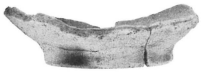
1区H-3-3

1区H-3-6 (1/6)

1区H-3-4

1区H-3-5

1区H-3-7


1区H-4-1

1区H-4-2

1区H-4-3

1区H-5-1

1区H-4-4

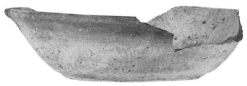
1区H-5-2

1区H-5-4

1区H-5-3

1区H-6-1

1区H-6-2


1区H－6－3

1区H－6－4

1区H－6－5

1区H－7－1

1区H－7－2

1区H－7－3

1区H－8－1

1区H－9－1

1区H－9－2

1区H－10－1

1区H－10－2

1区H－11－1

1区H－11－2

1区H－13－1

1区H－14－1

1区H－14－2

1区H－15－1

1区H－15－2

1区H－15－3

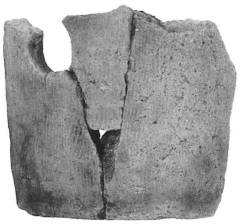
1区H－15－5

1区H－16－1

1区H－15－4

1区H－16－2

1区H－19－1


1区H－17－1

1区H－16－3

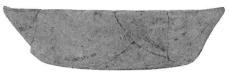
1区H－16－4

1区W－4－1

1区W－4－2

1区W－4－3

1区W－4－4

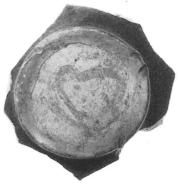

1区W－4－5

1区W－5－1

1区W－5－2

1区W－6－1

1区W－10－1


1区遺構外（グリッド）－1

1区遺構外（グリッド）－2

1区遺構外（グリッド）－3

1区遺構外（グリッド）－4

1区遺構外（グリッド）－5

1区遺構外（グリッド）－6

1区遺構外（グリッド）－7

1区遺構外－1

2区H－1－1

2区H－1－2（1/6）

2区H－2－1

2区H－2－2

1区遺構外－2
（1/2）

2区W－1－1

2区D－4－1

2区遺構外－1

報告書抄録

フリガナ	アサクライセニシNo.1イセキ
書名	朝倉伊勢西No.1遺跡
副書名	（都）江田天川大島線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	福田貫之・山田誠司
編集機関	技研測量設計株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町1－15－3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町2－10－2
発行年月日	2011年10月31日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
あさくらいせにしいせき 朝倉伊勢西No.1遺跡	まえばししあさくらまち 前橋市朝倉町 147、159、160番	10201	22G71	36°21'50"	139°05'51"	20101224 20110315	3,500㎡	（都）江田天川大島線道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉伊勢西No.1遺跡	集落 その他	奈良・平安時代	住居跡　24軒 掘立柱建物跡1棟 溝跡　18条 井戸　2基 土坑　12基 ピット　67口	土師器 須恵器 灰釉陶器 石製品 鉄製品 かわらけ 他	「焼失住居」2軒

朝倉伊勢西No.1遺跡
（都）江田天川大島線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011年10月21日　印刷
2011年10月31日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0018　群馬県前橋市三俣町2-10-2
TEL　027-231-9531

編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社